

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

からくり山車 舞衣車

Maiginuguruma the Mechanical Float

伊藤俊介 Ito Shunsuke

折り図 Diagrams

アヒル

Duck

作・勝田恭平 折り図・小松英夫

Model: Katsuta Kyohei Diagrams: Komatsu Hideo

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

鯨 川畑文昭

Shachihoko Kawahata Fumiaki

イベント情報 Event Information

第7回 折紙探偵団

関西コンベンション情報

The 7th Origami Tanteidan Kansai
Convention Update



通巻 94 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

表紙解説

鯨 (しゃちほこ)

作: 川畑文昭 (P.35)

Shachihoko

by Kawahata Fumiaki (P.35)

■表情豊かなヒレを折り出すために全てのカードを無駄なく活用、さらに鱗を表現するために仕込んだひだ折りは、全身の自然な曲面や背ビレのトゲトゲしい雰囲気を出すためにも役立ち、まさに「合理的な作品のお手本」となっています。川畑作品ならではのダイナミックな力感に迫るべく、仕上げ段階の微妙な調整にも気を配ってください。 (解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
MAGAZINE
CONTENTS

No. 94



Shachihoko : Kawahata Fumiaki

クローズアップ / Close-up

P.11 **からくり山車 舞衣車**
Maiginuguruma the Mechanical Float
伊藤俊介
Ito Shunsuke

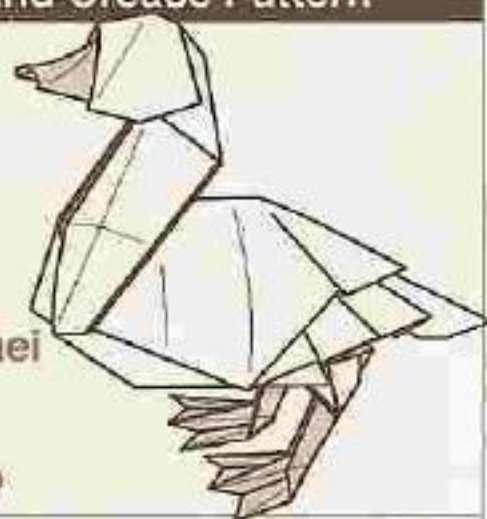
折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22
アヒル

Duck

創作: 勝田恭平
Design: Katsuta Kyohei

折り図: 小松英夫
Diagrams: Komatsu Hideo



P.32

充填八面体・交差四角柱

Packable Octahedron, Crossed Prisms

前川 淳

Maekawa Jun

P.35 **展開図折りに挑戦!**
Crease Pattern Challenge!

鯨

Shachihoko

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

カラーページ / Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 **やわらかユニット物語**
The Stories of Mellow Units

川村みゆき
Kawamura Miyuki

過不足の美
Be much. Be little.

P.8 **おりがみ我楽多市**
Origami Odds and Ends
テトラヒロンのバリエーション
"Tetrahiron" Revisited

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 **アフタヌーン・オリガミ**
Afternoon Origami
吉澤章を受け継ぐ人たち・その2
The legacy of Akira Yoshizawa, part 2

デビッド・ブリル
David Brill

翻訳: 羽鳥公士郎
Translator: Hatori Koshiro

P.16 **おりがみ庵 跳び歩き**
Origamian's Quest for Origami Archives
色刷り展開図 (その2)
Color-Painted Crease Patterns (2)

岡村昌夫
Okamura Masao

P.18 **相も変わらず折紙散歩**
Doing Origami Sampo as (For)ever
六つの紙の風船
Six Paper Balloons

前川 淳
Maekawa Jun

コラム / Columns

P.7 **折り紙の周辺**
Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.30 **おりすじ**
Orisuzi ("Fold-Creases")

藤倉敦夫
Fujikura Atsuo

P.31 **折紙三昧**
Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

第1回折紙探偵団名古屋コンベンションレポート
The 1st Origami Tanteidan Nagoya Convention Report

第7回折紙探偵団関西コンベンション情報
The 7th Origami Tanteidan Kansai Convention Update

熊坂 浩さんご逝去
Obituary: Kumasaka Hiroshi



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第15話 過不足の美

Be much. Be little.

リースなどの平面作品も、ユニットを減らしたり増やしたりするだけでたちまち立体的な形になります。気軽に試してみてください。

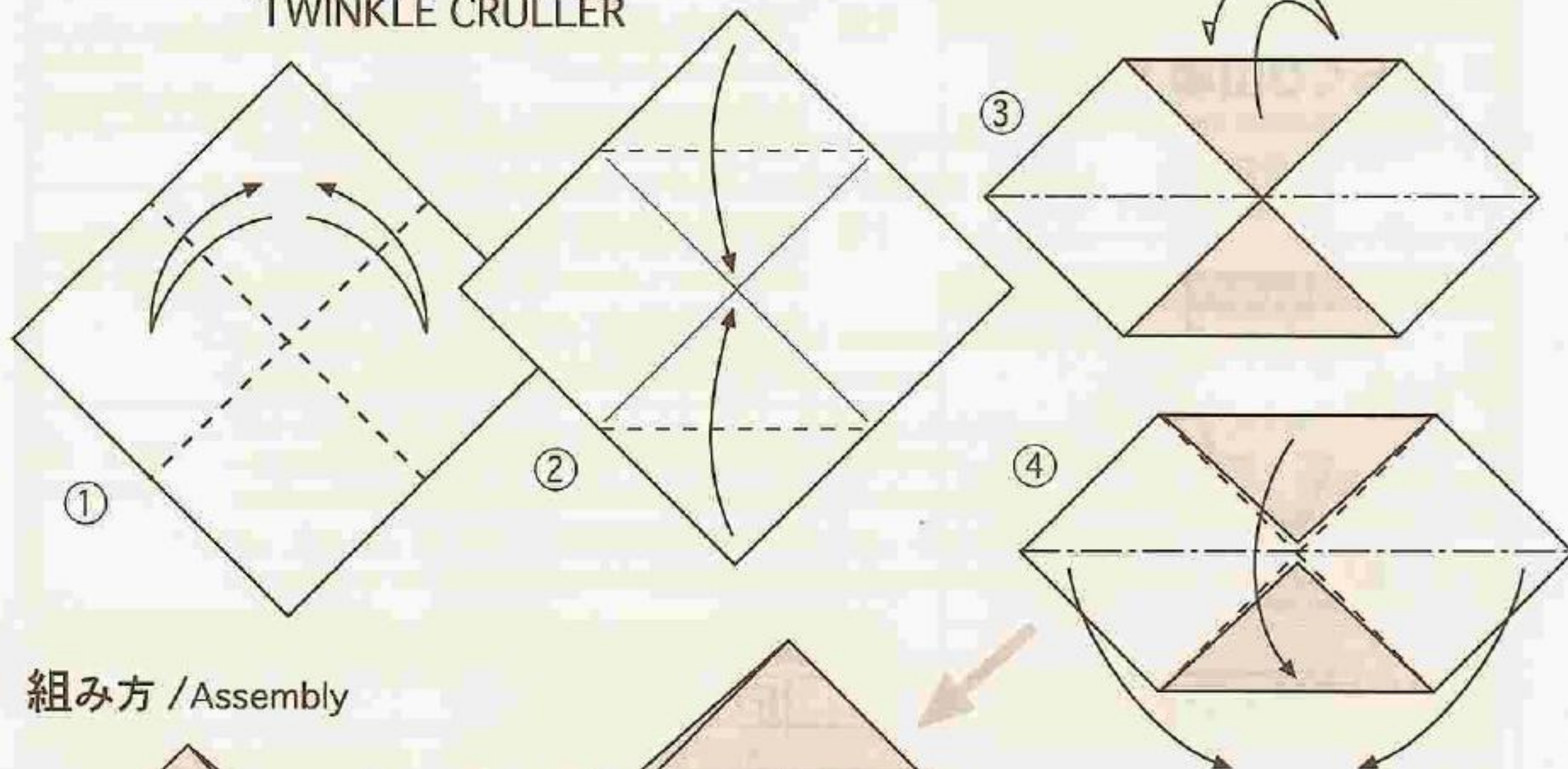
Plane models such as Christmas wreaths become 3D when you add extra pieces of units to the models or reduce the number of units. Enjoy making a lot of 3D models!



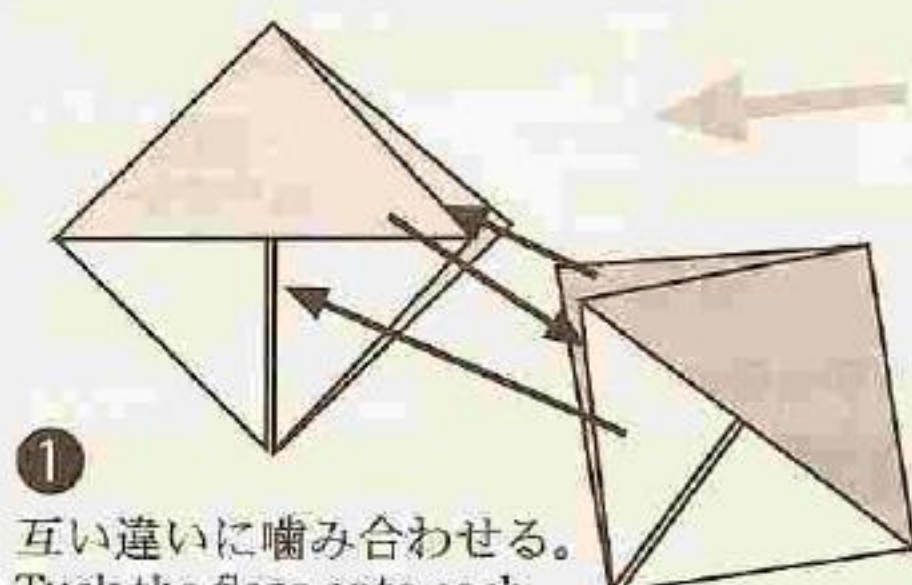
【トウインクル・クルーラー】

©2005 Miyuki Kawamura
Created 20051029

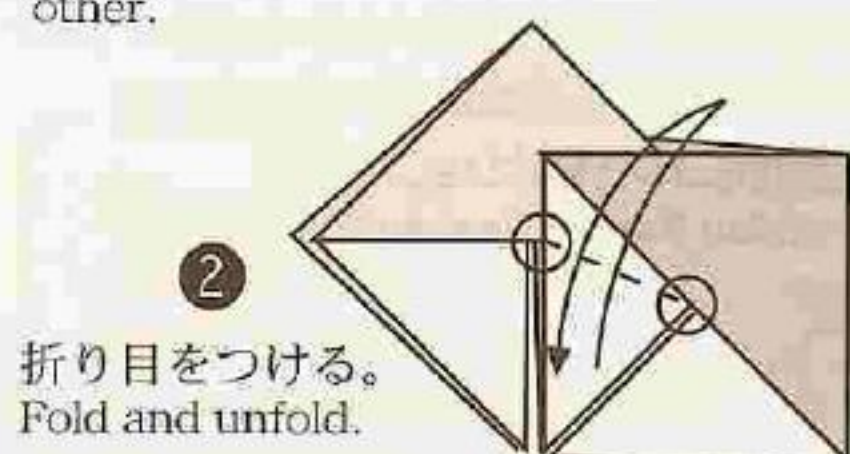
TWINKLE CRULLER



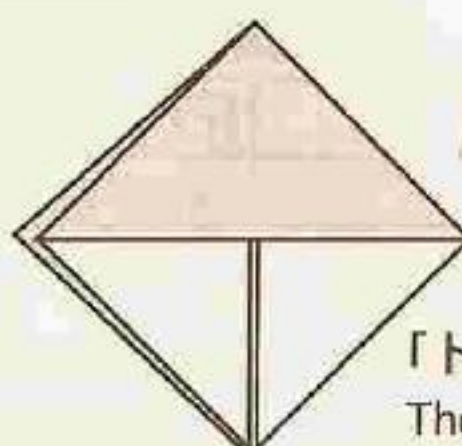
組み方 / Assembly



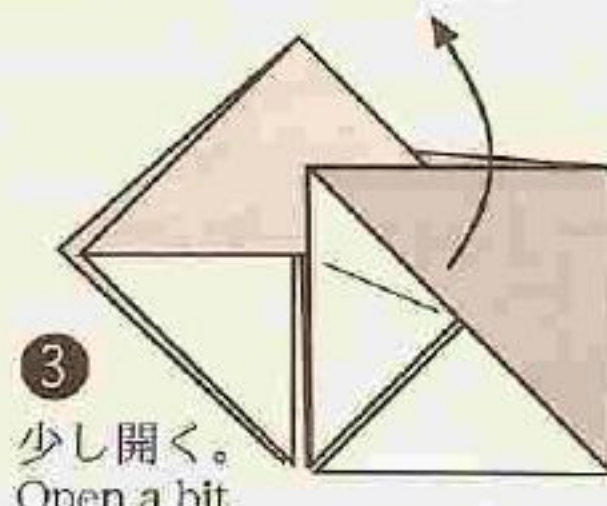
①
互い違いに噛み合わせる。
Tuck the flaps onto each other.



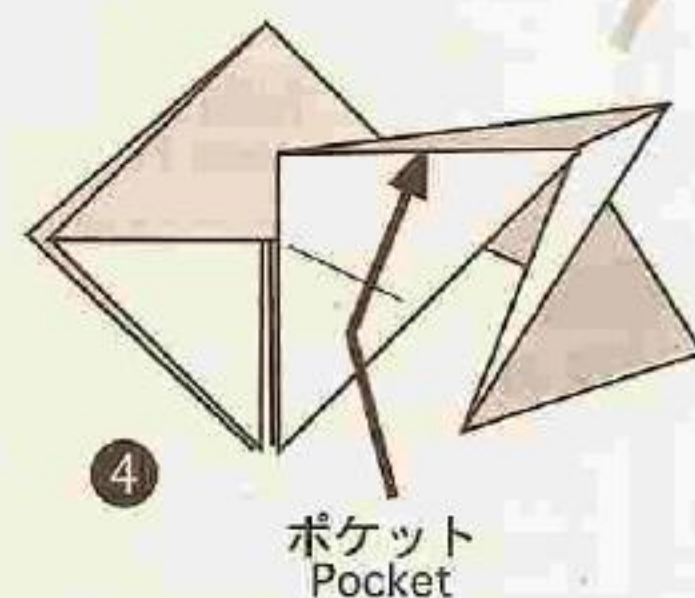
②
折り目をつける。
Fold and unfold.



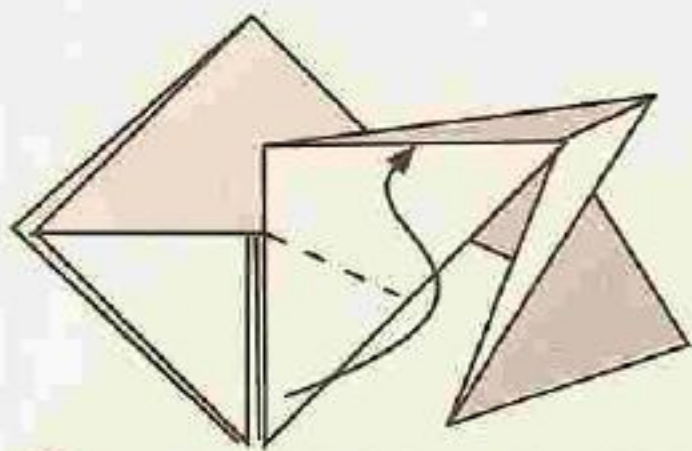
「トウインクル・クルーラー」のユニット
The TWINKLE CRULLER unit
同じものを5枚作ります。
You need 5 units.



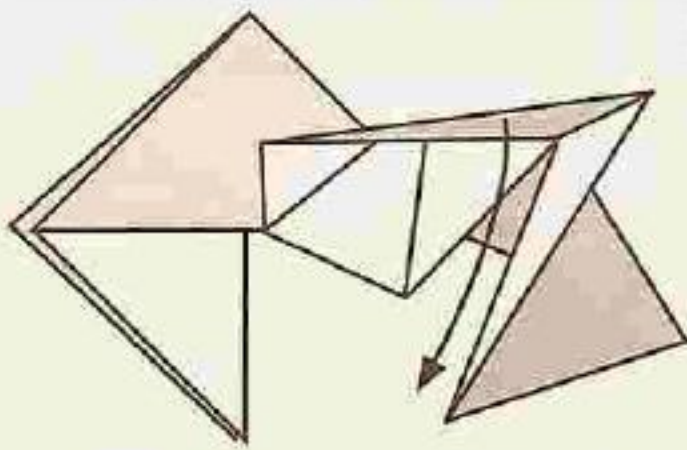
③
少し開く。
Open a bit.



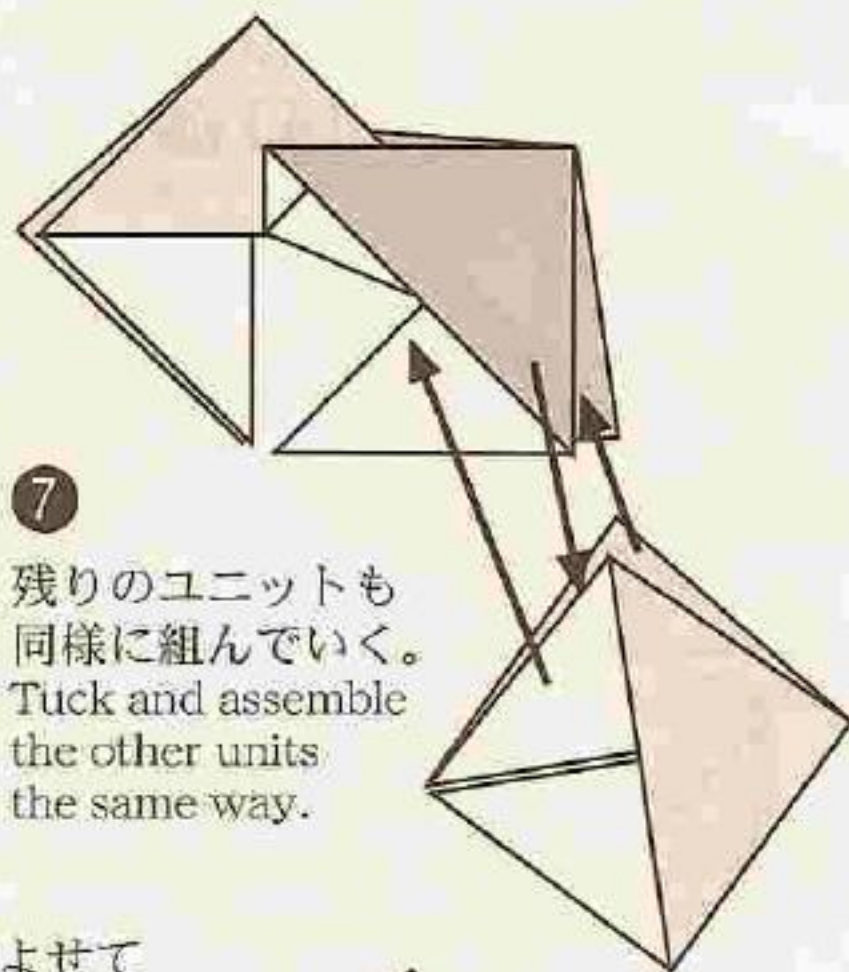
④
ポケット
Pocket



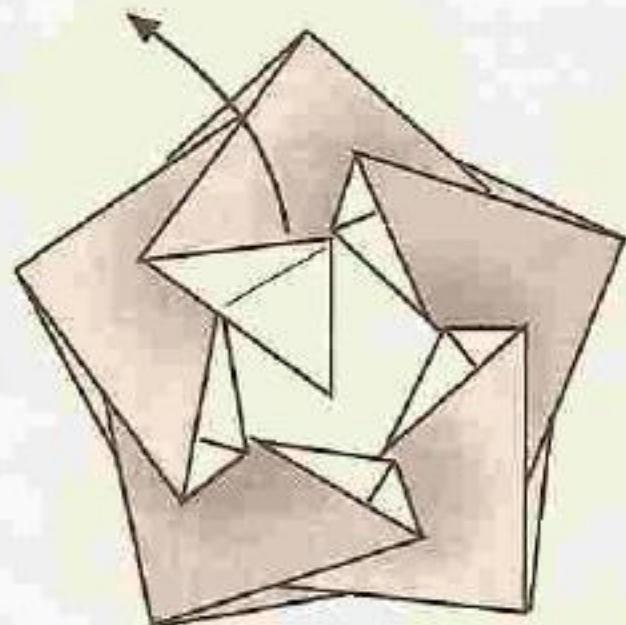
⑤ カドの先をポケットに差し込む。
Tuck the flap into the pocket.



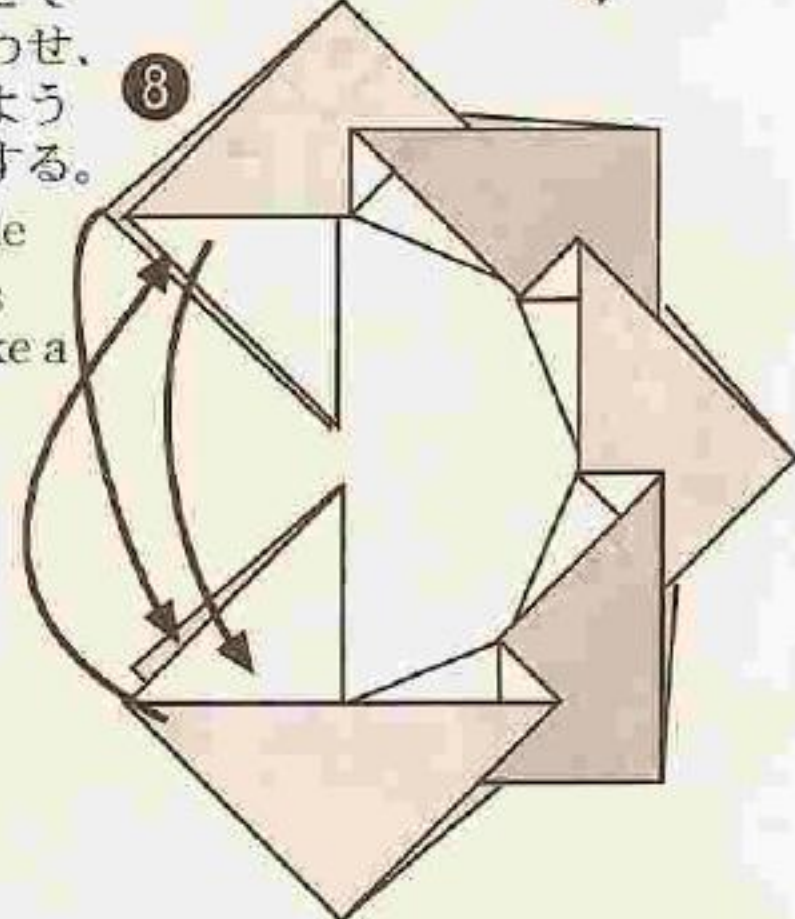
⑥ 戻す。
Fold down.



⑦ 残りのユニットも
同様に組んでいく。
Tuck and assemble
the other units
the same way.



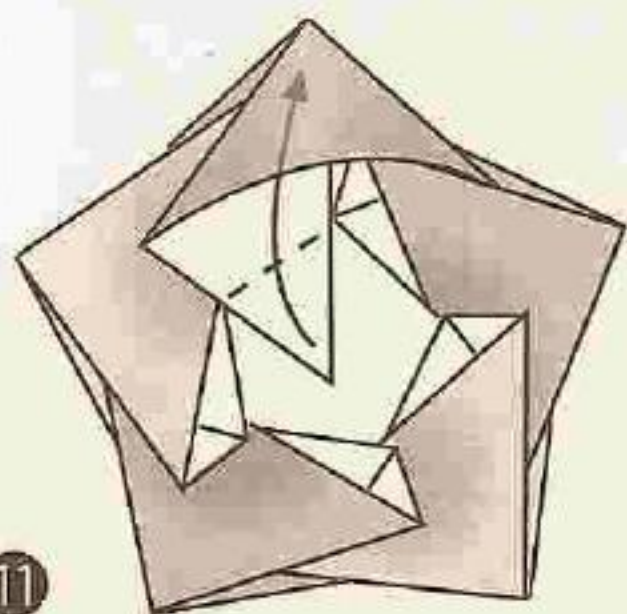
ひきよせて
噛み合わせ、
王冠のよう
な形にする。
Assemble
the flaps
and make a
crown
shape.



⑨

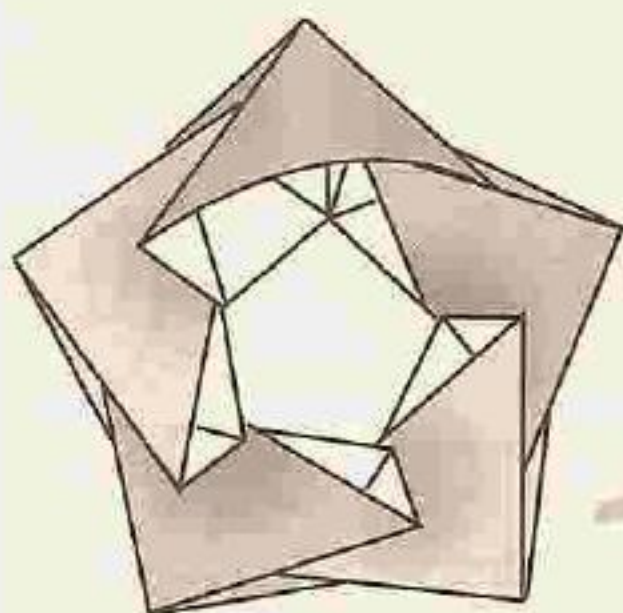
折り目をつける。
Fold and unfold.

⑩ 三角形の袋が開くように
紙の端を持ち上げる。
Pull up the edge of the triangle
and open a pocket.

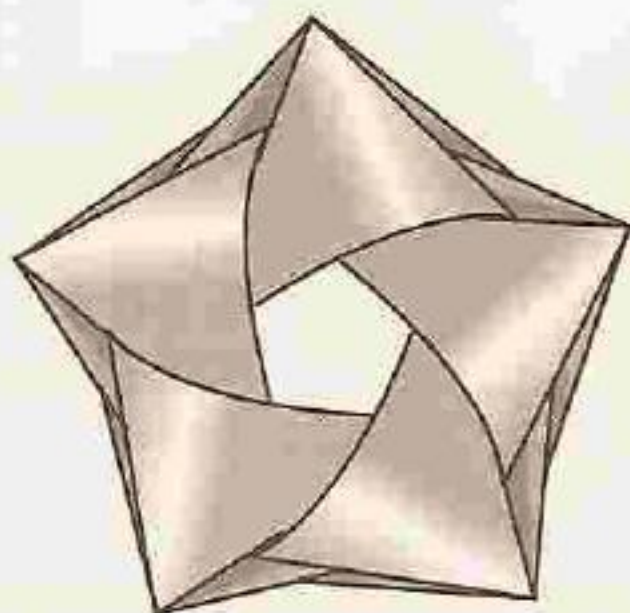


⑪

カドの先をポケットに差し込む。
Tuck the flap into the pocket.



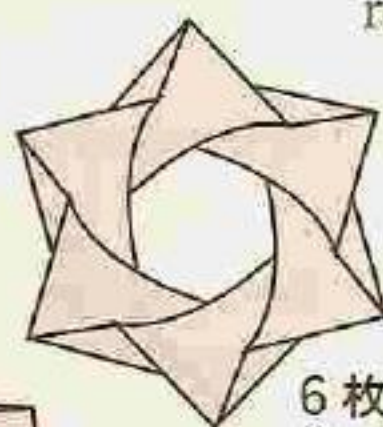
⑫ 残りの三角形も開く。
Pull up the edges of
the other triangles.



「トゥインクル・クルーラー」
5 枚組
TWINKLE CRULLER
5 units

4~11 枚組はきれいな星形になり
ます。12 枚以上で組むと立体的な
形になります。

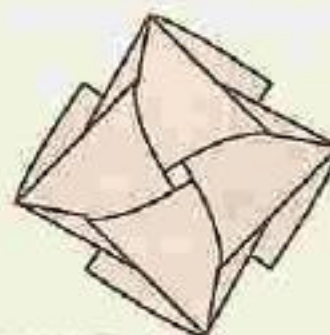
A model with four to eleven units
will make a good star shape. If you
use more than eleven units, the
result will be real 3-D.



6 枚組
6 units



9 枚組
9 units



4 枚組
4 units

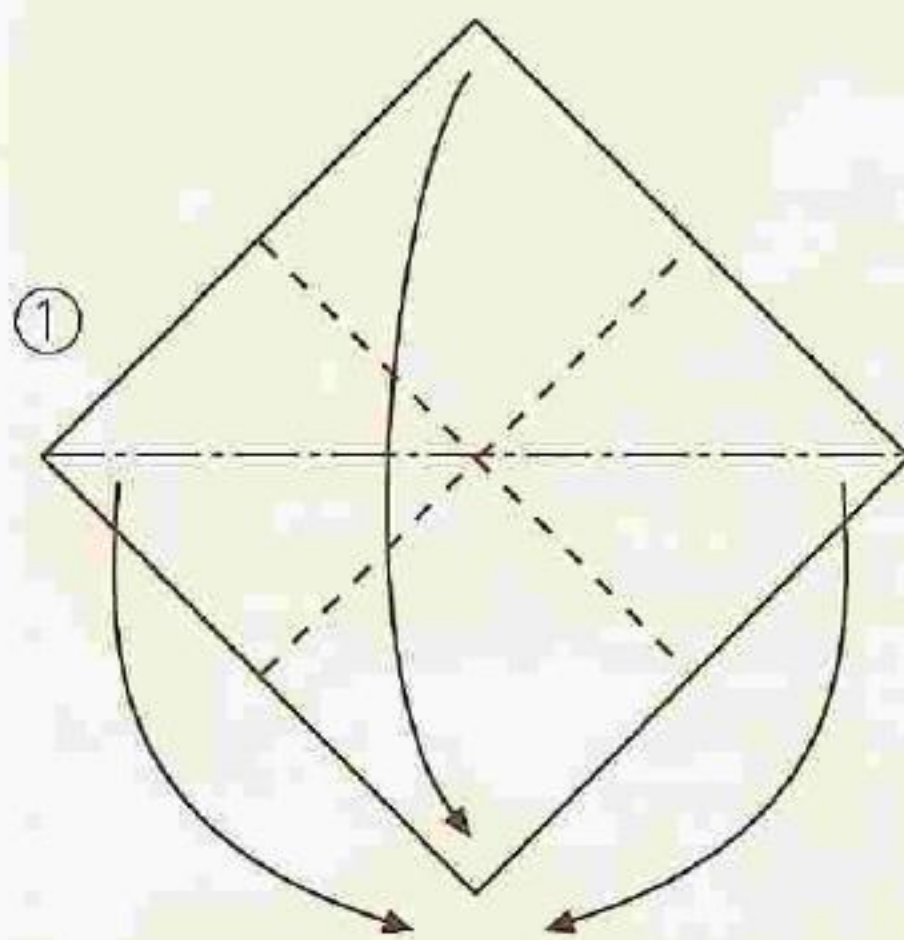
16 枚組
16 units



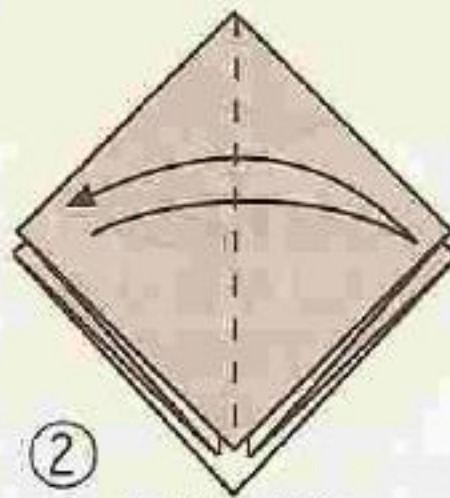
【スター・クルーラー】

©2005 Miyuki Kawamura
Created 20051029

STAR CRULLER

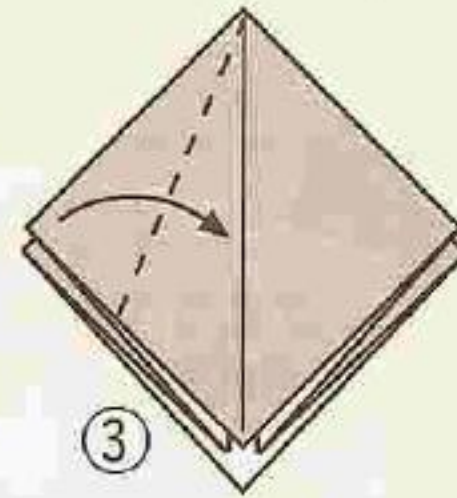


①

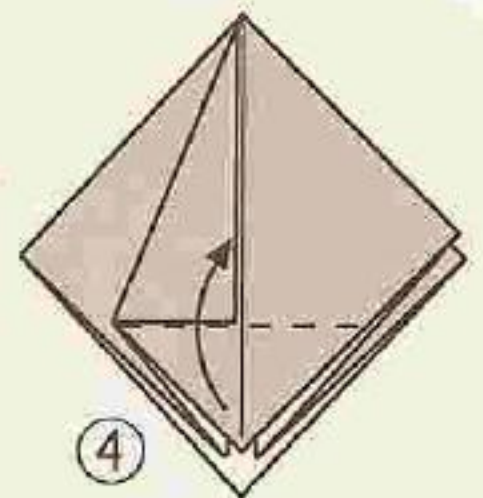


②

1枚だけ折り目をつける。
Fold only the upper layer and unfold.

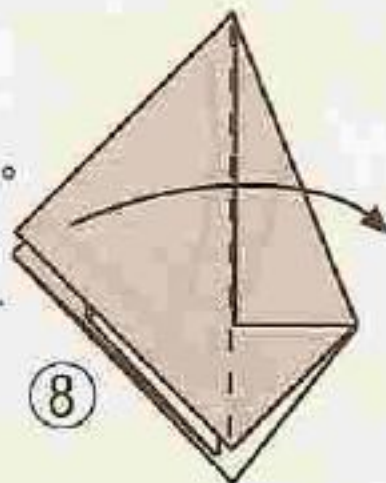


③

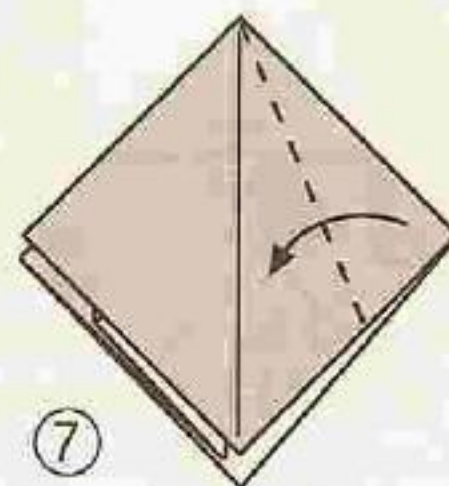


④

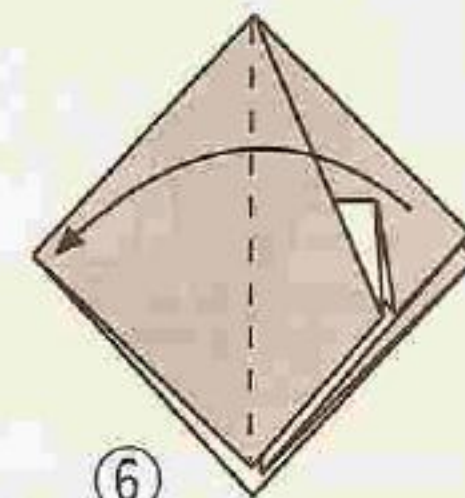
1枚もどす。
Unfold the upper layer.



⑤

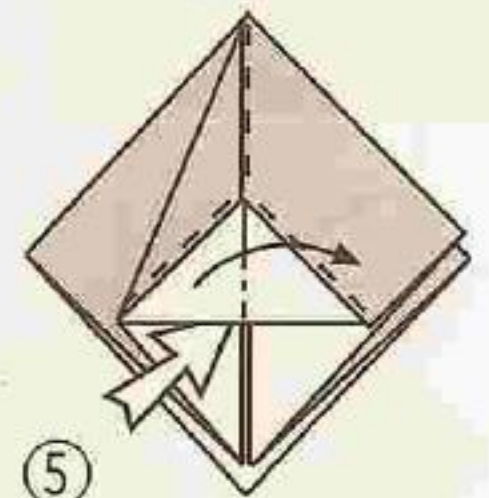


⑥



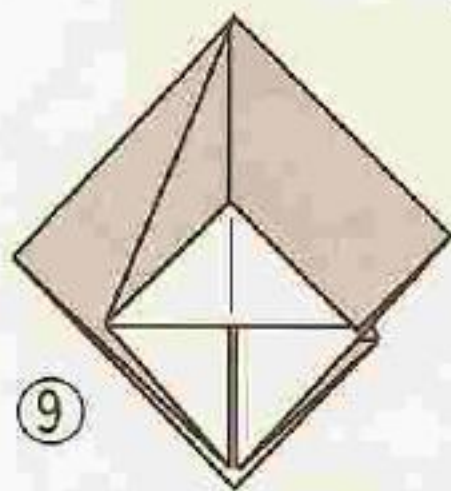
⑦

ひだを2枚折返す。
Open two flaps.

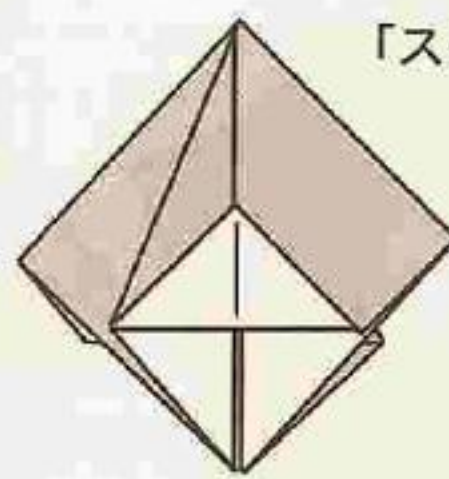


⑧

開いてつぶしながらたたむ。
Open and fold the corner to the right.

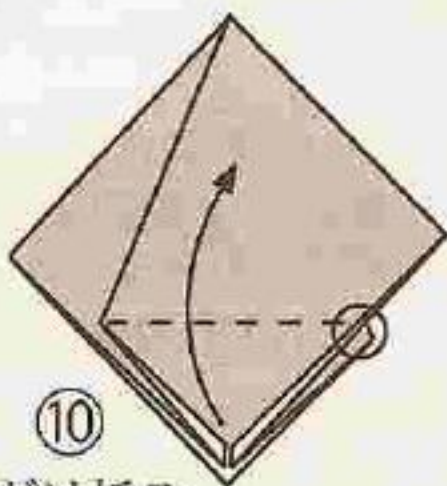


⑨



⑩

1枚だけ折る。
Fold only the upper layer.

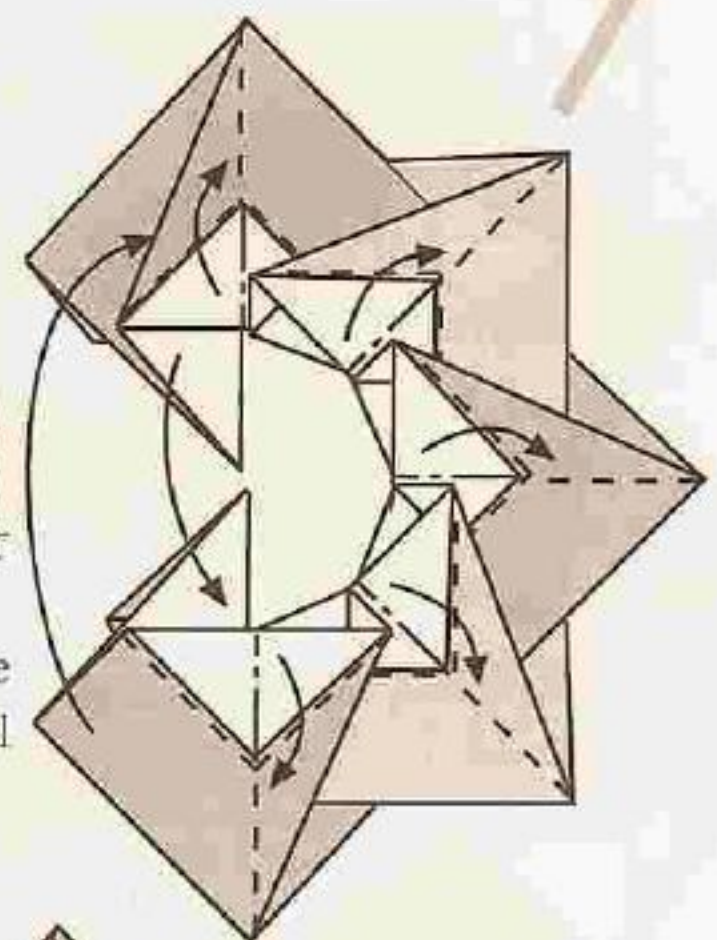


⑪

「スター・クルーラー」のユニット
The STAR CRULLER unit

同じものを5枚作ります。
You need 5 units.

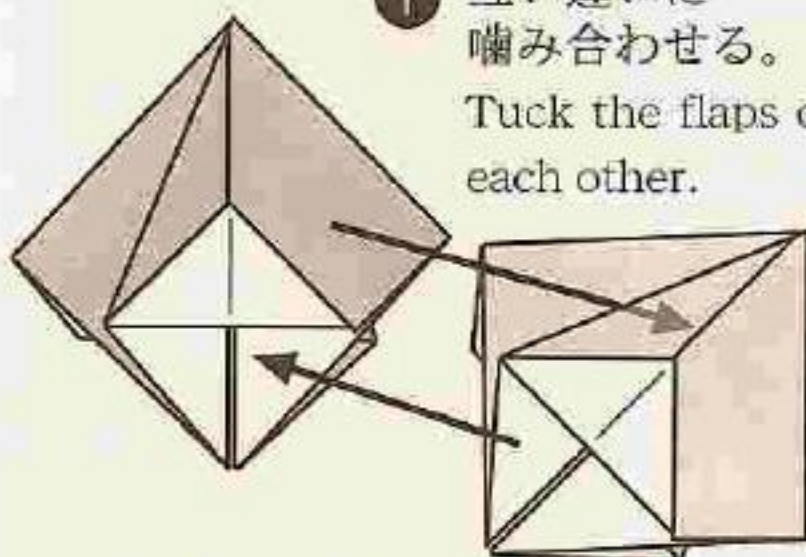
三角の部分を折り目の通りにおこしながら、引き寄せて噛み合わせる。
Pinch and pull up the white triangles. Assemble the final pair of units.



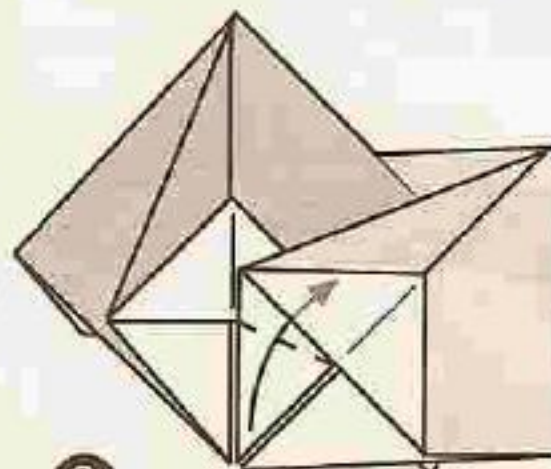
⑫

組み方 / Assembly

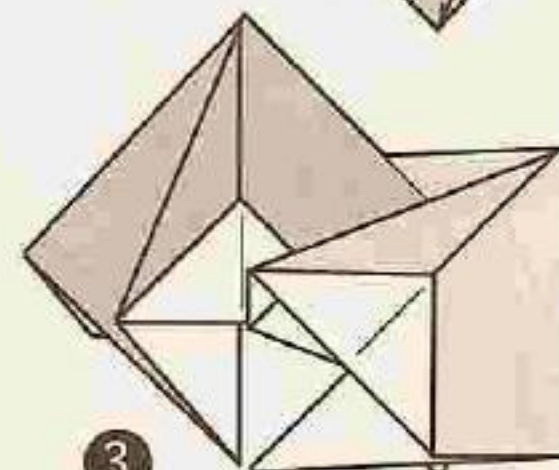
① 互い違いに噛み合わせる。
Tuck the flaps onto each other.

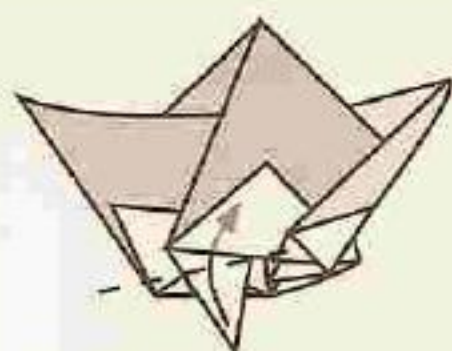


② 折り上げて差し込む。
Fold up and tuck the corner inside.

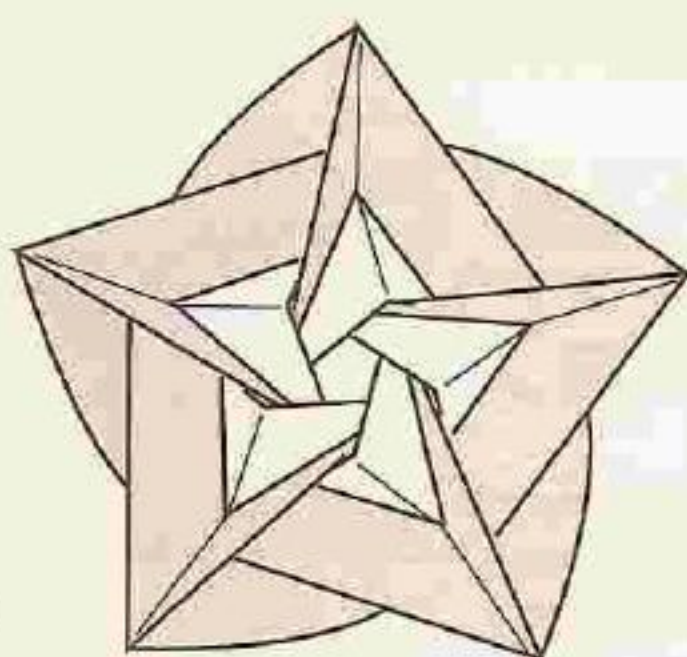


③ 残りのユニットも同様に組んでいく。
Assemble the other units in the same way.





- 5 最後のカードが折りにくい場合は外側のポケットに差し込む。
If it is hard to tuck the last flap, you should fold the flap outside of the star and tuck it into the back side pocket.



「スター・クルーラー」
5 枚組
STAR CRULLER
5 units



4 枚組
4 units



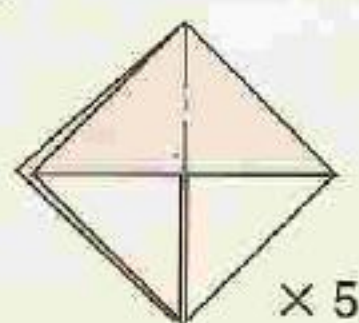
6 枚組
6 units

4~8 枚組はきれいな星形になります。
9 枚以上で組むと立体的な形になります。
A model with four to eight units will make a good star shape. If you use more than eight units, the result will be real 3-D.

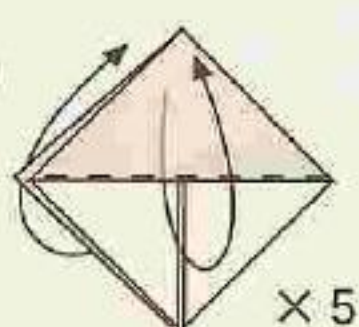
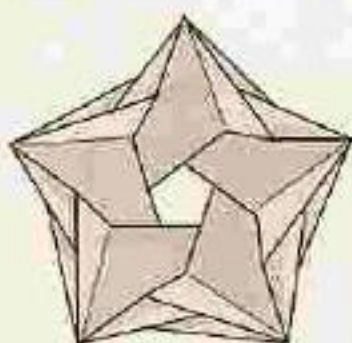


バリエーション Variations

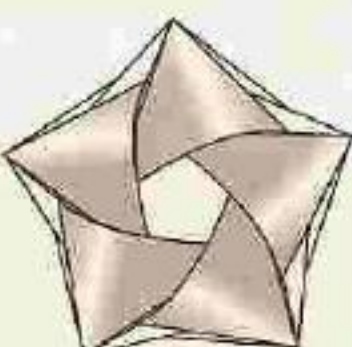
いろいろ試して
楽しんで下さい。
Enjoy making
various patterns!



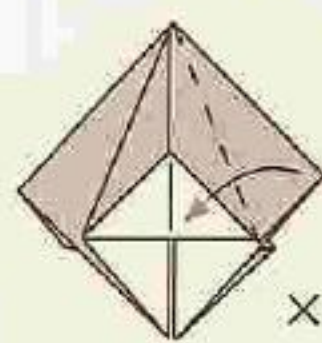
× 5



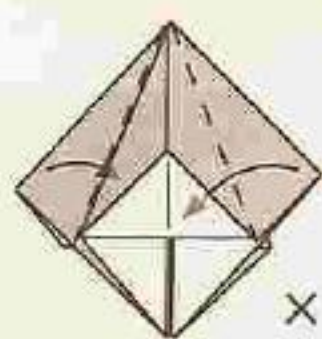
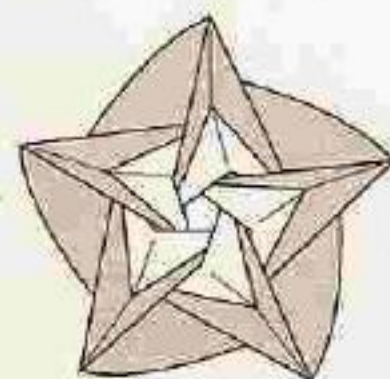
× 5



トゥインクル・クルーラー
TWINKLE CRULLER



× 5



× 5



スター・クルーラー
STAR CRULLER

折り紙の 周辺

第13回 折り紙が仕事

Origami for
Making a Living

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

折り紙を教える機会はそう多くないが、ある日教えることがあった。ひと通り折り方を教えて、参加者の間をまわっていく。いかがですか？とある親子の手元を見る。「図が悪くて、わかりません」と腹立たしそうに言う。「その図、私が書いたんだけど、ごめんなさい」しばらくして、またその親子

のところに行く、完成している。「できましたね」「簡単でした」といささか得意げに言う。折り紙とはそんなものだ、と思う。わがこと嬉しい。できると嬉しい。今巷でいわれている「アハ体験」を折り紙はできるんだ、と思う。

またある日、用あって村の重役が訪ねてきた。仕事場の方に首を伸ばして、「ここで折り紙をなさってるだね。折り紙はいい趣味だ」「はい。でも私は折り紙が仕事です」「文化祭で見ただよ」八坂村は来年そうそう大町市に吸収合併となり、最後の文化祭が小学校で行われ、八坂折り紙クラブも最後ということで出品した。私も数点飾った。「折り紙はいい趣味だ」とまた繰り返されるので、「私は仕事ですけれどね」と念を押す。「趣味でも

仕事でも、好きな事をしているのが一番」といわれた。そのとおり。そして八坂村の名前が無くなるのは寂しいね、と話した後「そうは言っても、ここはこのままあるんだから」と茶の間から見える景色をぐるっと手で示された。そのとおり。

またある日、講習依頼の電話がきた。いろいろはなしているうちにボランティアだとわかる。「ごめんなさい。私は折り紙を仕事にしているので、場合にもよりますが、報酬をいただくことにしています。」と答える。そうして、報酬をいただけるときもあれば、話が終わってしまうときもある。

ボランティアと仕事と、ときどき境がむずかしい。

第15回 **テトラヒロンのバリエーション**

"Tetrahiron" Revisited : Designed by Okamoto Hiro

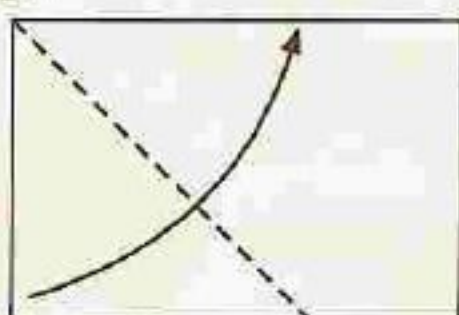
『第7回折紙探偵団コンベンション折り図集』に掲載された、NY在住の日本人、オカモト・ヒロさん創作のメロカードによるユニット作品のバリエーションです。今回は沢山のバリエーションの中から一部だけを紹介しします。日本ではメロカードは手に入らないので、洋紙で折ることを前提に折り図を起こしました。



基本のユニット

2:3の紙を使う

①



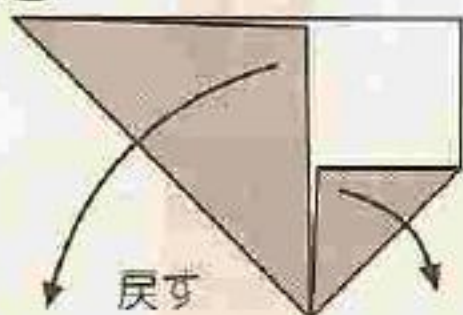
フチとフチを
合わせて折る

②



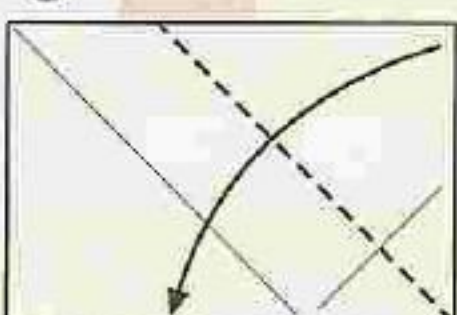
フチと
フチを
合わせて折る

③



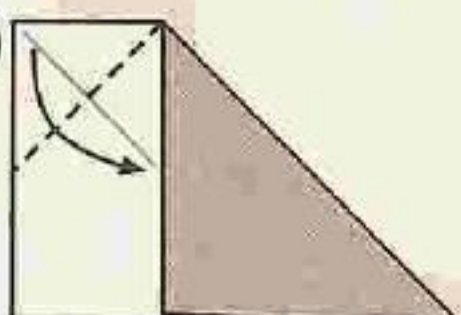
戻す

④



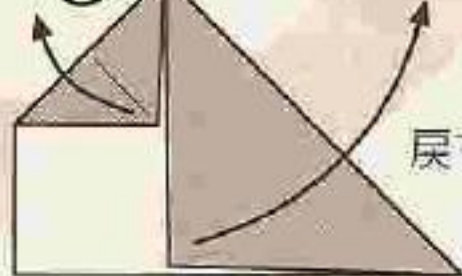
フチとフチを
合わせて折る

⑤



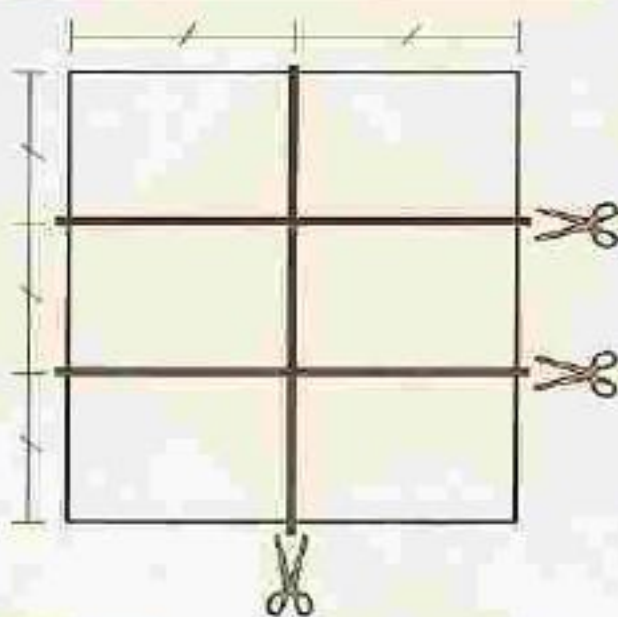
フチとフチを
合わせて折る

⑥

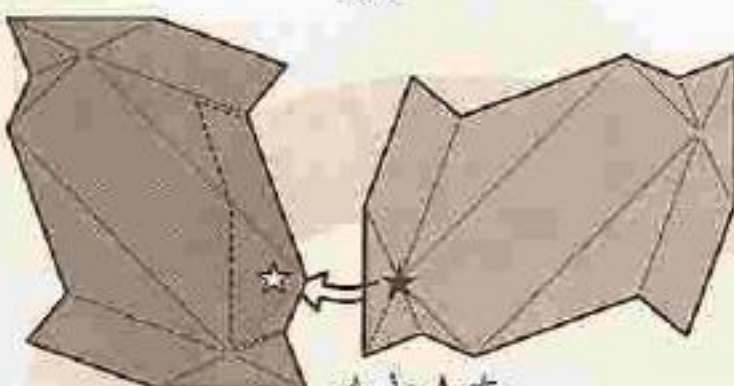


戻す

正方形から切り出す場合

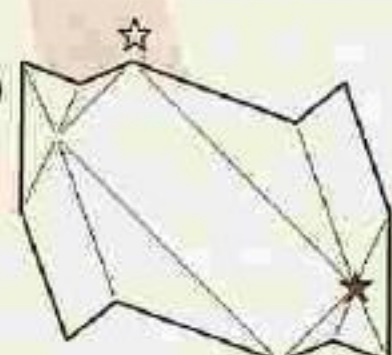


⑫



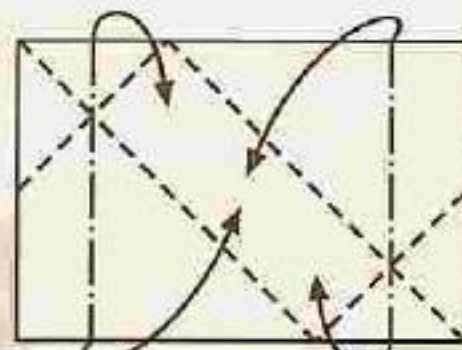
☆と★を
重ね合わせる

⑪



同じものを
6つ作る

⑩

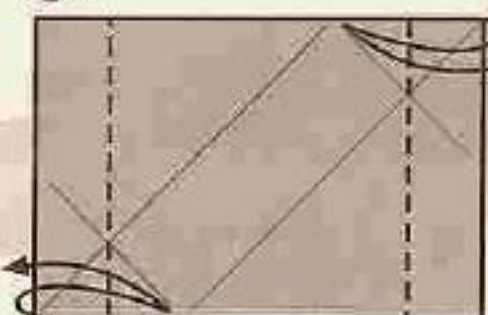


つけた折り筋で
立体的にする

⑨



⑧



カドを
折り筋に
合わせて
折り筋を
つける

6枚組

⑦

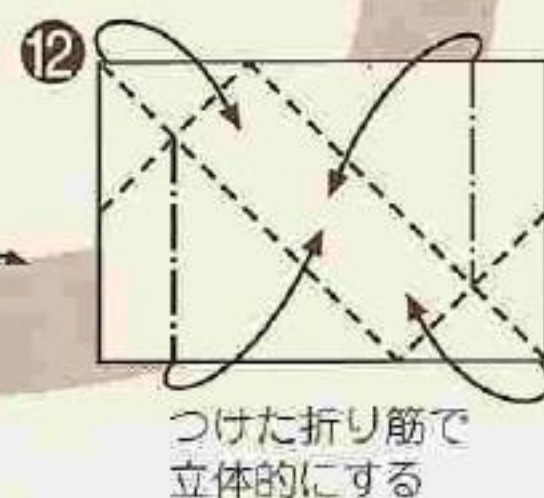
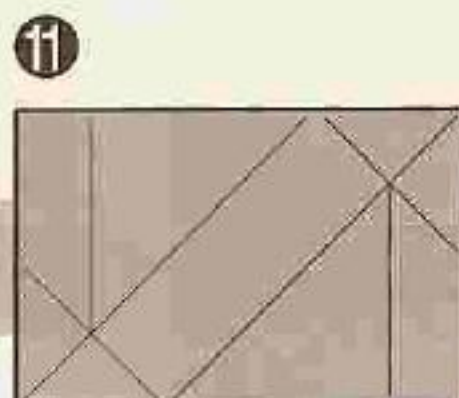
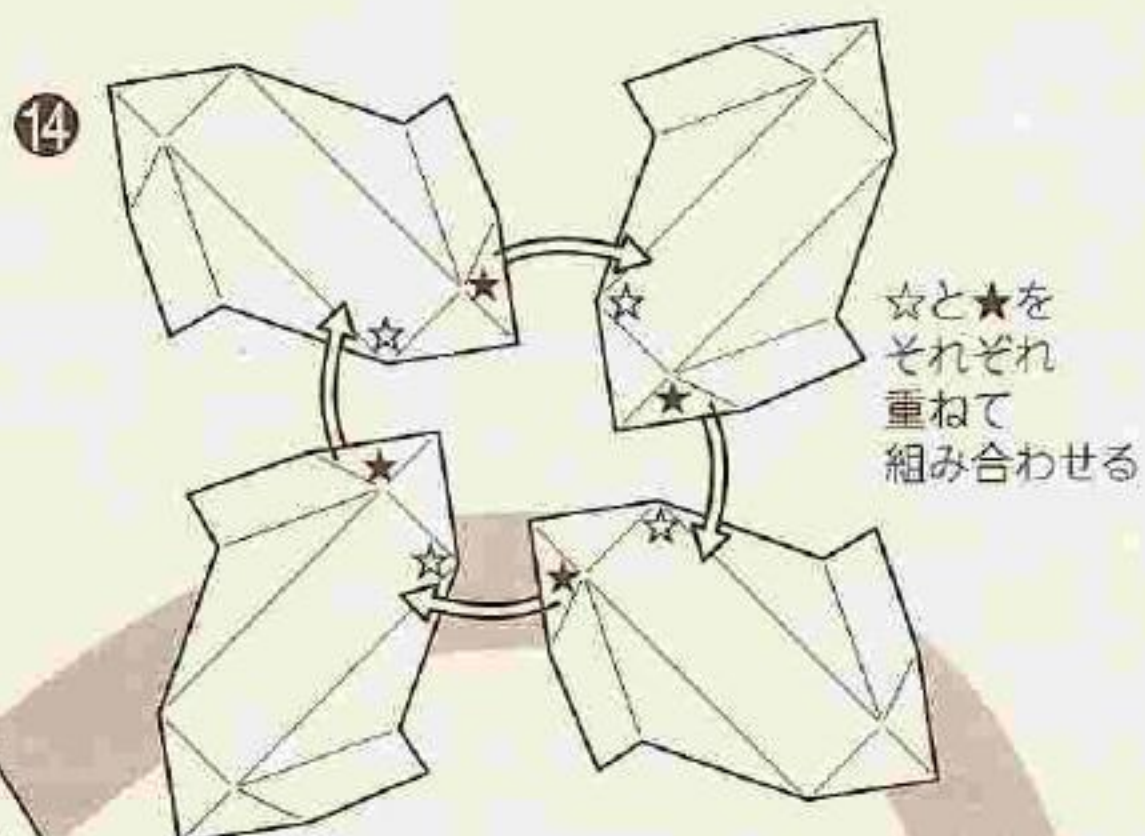
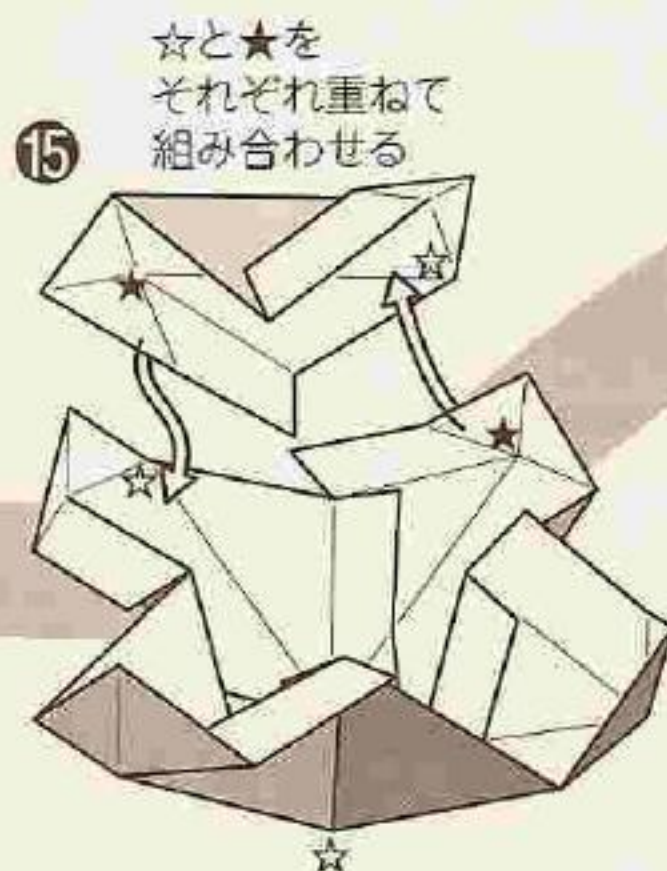
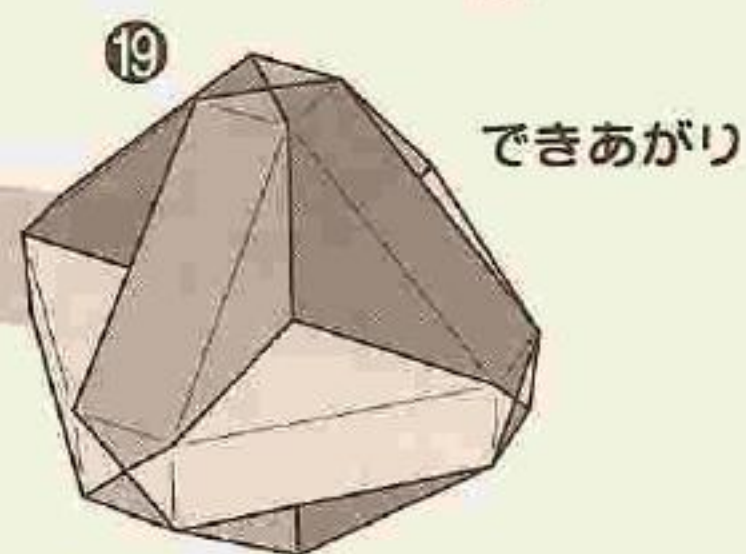
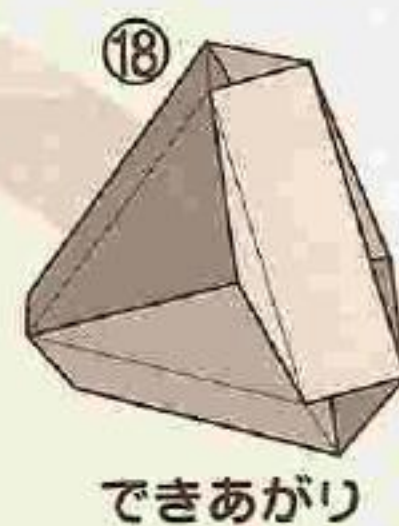


12枚組

⑧

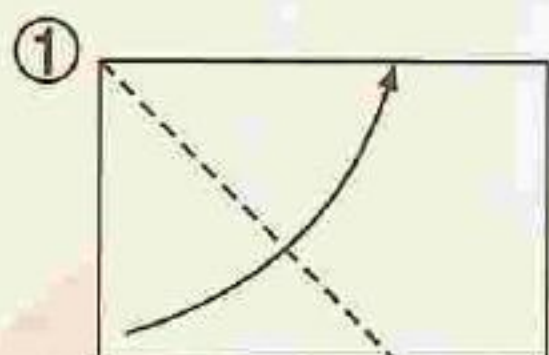


○の
ところから
●を合わせて
折る

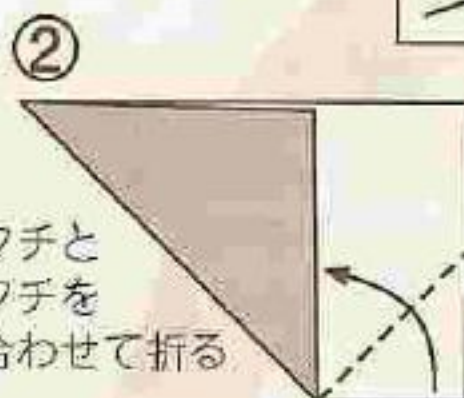


穴あきユニット

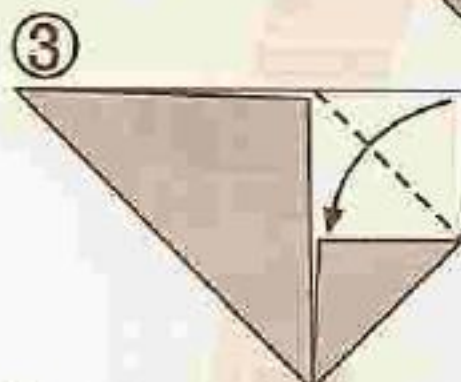
2:3の紙を使う
組み立てのときは
軽くのりづけすると
良いでしょう



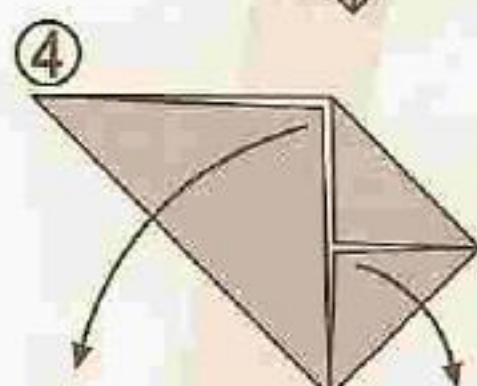
フチとフチを
合わせて折る



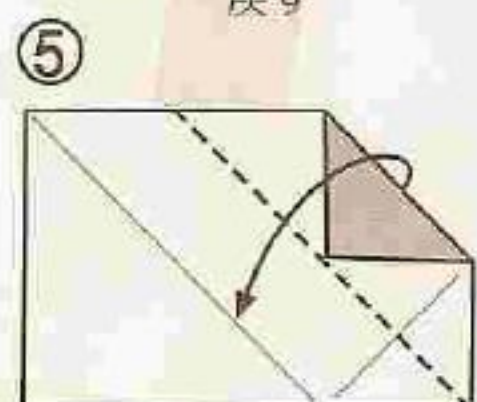
フチと
フチを
合わせて折る



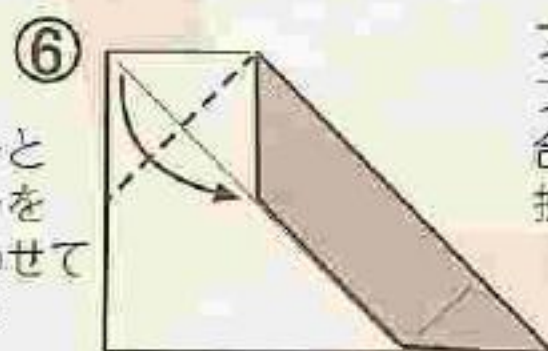
フチと
フチを
合わせて
折る



戻す

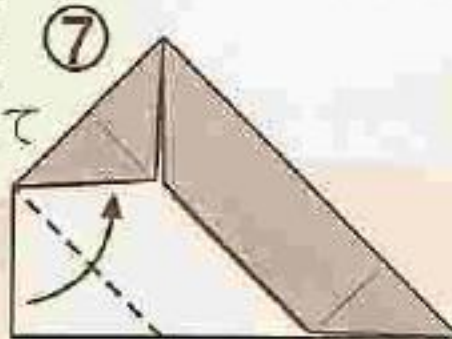


フチを
折り筋に
合わせて
折る

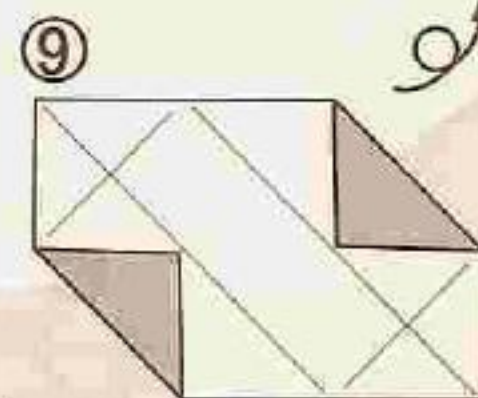


フチと
フチを
合わせて
折る

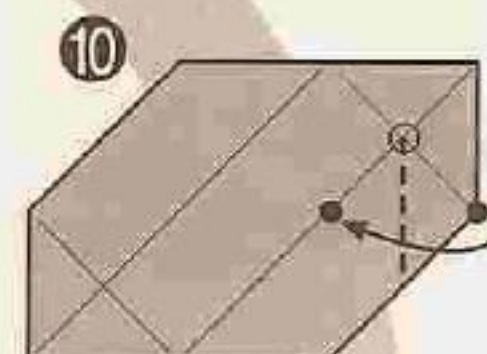
フチと
フチを
合わせて
折る



戻す

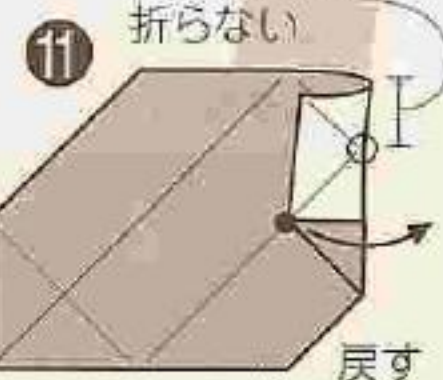


12枚組

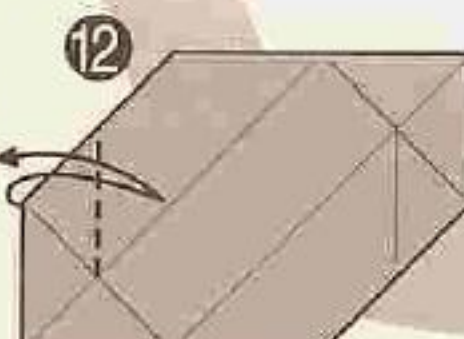


○のところから
●を合わせて折る

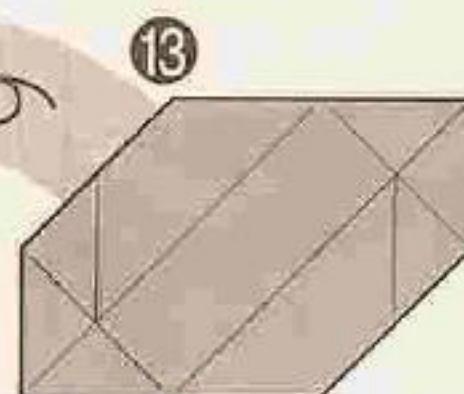
この部分は
折らない



戻す

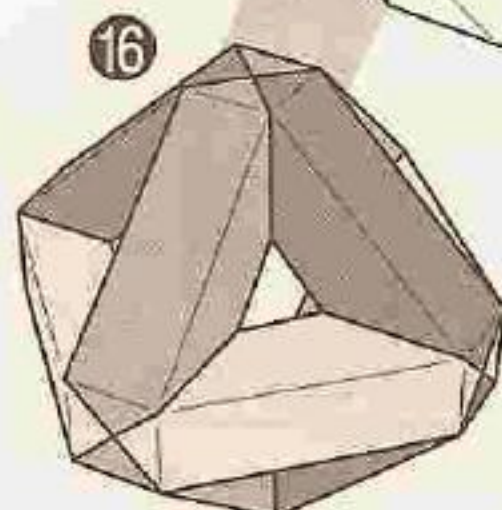
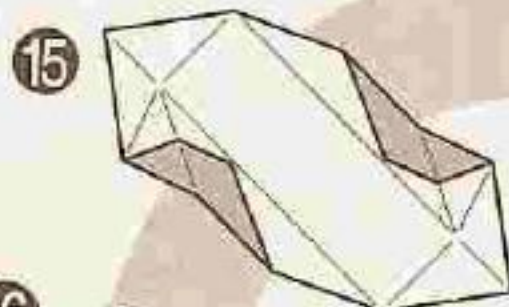


反対側も
同じように
折り筋を
つける

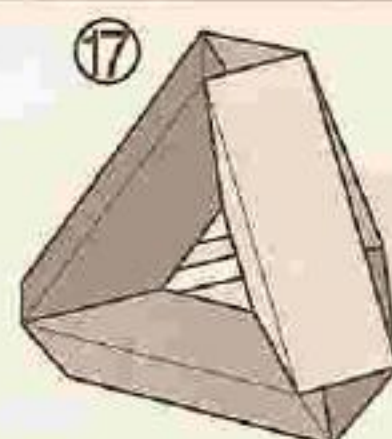


つけた折り筋で
立体的にする

同じものを12こ作る
P.10の14~18と
同じように組み立てる



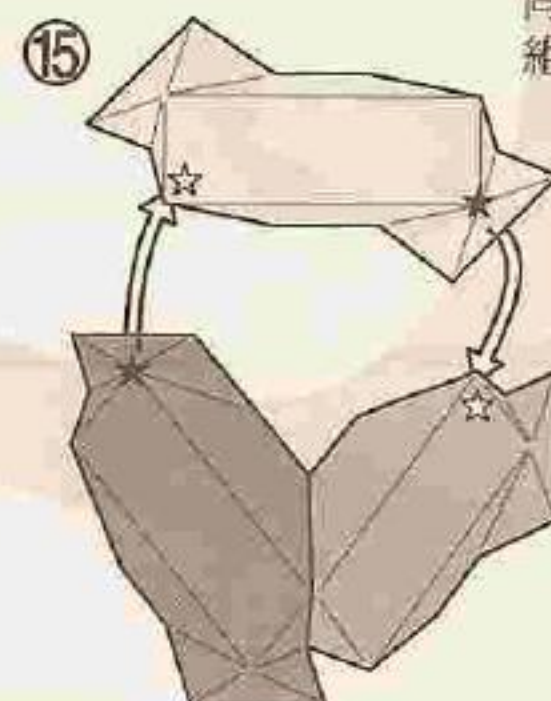
できあがり



できあがり



残りもP.10
15~17と
同じように
組み立てる



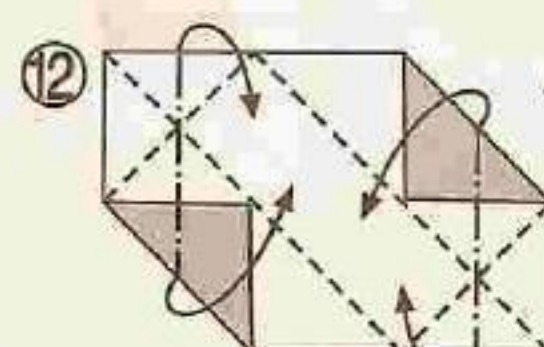
☆と★を
それぞれ
重ね
合わせる



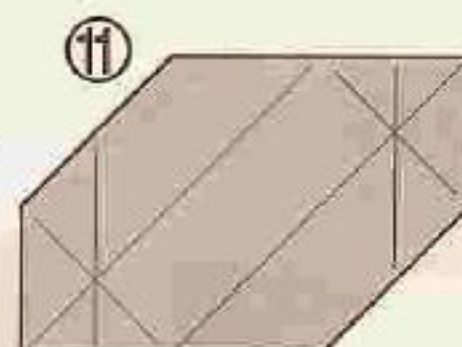
☆と★を重ね
合わせる



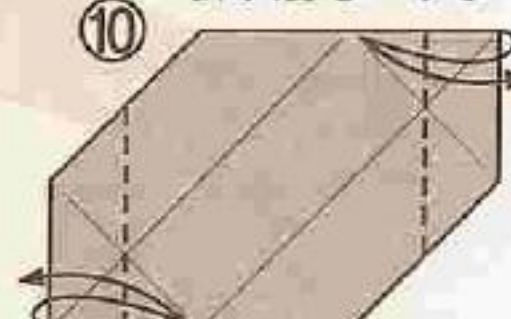
同じ
ものを
6つ作る



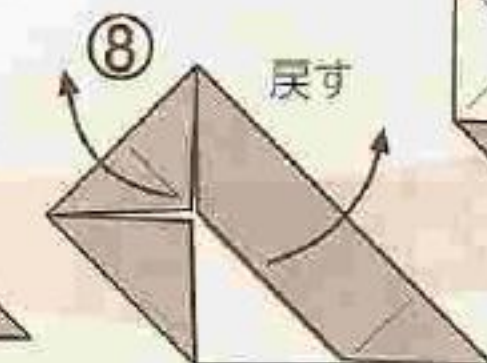
つけた折り筋で
立体的にする



カドを
折り筋に
合わせて
折り筋をつける



6枚組



反対側も
同じように
折り筋を
つける

からくり山車・舞衣車

Maiginuguruma the Mechanical Float

株式会社デンソー 設備設計

伊藤俊介

Ito Shunsuke

通巻84号に折鶴を題材とした「からくり 舞衣」の記事を寄稿させて頂きました。その後、発展型とも言える「からくり山車 舞衣車」を製作しましたので、ご紹介します。

1. からくり山車「舞衣車」の概要

以前紹介しました「からくり 舞衣」は、'95年に会社の「ものづくりイベント」向けに製作したものです。このイベントは、ほぼ2年毎に継続して開催しており、'04年に参加した作品が今回紹介する「からくり山車 舞衣車」です。

自動で折鶴を折り上げ、再び元の紙に戻すという動作を、音楽と照明による演出を加えて演じるのは初代「舞衣」と同じですが、構造・演出など全く異なるものです。より日本的なものにするため、祭りのからくり山車をモチーフにしました(写真1,2)。舞台上では四季の移ろいとともに2枚の紙が2羽の折鶴に変化し舞いを披露し、その裏方では巫女姿の人形が、からくりを操作し、お囃子を演奏する(写真3)ものです。

2. 初代「舞衣」の反省

初代の折鶴本体は、1度折鶴に折った和紙の裏側に、一部補強用の樹脂フィルムを貼付けたもので、紙の折り癖を利用することでシンプルな機構で折り上げることを実現していました。そこそこの耐久性も有ったのですが、その日の湿度により紙の特性が変化するという宿命があり、その都度微調整が必要でした。

又、折り癖を利用する関係で、折り畳み動作以外の動きをさせることが難しい(折り癖を変化させるので)ことと、かなりゆっくりとした折上げ・展開にする必要があり、演技内容に制約がありました。

3. 二代目「舞衣車」の構造

調整不要で、もっと素早く動作する、機械として完成度の高いものにするために、折鶴を初代製作時に断念した金属と布による構成で再挑戦しました。(前回断念した理由は、外からの駆動が11本必要で、小型化に限界があったことと、組立後の各部品の位置・角度精度

が確保できなかったことでした。)

今回大きく改良したのは折鶴の体内に極小のリンク機構を内蔵し、外からの駆動を6本に減らし、以前は下から駆動機構と連結していたのを背後からに変更し、目立たなくすることで実用的な強度を持った太さの連結棒にしたことです。

高精度な組立を実現するために、エッチングによる一体加工で部品製作し(写真5)、各部品を切離す前にヒンジ・リンク機構などを接合し、その後に不要部分を切離すことで、部品の位置・角度の精度保証をしました。

背後から連結棒を付けたことで舞台の背景が分断される(連結棒が上下に動くので)ため、背景を屏風にして違和感が無い様にしました。この屏風は演技の進行に合わせて冬→春→夏→秋→冬と景色を変えていきます。

これらの機構は1個のモーターからカム・リンク・歯車などによって駆動されており、機械的に46箇所を連動させています(写真4)。機械部分そのものも美しく、楽しく見せたいという構想から、機械部分を山車の舞台裏という設定で見せて



▲写真1



▲写真2



▲写真3

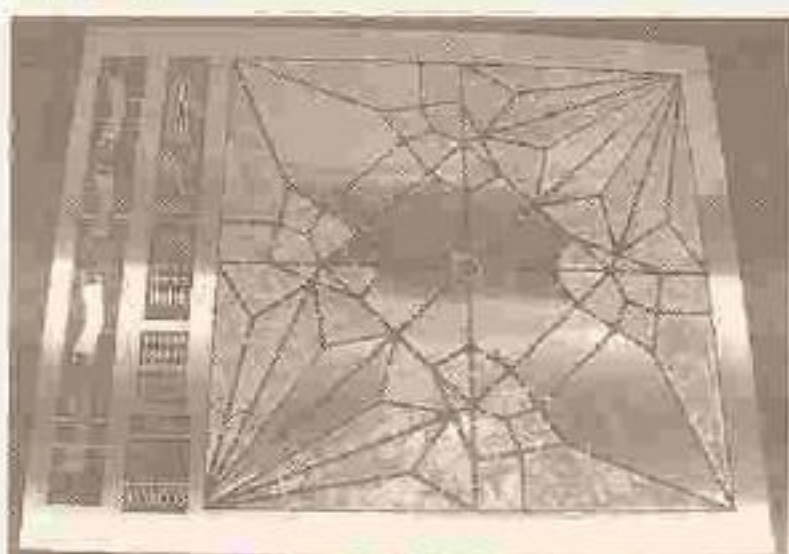
からくり山車・舞衣車

Maignuguruma the Mechanical Float

伊藤俊介 Ito Shunsuke



▲写真4



▲写真5

います。下段中央の2体の人形はからくりを操作しており、その他の人形はお囃子を演奏しています。これらの人形も演技の進行に合わせて動きます。

4. 折鶴の機械化

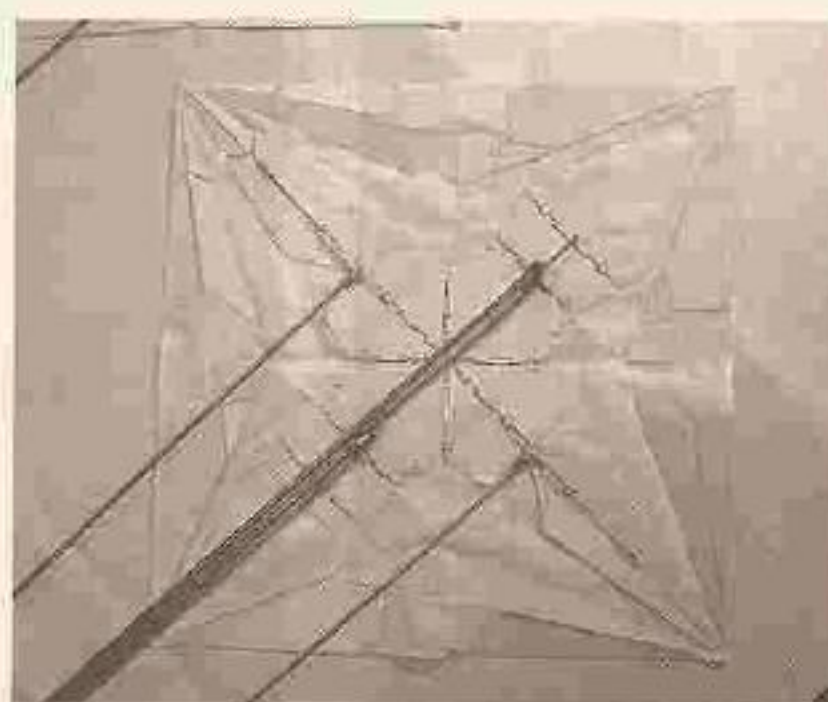
機械化という視点で折鶴の構造を見ると折り畳みが困難な箇所があります。困難の1つは、厚みの有るものを折り畳んでいく時に1方向に折る箇所は単純なヒンジ(ちょうつがい)で良いのですが、1度折った箇所を逆方向に折り返す場合は特殊な機構が必要になります。紙を逆方向に折り返す(360度曲げる)ことには何の不思議も感じませんが、機械の場合は話が異なります。通常のヒンジは単体でも270度ぐらしか曲がりません(ドアを想像して下さい)。

更に、首と尾に当たる部分は折り返した時に6枚分もの厚みを抱き込むことになり本物の折り紙でも無理をする箇所です。今回製作したものでは、本来1本の折筋である所を平行した2本の接近した折筋にしてあります。2本にすることで、厚みを抱き込むスペースを作り出すと共に360度の折れ曲がり角度を2本で分担することで180度に抑えることが可能になります。困難のもう1つは折り畳む過程で、平面⇄曲面と変化する面です。この部分は金属板を省略してしまいました(写真6)。

面白いもので、省略部を取り囲む面が動くことで、省略部は自然に一定の動きをして、間違いなく折鶴を構成する形に変化します。但し、どこを省略するかが成否のポイントとなります。今回は機構改良とエッチングによる一体加工で高精度な加工・組立を可能にし、厚みがあり、融通のきかない金属を使いながらも折鶴の薄さを実現できました。金属で折り紙(折り金?)するのは結構骨が折れます(笑)。

5. 演技・演出

2枚の正方形の布が照明を落した冬



▲写真6

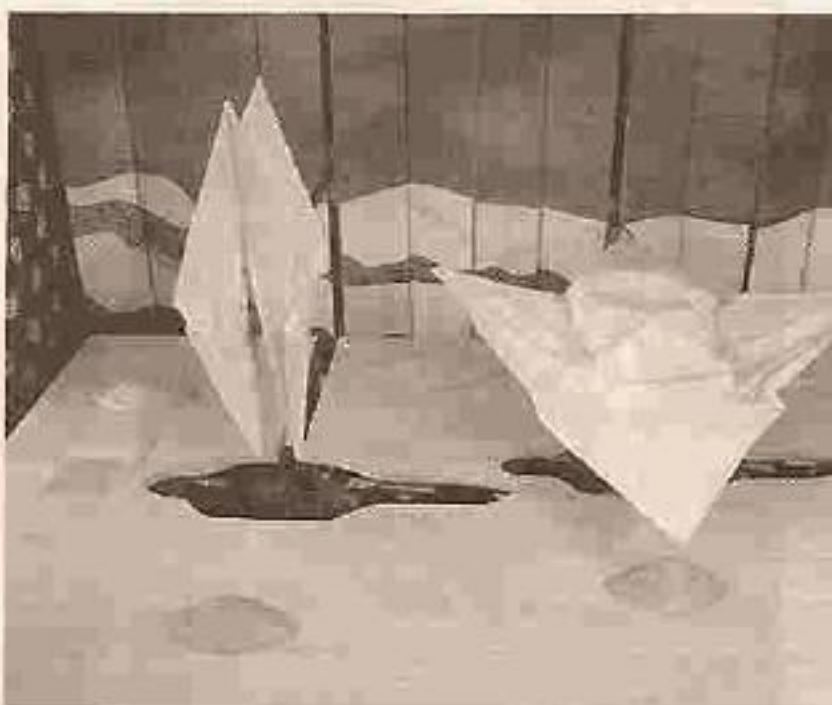
景色の舞台上に広がっています。鼓の音で舞台は目を覚ます…凜とした篠笛の音に誘われ、1枚の布が緩やかに はためきながら宙に浮き上がっていきます(写真7~9)。形を変えながら地に降り



▲写真7



▲写真8



▲写真9

○伊藤俊介(いとう・しゅんすけ)=1959年名古屋市に生まれる。1986年より機械設計を担当する。機械ものが大好物。



立ち(写真10)、続いてもう1枚も形を変え地に降ります。箏の音が加わり篠笛の演奏が加速しピークを迎えると共に、素早く2羽の折鶴に姿を変え急上昇し、同時に照明も一気に明るくなり、屏風が春

の景色に変わります。桜満開の雅な風景を背に、2羽は緩やかに上になり下になり宙を滑っていきます(写真11)。箏が主役となった曲は、桜の花びらが、はらはらと散る様子を詠い上げる…演奏に太鼓が入り、琵琶が加わり賑やかさを増した頃、箏曲のお約束「流れ」が入り季節は夏に…青海波模様の穏やかな海原の上を意気の合った2羽が命を謳歌するようにゆったりと飛んで行きます。曲は夏の風物詩、京都祇園祭の「コン・チキ・チン」の音を加えながら広がりのあるメロディに変わっていく…曲の調子が変わり、季節は秋を迎える。曲は賑やかな篠笛の掛け合いが主役となり、祭囃子のように収穫の喜び・感謝を詠います。2羽は上に下に喜びを表すように飛翔します。曲が一層賑やかに急速になり、そして篠笛の突き上げる様な長音と共に、2羽は一気に展開し、もとの正方形の布に戻り、ふわりと地に舞い降り、同時に屏風は冬景色に戻り、照明が落ち、まるで今見たものが夢であったかの様に静寂に包まれて物語は終わります。

初代の演出では照明に重点を置いていましたが、二代目では、より物語としての表現を重視したため、音楽に重点を置きました。物語に合った、しかも演技時間にピッタリと合う良い曲はないものかと探しましたが、そう都合のよいものがあるはずもなく、結局自分で作曲することに…。

そして、舞台裏の演出に人形を使おうということで人形屋さんなどにスカウトしに行ったのですが、イメージに合う役者に逢えず、これまた自作することに…(写真12)。折り金に劣らず骨の折れる作業でした。

6. 所感

仕上がりは、二代目ということもあり、折鶴の折畳み⇄展開の安定性が大きく向上し、舞台裏には6体のからくり人形を乗せるという豪華なものになりました。

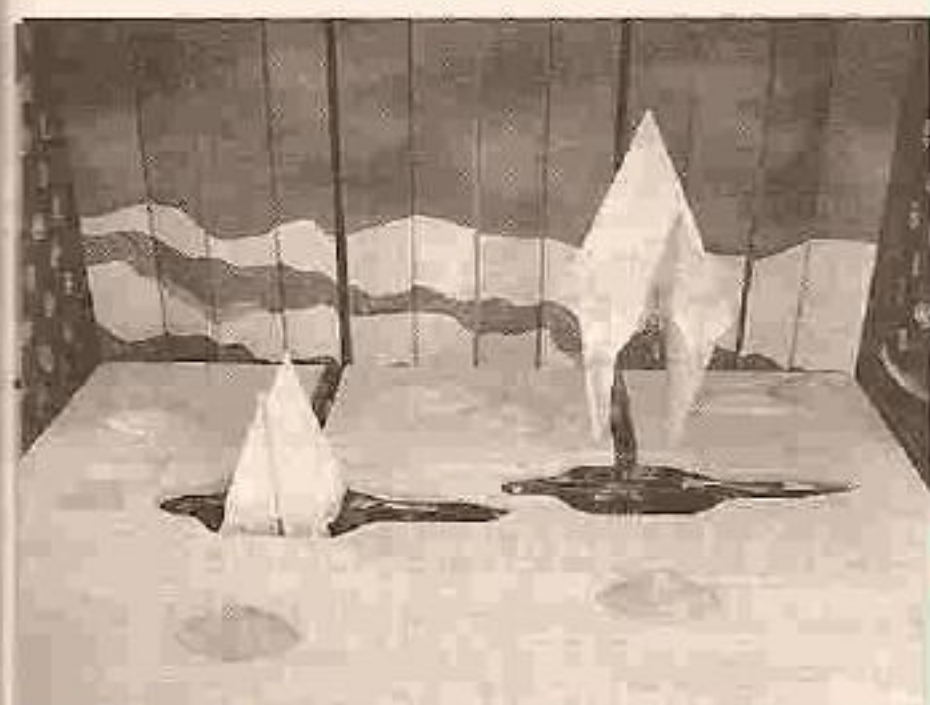
社内のイベント展示の後、4月23、24日に愛・地球博の愛知県ウィークPart1「愛知山車百両総揃え」に出展。多数の本物の山車と一緒に、屋外で祭りながらに夜まで途切れることのない観客を前に、フル稼働で実演しました(写真13)。実演回数は山車100両の中でダントツ1位だと思います(何しろ全自動ですので…笑)。

その後舞台裏の小物などに改良を加え、愛・地球博「世界からくりコンテスト」(9月18、19日)に出品。世界13ヶ国642点の応募作品の中から「優秀賞」(準優勝)を頂きました。

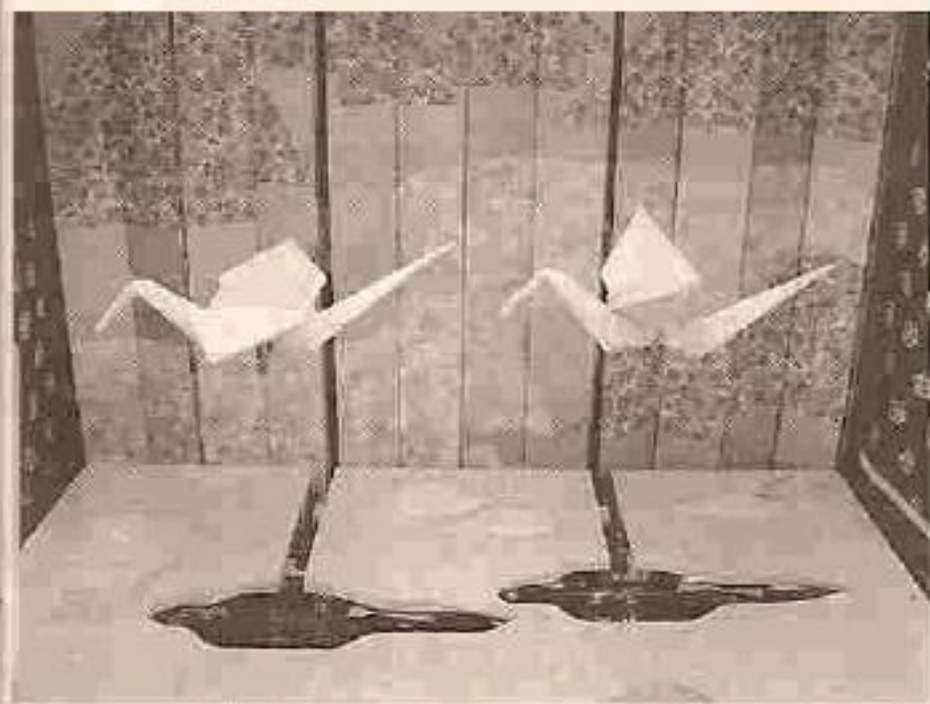
からくりの世界において折り紙を題材にしたものは、この作品が唯一のものです。一般的には人形が何かしらのストーリーを演じるのですが、それらに比べボリューム感の少ない折鶴がこの「からくり」で立派に主役を演じてくれました。これは折鶴が簡素ではあるけれども非常に洗練されたデザインであり、気品に溢れた形であることの証明のように思います。



▲写真13



▲写真10



▲写真11



▲写真12

Afternoon Origami

第4回 吉澤章を受け継ぐ人たち・その2 The legacy of Akira Yoshizawa, part 2

前回は、マックス・ヒュームさんに、吉澤章さんから受けた影響について質問しました。私が2番目に質問をした折り紙アーティストは、マイケル・ラフォースさんです。マイケルさんは、米国マサチューセッツ州ハイバーヒルに Origamido Studio を開いています。彼の作品と活動を紹介するには、私の質問に対する彼の答えを読んでもいただくのがよいでしょう。

マイケル・ラフォース

—吉澤章さんの作品を知ったときのことを話してください。

ラフォース: 私が吉澤先生と彼の素晴らしい折り紙作品に初めて触れたのは、10歳ぐらいのときに読んだリーダーズ・ダイジェスト誌の記事でした。私は5歳の頃から折り紙を始め、折り鶴や風船、飛行機、蛙、花などの伝承作品を折っていました。しかし、吉澤さんが折るような折り紙は見たことがありませんでした。私は、彼の折り紙作品と、その記事に書かれていた彼の半生に深く感動しました。いわばショック状態の中で、自分もこの道に進むのだと思いました。

その後何年か、私にはその記事の写真だけが頼りでしたから、彼の動物作品に2枚の紙から折ったものがあるということも知りませんでした。それは、私にとってはかえって良いことでした。作品を不切正方形1枚で再現しようと努力し、最終的には成功したからです。その後も休むことなく創作を続け、当時としては画期的な創作技法を、独自にいくつも見つけましたが、リアン・オッペンハイマーさんに会って、彼女が持っていた膨大な本や作品のコレクションで「最先端の折り紙」



Photo by Joseph Wu 1997

に触れるまでは、そのことに気がつきませんでした。私の作品は、創造性の点で、当時のほかの誰にも引けを取りませんでした。私は、その後10年ほど、意図的に折り紙コミュニティから距離を置き、自分の折り紙を自由に追求しました。

—彼に初めて会ったのはいつですか。そのときの印象は?

ラフォース: 私は1991年になって、ついに吉澤先生とお会いしました。ニューヨーク州オシニングで開かれたマスタークラスでのことでした。リアンさんと吉澤先生がお二人ともご存命だったので、私はとてもうれしくなり、願ってもないタイミングで折り紙コミュニティに戻ることができたと思いました。私の人生を根底から大きく変えた人物とついに会うことができ、私は本当に興奮しました。

—彼から学んだことで大切なことは何ですか。

ラフォース: 私が学んだことは、新しい折り紙を創作することは可能なのだということです。彼の創作活動についての記事を読むまでは、そのようなことは考えもしませんでした。私はなぜか、人ができることはすべて、すでに発見されているものだと思い込んでいました。

・折り紙は表現的で力強い芸術になり得

るということ。吉澤さんの作品の微妙な形には、見る人が生き物の性格を想像できるような包容力があります。

- ・目標を実現するのにどんなに長い時間がかかろうとも、完全を目指して努力すること。決してあきらめないこと。どんなことでも後回しにせずに、それに専念するときがくるまで考え続けること。
- ・最高の紙を使うこと。工程のすべての段階で、最も適切な高品質の素材を求めること。
- ・題材をよく研究すること。作り手が題材について知識を持っているか、それとも無知であるかは、最終的な作品に表れます。

これらは、私が作品を作るときに信条としていることの一部でしかありません。私はまた、折り紙でプロになれるということも学びました。私は折り紙を40年以上も続けてきましたが、そのうち20年はプロとして活動しています。1970年代の中ごろから、「Origamido (折り紙道)」という言葉を使い始めました。一般的な、簡単な形を折るような折り紙とは異なる、充実した芸術を目指したいと思ったからです。自然を研究し、生き物を折り紙で表現することは、まさに私のライフワークであり、芸術を実践する道なのです。

Origamido という言葉についてですが、私が吉澤先生にお会いしたとき、このような私の折り紙についての考えをお話しすると、彼が言うには、「道」という言葉は、歴史ある武士道と強く結びついているので、日本人としてはそう簡単に使えない、ということでした。高齢の、伝統を重んじる日本人の多くにとっては、この言葉はしっくり来ないものなのかもしれません。しかし吉澤さんは、Origamido の本質については私に賛成し、日本人でない人がこの言葉を考えて使うのは、日本でも受け入れられるだろうと言いました。私



Photo by Richard L. Alexander 1988

○David Brill(デビッド・ブリル)＝イギリスを代表する折り紙作家の1人。1975年よりBritish Origami Societyの活動に積極的に参加、代表も務めた。折り紙以外の趣味は油絵。写真は折紙探偵団コンベンション後のツアーから。左はニック・ロビンソン氏。



は、リチャード・アレクサンダーさんと、1996年に Origamido Studio を設立し、人々に折り紙を教えたり、本格的な折り紙作品に必要な紙を制作できるようにしました。私たちのスタジオに Origamido という名前を付けたことについては、吉澤さんも気に入ってくださいました。

—彼の作品で最も好きなのは何ですか。

ラフォース: 最も好きな作品をいくつかに絞るのは難しいですが、真っ先に思い浮かぶのは、リーダーズ・ダイジェスト誌の記事にあった自画像と、2本の足で立っている緑色の小さな雀の2つです。自画像は、レンブラントの自画像にも匹敵する傑作だと思います。この作品は私に対して力強く語りかけ、私の「芸術魂」に火をつけました。

雀は、私が最近見た先生の作品の1つです。それは、彼の米寿をお祝いするためにお宅を訪れたときのことでした。私たちの前の低いテーブルにその作品が置かれたとき、私は釘付けになりました。これほど完全に題材を解釈した折り紙を、私はそれまでに見たことがありませんでした。それはまるで、餌を見つけた瞬間に固められたかのように、存在の力強さを示していました。

—彼の技法で素晴らしいと思うのは何ですか。自分でもその技法を使いますか。

ラフォース: 私はすぐに厚い紙でウェットフォールディングを試してみました。そして16歳のときに、自分で紙を作り始めました。また、様々な糊を試し、折っている途中にメチルセルロースを塗るという方法を発見しました。このような素材と技法の組み合わせは、私の生徒にも好評です。

—あなたの作品で、彼の影響を表しているのはどれですか。

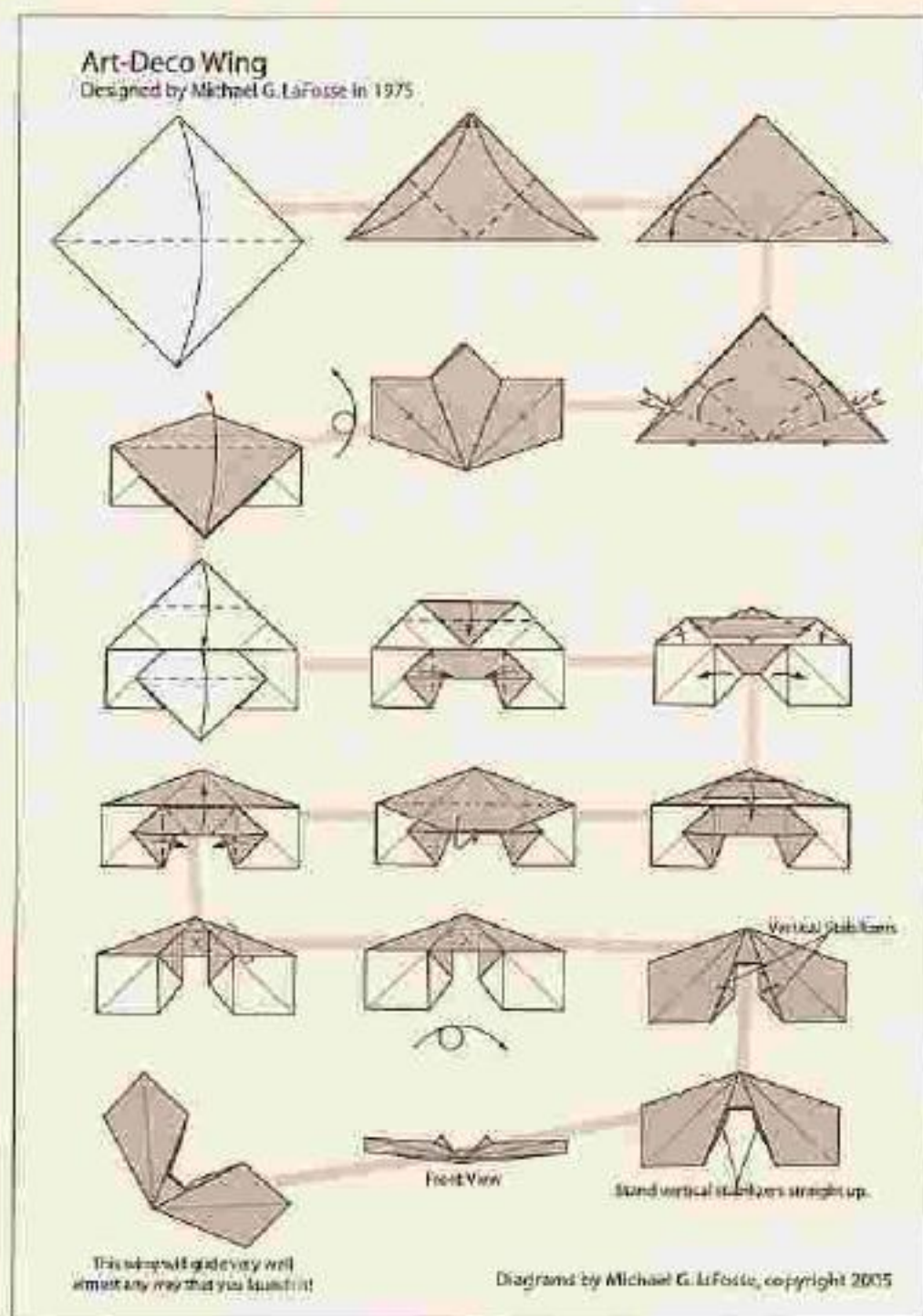
ラフォース: 私の作品の中では、コウモリ、金魚、蛙、亀が、吉澤さんの影響をよく表していると思います。吉澤さんは生物学に造詣が深く、私もこれらの題材を大学で本格的に学びました。私は、自分で捕まえたり、助けたり、観察したりした特定の個体を作品にすることが、よくあります。コウモリのような委細な作品は、10年以上にわたる調査と研究の成果です。吉澤さんが根気よく完璧な折り紙作品を作っているのを知らなければ、私はこのようなことを考えもしなかったでしょう。

—吉澤さんについて他に言いたいことはありますか？

ラフォース: 私はリチャードさんと、吉澤さんの作品と人生についてよく話します。私たちにとって吉澤さんは、信奉者に教えを諭す師範だと思っています。私は吉澤先生と、共通の知り合いやアーティストについて話したり、折り紙哲学について語り合ったり

しましたが、十分にお話しすることはできませんでした。数えきれないほどの彼の写真、特に1970年代のものを見返すと、私たちが同じぐらいの年齢になって、しかし先駆的な指導者がいないとしたらどうであるか、想像してしまいます。私たちでさえ、折り紙のプロとしてやっていくのは難しいのですから、彼の苦労はどれほどであったのでしょうか。彼がもっと私たちに近い世代だったら、と願わずにはいられません。彼は明らかに、前時代的な厳格な社会と「型」の規範に縛られていました。もし彼が今折り紙を始めたら、彼の人生と芸術は、どのようになっていたのでしょうか。

吉澤さんの芸術は本当に広範な影響力を持っています。彼の作品に影響を受けた折り紙アーティストが、世界中にたくさんいるのです。私を含め、多くの人にとって、彼と彼の作品を知ることができたというのは、本当に幸せなことです。



おりがみ庵

Origami-An's Quest for Origami Archives

第14回

Okamura Masao

岡村昌夫



色刷り展開図(その2)

Color-Painted Crease Patterns (2)

ビッグバン所蔵の折紙史料

2000年の夏だったと思う。川村みゆきさんからの情報で、堺市に出来た大型児童館「ビッグバン」に貴重な折り紙資料が収蔵されたらしいということであった。調べてみると、かつて京都書院から出た「おもちゃ博物館」(全24巻)に収められた某氏の膨大な玩具コレクションがバブル時代に大阪府に買われて、新装なった大型児童館に収蔵されたのだという。早速、ご当地にお住まいの吉田正美さんに案内をお願いして、東京から人形玩具学会の小林すみ江さんと共にかけつけて、未整理状態の、主として明治以後の玩具コレクションの一部を見せていただいたのである。

アニメかSF映画を連想させる奇妙で巨大な建物には驚いたが、折り紙資料に関しては、大正期以後の断片的なものだったために、当時、江戸期か明治初年のものばかりを追いかけていた私は、ついそのままに放置してしまったのだ。

ただ、前回(91号)の本欄で扱った、私の言うところの「色刷り展開図」と同類の

物が、その中に大量に含まれていたことは忘れてはいなかった。箱入りのもの(上製品か)と、袋入りのもの(廉価版か)が少々、その他、業務用と見える、紙テープで束ねただけの、大量のむき出し状態の現物がコンテナの中に重ねられていたのを覚えていた。

その時のメモを頼りに、今回改めて問い合わせで明確になったことを、手持ちの史料と合わせて報告したい。

「桃太郎ヲリカミ」

前回に少し書いたことだが、某氏がこの3月にネット・オークションで落札した箱入り「桃太郎ヲリカミ」は、シリーズの「No.6」であるが、その「No.4」と「No.5」と、さらに内容的に同種の、袋入り「チエノヲリカミ」が「ビッグバン」所蔵折紙史料の中にあって、貴重なことには、その袋の裏に「大正十年三月二十五日印刷 同月三十日発行／著作兼印刷発行者 大阪市東区北久宝町四丁目十四番地／矢野松太郎」と印刷してあったのだ。

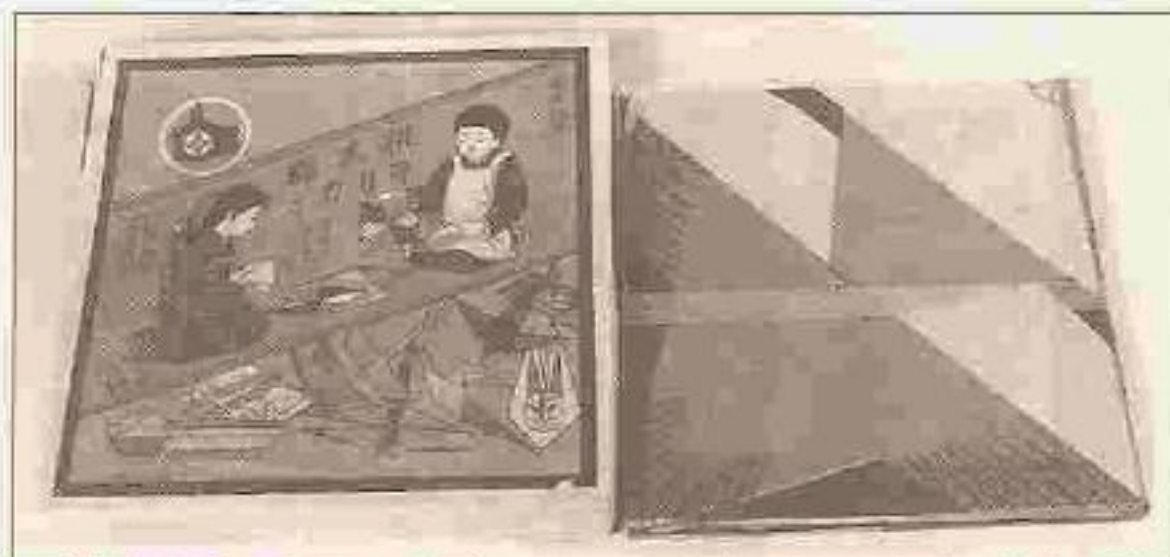
箱入り「桃太郎ヲリカミ」の方には「実用

新案 意匠登録」と書かれ、袋の方には、「意匠登録 出願中」と印刷されているので、こちらの方がすこし後に発行されたものかも知れない。「意匠(デザイン)」が両者共通なので、すべて同じ発行者「矢野松太郎」のものであると考えてよからう。従って「桃太郎ヲリカミ」は大正10年以前の発行と考えられる。これらが、戦後に至るまで、発行され続けていたわけだが、昭和になってからの発行者が同じかどうかは不明である。

前回に図版を載せた戦前版の「立体折紙」の「アーチ」の日章旗と軍艦旗が、戦後版では日米親善の日の丸と星条旗に改訂されていた。大正10年版にも日章旗と軍艦旗のアーチが描かれていて、この作品が意外に古いことが分った(このアーチの穴は切り抜いている。サンボウの左右の耳を潰して旗にしたもの)。

戦前版の「タビビト」は、「桃太郎ヲリカミ No.5」では、「アカケツウ」(赤毛布)で、大正時代を感じさせ、同様にヤッコサンが「スズメ」になっているのも古い伝承である。

「ビッグバン」所蔵の「No.4」「No.5」には、主に日本の伝承と思われるものが採用されている(「ズキン」「ブタ」などはヨーロッパ系)。私の手許にある「No.6」は、男雛女雛・六歌仙の純日本系なので(カ



▲「桃太郎ヲリカミNo.4」大阪府所有／大型児童館ビッグバン所蔵



▲「桃太郎ヲリカミNo.5」大阪府所有／大型児童館ビッグバン所蔵

○岡村昌夫(おかむら・まさお)＝1934年
東京生まれ。都立高校の国語教師を11
年前に定年退職。折り紙以外の主な趣
味は能・歌舞伎を観ること。



ラーページに写真掲載)、おそらく、
「No.1」から「No.3」には、当時の折紙の中
心を占めていたヨーロッパ系が多かった
のではないだろうか。

「No.6」の六歌仙は素朴なもので、業平と
黒主を同じ平凡な形にしたり、喜撰の衣を
赤くして遍昭と似てしまったり、他にも伝統
的な約束事を無視しているところがあり、
上出来とは言えないが、もともと大人の折
紙だったものを子供向けの「教育玩具」に
したのだから止むを得まい(六歌仙につい
ては次回に詳しく述べる予定である)。

木内菊次郎の新案用紙

折手順を伝授するための印刷折筋付
きの折紙用紙はモノクロ版もカラー版も、
江戸時代、19世紀初期に関西では盛ん

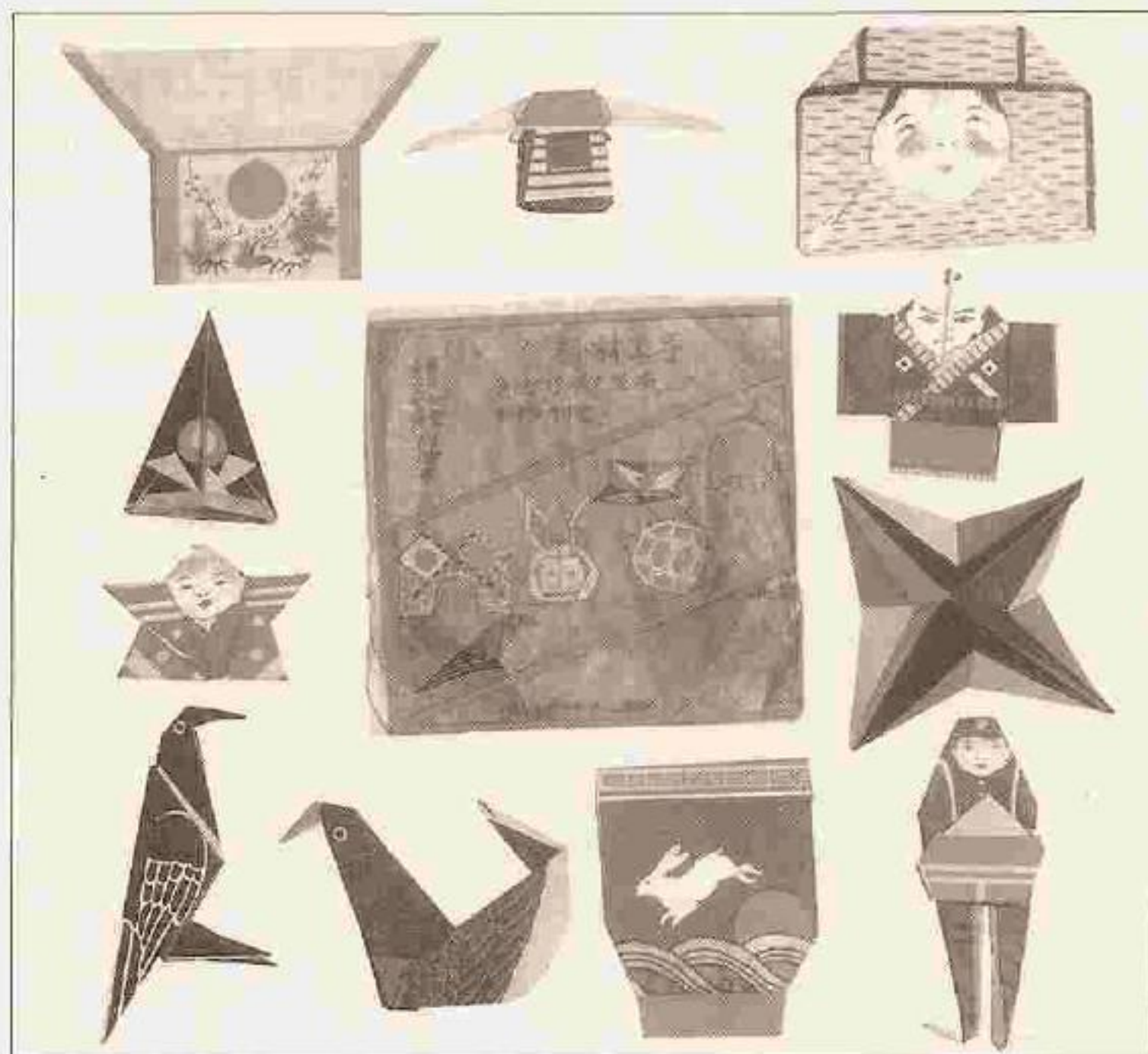
に出版されていたらしい。文化3(1806)
年、大坂版の『福助折形工夫の伝』など
はモノクロであったが、しばらく後の『か
やら草』に記録された原資料は色刷り
で、両面印刷だった可能性もある。そし
て、それらは山・谷の区別を、線種や他の
方法で明示するのが例であったが、明
治末年に東京の「内山模型製作所」発
行の内山道郎作の諸作は、山・谷の明示
が無く、それが意匠登録されているとこ
ろを見ても、江戸期からの伝統とは別個
に考案されたものらしい。しかし、以上す
べて購買者が自分で正方形に切り取っ
て使用するようになっていて、正方形に
裁断されてはいなかった。

ところが、裁断して販売された同種の
色刷り展開図用紙が明治末年に大阪で
作られていたのである。考案者は明治41

年に京都師範学校教諭として千葉師範
から転勤して来た木内菊次郎であった。

その明治41年に実業之日本社から出
た『折紙と図画』は木内の代表作である
が、その前編第二章に「図画と折紙とを
結合したる拙者新案」の「特製折紙用
紙」を「大阪北区壺屋町北馬商店」から
発行した旨を記している。同年発行の
『手工研究』第2輯(手工研究会機関誌)
に寄稿した木内の「折紙細工の研究」に
よれば、その特別用紙は、5寸平方の紙
に「其寸法を各辺に記入したること」「折
方を指定する主なる線を表はしたること」
「折り上がりたるものは実物に近き彩色を
施したれば」など書き、さらに「美濃清長
版の色紙は大抵一枚二銭である。そし
て此紙よりは五寸平方の紙四枚よりは多
く取り得ないから(中略)一枚の価は五厘
に当る。新案用紙は一枚売ならば五厘で
あるが、百枚売ならば(中略)一枚は三厘
若くは四厘で寧ろ利益であります。」など
と書いている。この記述によって、従来の
折紙用紙の色紙は正方形に裁断されて
販売されていなかったこと、木内の新案
用紙は五寸平方に裁断されていて、折り
線付きで、仕上がりが写実的になるよう
な彩色がされていたことが明確に分る。
『折紙と図画』では、山・谷を一点鎖線と
破線で区別しているから、この新案用紙
も同様な区別をしていたと推定されよう。

同じ大阪で大正10年、或いはそれ以
前に発行された「矢野松太郎」の色刷り
展開図が、明治41年の木内考案「北馬
商店発行」のものとのような関係にあっ
たか、興味を引かれる事例である。この
時代に至っても、折り紙文化は、「西高東
低」だったのであろうか。



◀「チエノフリガミ」大阪府所有／大型児童館ビッグバン所蔵(大正10年)

第3回

六つの紙の風船

Six Paper Balloons

Many Japanese believe kami-fusen (paper balloon) has been a traditional toy since long ago, but this is wrong. Even an origami balloon is not a long-standing model in Japan. This model, a water bomb or a paper prison in the West, was introduced to Japan about a hundred years ago.

In this article, I introduce variations of water bomb (a.k.a. origami balloon), a cubic paper balloon that became popular as free gifts of door-to-door sales of drugs, and so on.

相も変わらず折紙散歩

Doing Origami Sampo
as (For) ever

『人情紙風船』を観た。『キネマ旬報』の日本映画オールタイムベストテンの上位にランキングされるなど、隠れた名作として知られる1937年製作の映画である。監督は山中貞雄氏。映画製作時27歳だが、これが彼の遺作である。あふれる才能を持った山中監督は、この作品の完成直後に召集令状を受け、翌年、中国戦線で戦病死したのだ。

監督自身のそうした運命を措いても、『人情紙風船』は、深い印象を残す映画である。江戸の貧しい長屋を描いた物語なのだが、今の世にも通じる、金が仇の世の中の閉塞感が胸に迫る。往時にカメラを運んで撮ったのではないかと思えるような、リアリティーに満ちた画面にも目をみはらされる。

しかし、気になる点もあった。ほかならぬ紙風船である。タイトルであり、重要な小道具として使われ、作品を象徴する紙風船。わたしは、観る前から、それに疑問があった。つまり、江戸時代に紙風船なるものはないはず、ということである。なお、物語の中には、紙風船という言葉自体は登場しない。これはもっともなことである。風船はballoonの訳語として明治以降につくられた言葉と考えてまず間違いのないのだ。船という文字があることからわかるように、ひとの乗る気球のことである。では、モノとしての紙風船、すなわち、舟形の紙を貼り合わせた、球形のあの玩具は、いつの頃からあったものだろうか。たとえば、『日本人形玩具辞典』(斎藤良輔編)によると、明治24・5年から流行したとある。年号がはっきりして



日本風船地図
The balloon map of Japan

いるのは、明治23年に浅草で軽気球の見世物があったことがきっかけになったためらしい。ただ、当時という風船は、今でいう落下傘の場合もあるので、紛らわしいところもある。一方で、空気玉、さらにはもっとゆかしく紙手鞠という呼び名もあり、原型が江戸時代からあった可能性がまったくないとは言いきれない。

虚実皮膜の間を描くのが芸術であり、時代考証の嘘は、映画の価値をいささかも減じるものではない。また、『人情紙風船』というタイトルの詩情は換えがたく、作品にケチをつけているわけではない。しかし、ことが折り紙や折り紙周辺事情となると、どうも細かいことが気になってしまうのである。

なお、現在、あのタイプの紙風船の大半を製造しているのは、新潟県の出雲崎である。それが町の特産になったのは、やはり明治半ば以降である。現在使われているのは、グラシン紙系と思われる半透明に近い洋紙だが、そうした紙

が存在しない明治期は、たぶん和紙だったはずだ。したがって、質感は若干異なるものだったろう。最近では、蛸風船、河豚風船、パンダ風船、地球儀風船といったものもあり、わたしも買ったことがあるが、これは、なかなか楽しい。

き わめて日本的と思われるものが、実は、さほど古くなかったり、日本起源でないことは多い。紙風船こと紙手鞠はいざ知らず、折り紙の風船はまさにそうしたものである。折り紙の風船が、明治より前の文献や図版にまったく現れていないことは、岡村昌夫氏らの研究によって明らかなのである。一方で、同じモデルと考えられるものが、中に水を入れてぶつける「水爆弾」、虫を捕らえる「紙の牢獄」として、欧米に伝承していたことが、各種文献からうかがい知れる。折り紙の風船は、まず間違いなく、明治以降の伝来物なのである。

さて。わたしは最近、この折り紙風船の風変わりなバリエーションを発見した。湘南・江の島の参道の土産店で売っている「お願いふうせん」なるものだ。中に願い事を書いて、海に流すという趣向で、江の島観光土産品組合が販売元になっている。特殊な紙でつくられており、水に溶けて「環境に優しい」ところが、売りのひとつだ。しかし、なによりも、図で説明されている風船が「耳つき」である点が興味深い。このかたちはあまり知られていないが、やはり西洋の伝承である。ふつうの風船より面白みがあるものになっているのはたしかだ。問



紙風船は穴が開いたままなのに、たたいてもつぶれずに、かえてふくらみます。(なんか、教訓のようなものがあるような気がしないでもない)
Paper balloons have a hole on the bottom, but, when we bounce them, they will never be squashed and keep their original shapes.
—Sounds like we can learn a lesson from this, doesn't it?

前川 淳 Maekawa Jun

折紙創作・研究家。折紙モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため、長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。



お願いふうせん (願いとともに海に流す)
"Invocation balloon" (Prayers float them on the sea with their wish.)

題は、江の島に立ち寄ったカレシとカノジョが折りあげることがかなりの難題ではないか、と思われることである。山口真先生の指導を受けた形跡がない図は、山折り線谷折り線の双方が点線で、わかりやすいとは言いがたい。さらに、特殊紙が厚手なことが、折りにくさを増大させる。完成にこぎ着けるまでにキレてしまい、カップルは喧嘩、願掛けどころでなくなる、なんてことになるのではないかと心配だ。

紙 風船と言えば、富山の薬売りのおまけの立方体の紙風船がある。風船と聞いて、立方体を思い描くのが富山県人、球体を思い浮かべるのは他県人とかで、富山県観光連盟のシンボルマークにもなっている。この風船の畳み方は、側面を直角二等辺三角形につぶした六角形と決まっており、分解調査によると、用紙は、正方形2枚と約1対4の長方形1枚の、計3枚

であった。なお、首都圏でこれ入手したいひとは、有楽町の交通会館の地下にある「いきいき富山館」に行けばよい。そして、これも、歴史はどうであろうかと調べてみると、同じく明治半ば以降のものであることが判明した。

この他に、紙風船ネタとして、秋田県仙北市西木の冬の祭りである紙風船上げと、旧日本軍の「ふ号」兵器、いわゆる風船爆弾に関することも、以下、簡単に触れておく。

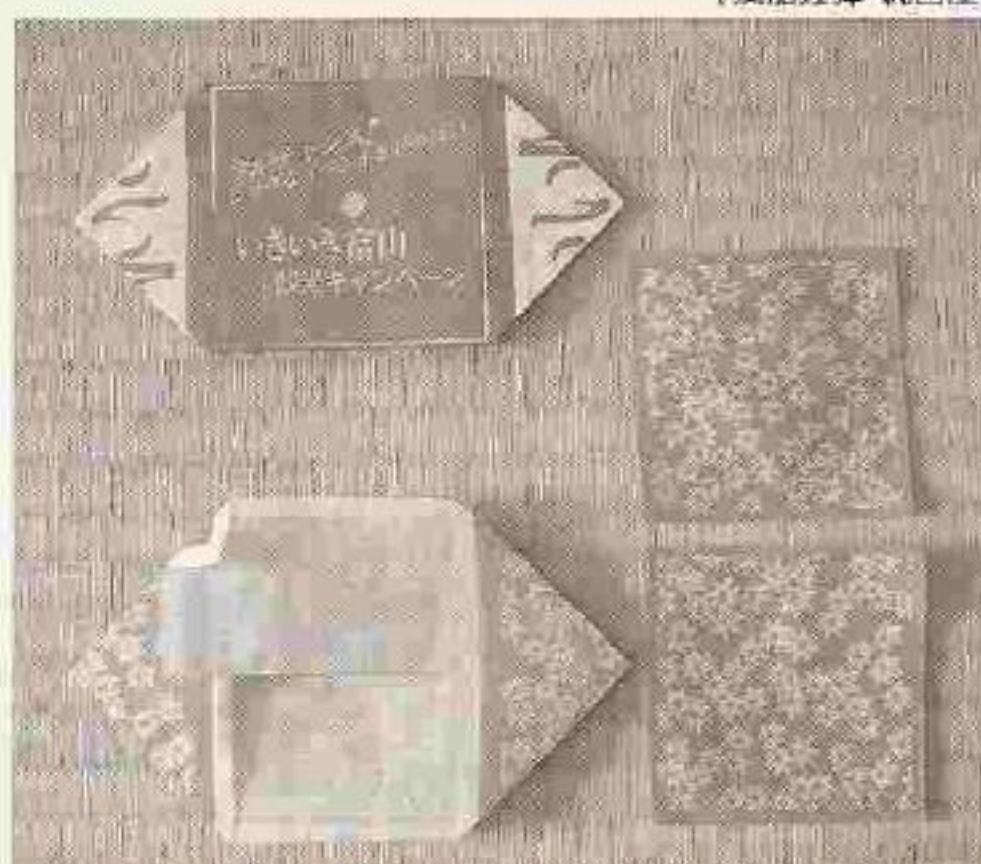
前者は、大きな和紙製の熱気球を夜空に上げるという、なかなか魅力的な祭りで、毎年2月10日に行われる。平賀源内と結びつける向きもあるようだが、近年のイベントであろう。

そして後者は、一般に思われているような、「竹槍で爆撃機を落とす」類いのばかげたものではない。奇抜ではあるが、合理的で計画性のある巨大プロジェクトのもとに製造された、ある意味で画期的な兵器なのである。それは、レーダーには捕捉不可能で、アメリカ本土に300発以上も到達した。死者も出し、生物化学兵器として使われた場合の危険性を考えると、きわめて恐るべき無差別殺戮兵器となる可能性を持っていたのだ。この風船爆弾もまた紙(和紙)でできていた。人情どころか、人命もまた紙風船だった時代、山中監督の命を奪った時代の産物だ。それは、そんなに遠い昔のことではない。

主な参考文献
『おりがみ庵ひとりごと』第23回(『折紙探偵団新聞』36号)
岡村昌夫
『風船爆弾-純国産兵器「ふ号」の記録』吉野興一



売薬おまけの紙風船
Paper balloons as free gifts of door-to-door sales of drugs



角紙風船の畳み方と構造
The folded form and structure of a cubic paper balloon

■名古屋コンベンションの終了と同時に、本格的に季節が切り替わったようです。
外出がだんだん億劫になってくるけれど、家には紙が待っている(笑)と思うと活力が湧いてきます。



「トゥインクル・クルーラー／6枚組、5枚組、4枚組」
作：川村みゆき (P.4)
TWINKLE CRULLER (6 sheets, 5 sheets, 4 sheets):
Kawamura Miyuki (P.4)



「スター・クルーラー／6枚組、5枚組、4枚組」
作：川村みゆき (P.4)
STAR CRULLER (6 sheets, 5 sheets, 4 sheets):
Kawamura Miyuki (P.4)

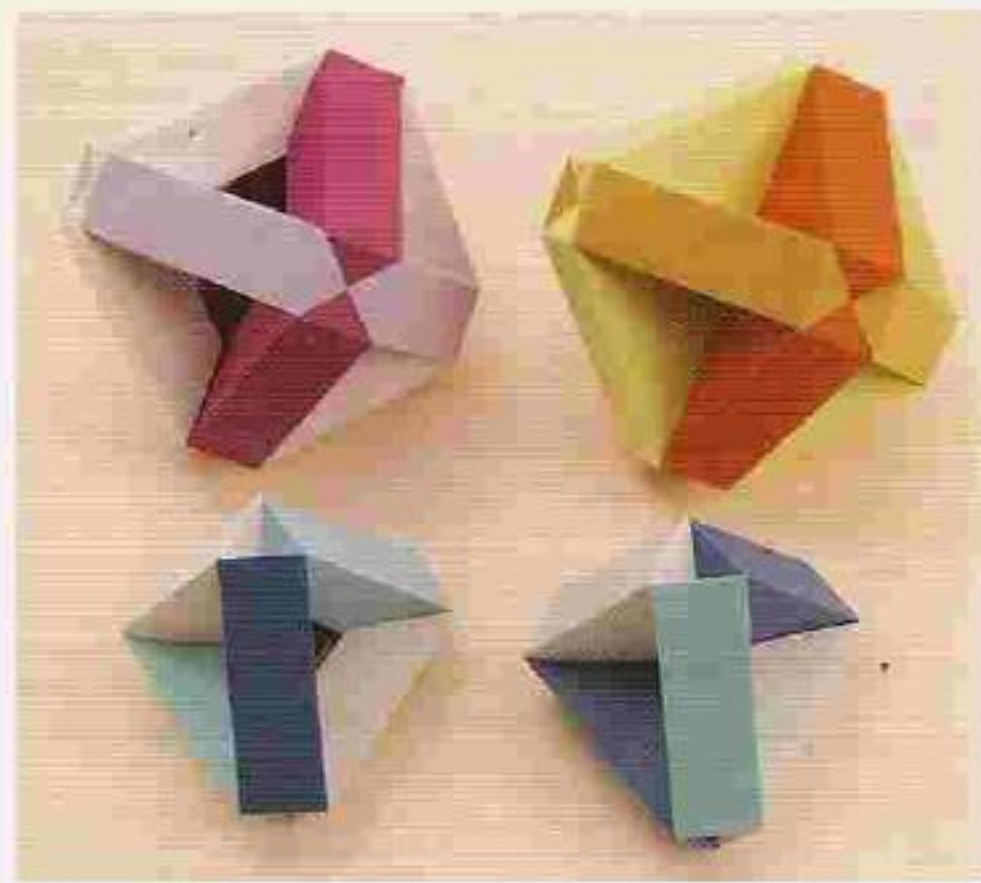
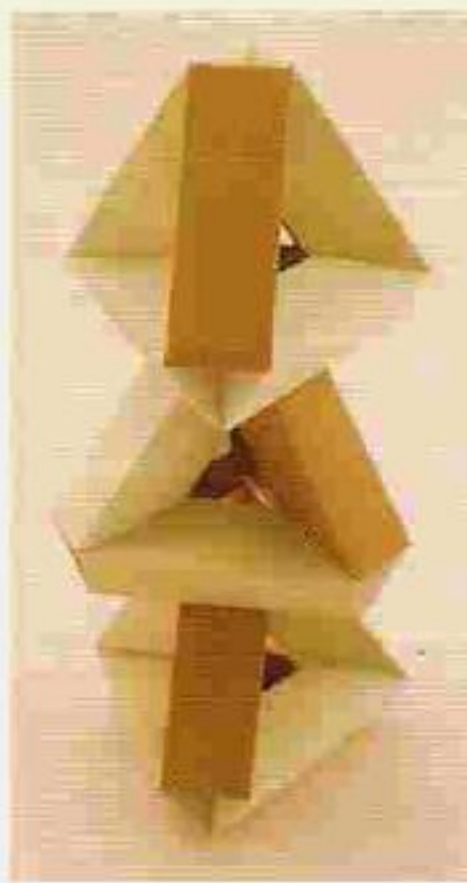
■ホイル紙のキラキラ感を魅力的に演出する曲面構成の作例と、「砂漠のバラ」を思わせるような硬質で鋭い平面構成の作例。実はこのふたつとも、ほぼ同様の構造からバリエーションとして導き出されています。

「テトラヒロンのバリエーション」

作：オカモト ヒロ (P.8)

"Tetrahiron" Revisited: Okamoto Hiro (P.8)

■ここ数年でユニットの組み方がさまざまに多様化し、意表をつくような接合方法が次々に生み出されています。パーツ同士の見事なフィット感を存分に楽しんでください。



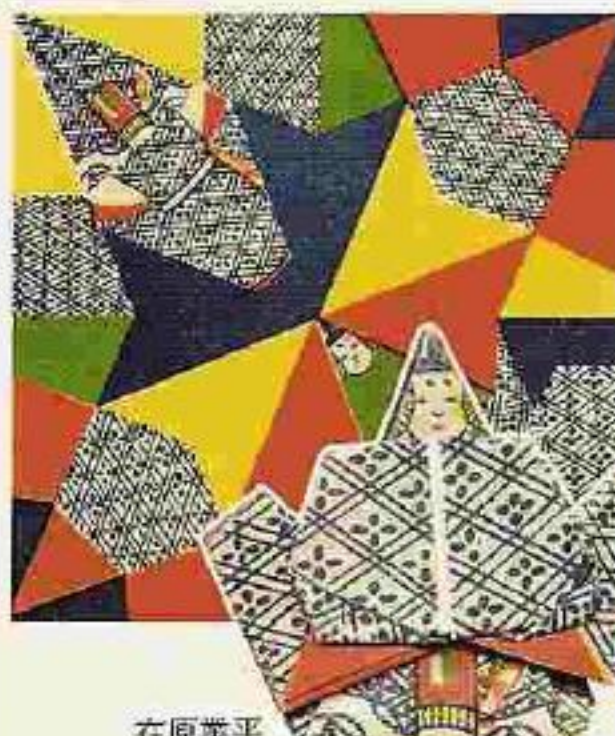
「色刷り展開図(その2)」 岡村昌夫・蔵 (P.16)

Color-Painted Crease Patterns (2)
(from Okamura Masao Archives) (P.16)



■以下、岡村氏による解説です。

大正前期に大阪で発行された「教育玩具」で、折り手順を示すための色分けをしているが、折り線を描かず、面を描いているところが従来のものと異なっている。これは「桃太郎ヲリカミ」シリーズのNo.6で、男女雛や六歌仙の古典的伝承折り紙の特集で、児童向けのためか易しい作品を扱っている。



在原業平

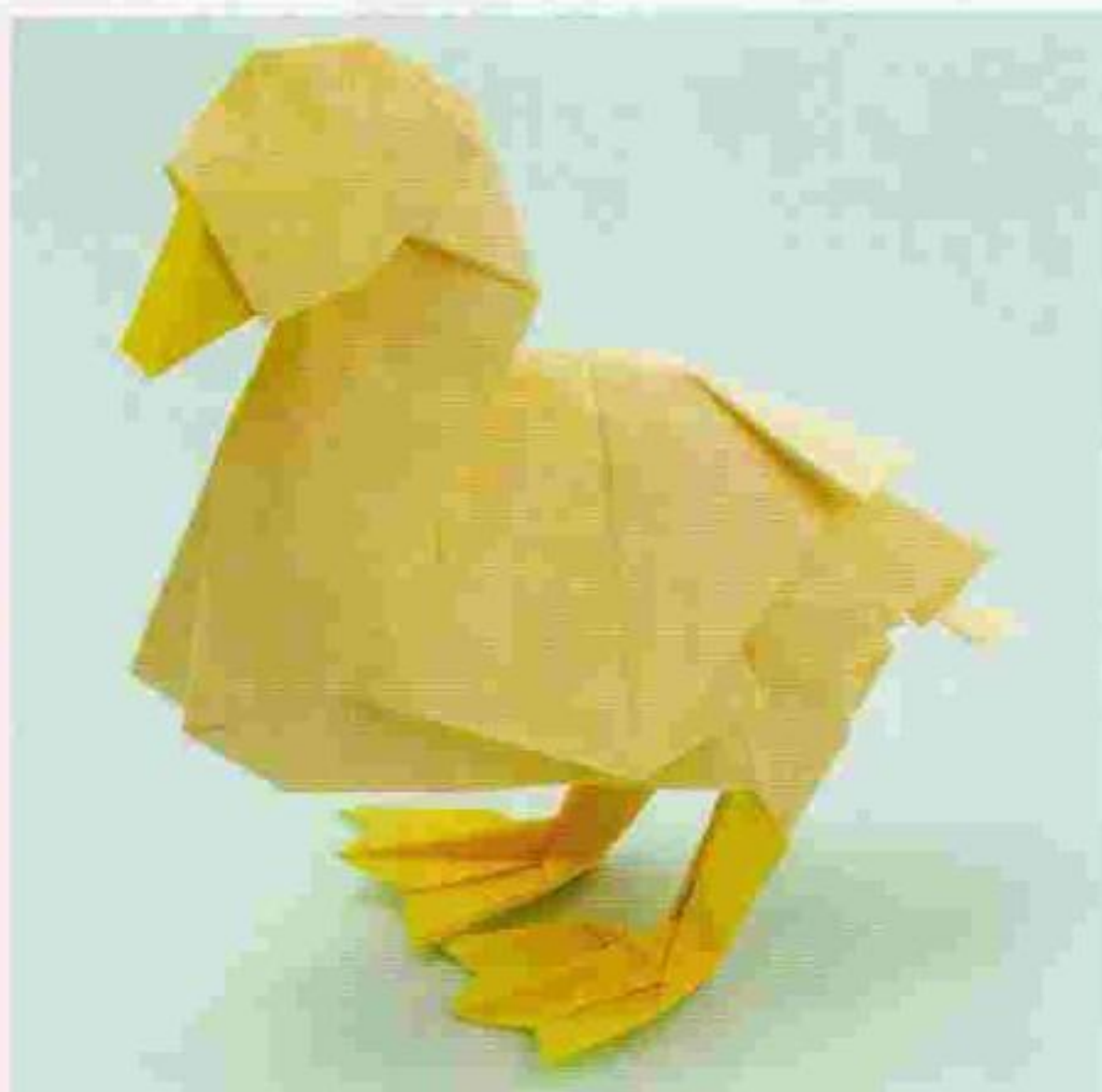


小野小町

「アヒル」 作：勝田恭平 (P.22)

Duck: Katsuta Kyohei (P.22)

■水鳥特有の「どっしり感」と、それを十分に支える脚部のデザインバランスを、折紙作品に適した形として再構成する技量に要注目。かわいらしくも貫禄たっぷりの作品となっています。



第1回折紙探偵団 名古屋コンベンション講習作品より

Photo by Watanabe Dai

The 1st Tanteidan Nagoya Convention Class Models

■新会場で開催された秋のコンベンションは盛況のうちに終了。スタッフのみなさま、おつかれさまでした。ここでは、会場の雰囲気をちょっとだけおすそわけします。

Designed by Tanaka Masashi, Miyajima Noboru, Komatsu Hideo, Kamiya Satoshi



Designed by Tanaka Masashi



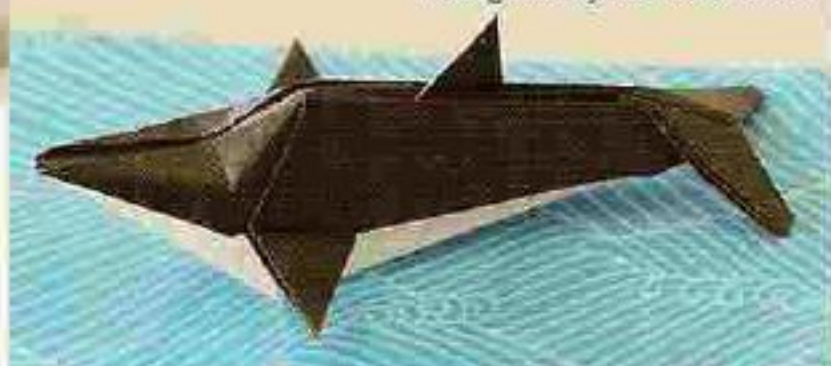
Designed by
Nishikawa Seiji



Designed by Yonami Ken



Designed by Maekawa Jun



Designed by
Kasumi Seishi



Designed by Watanabe Nachiko

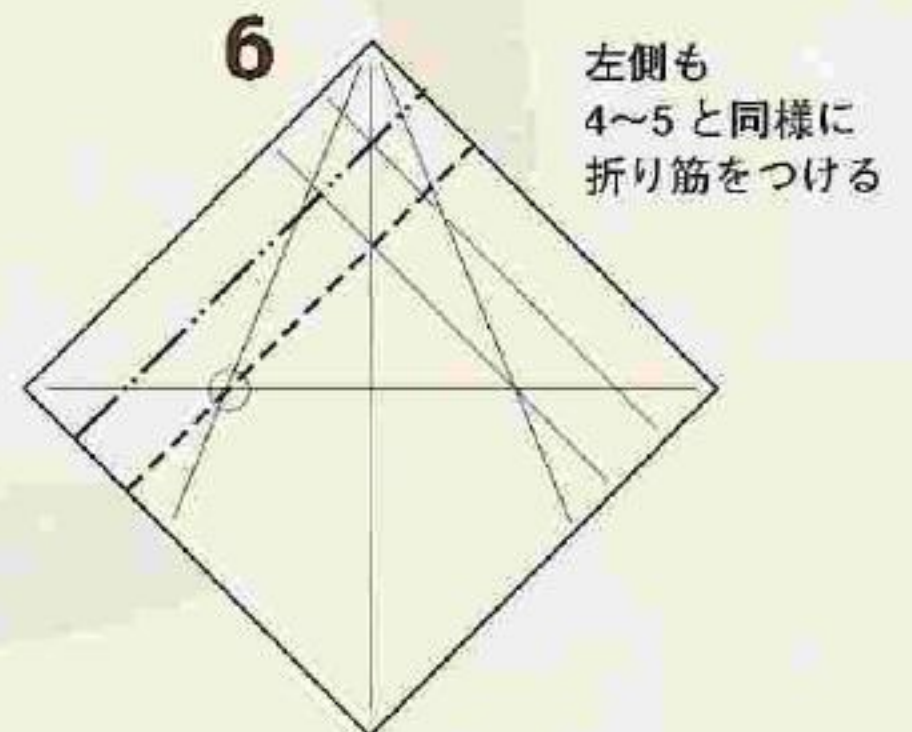
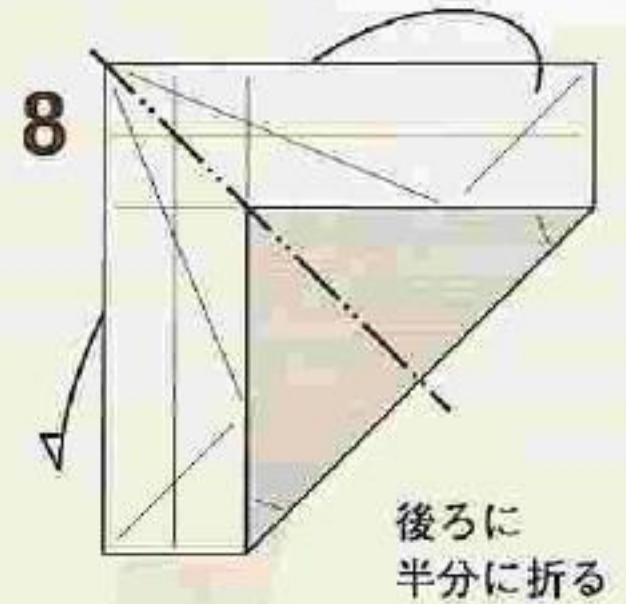
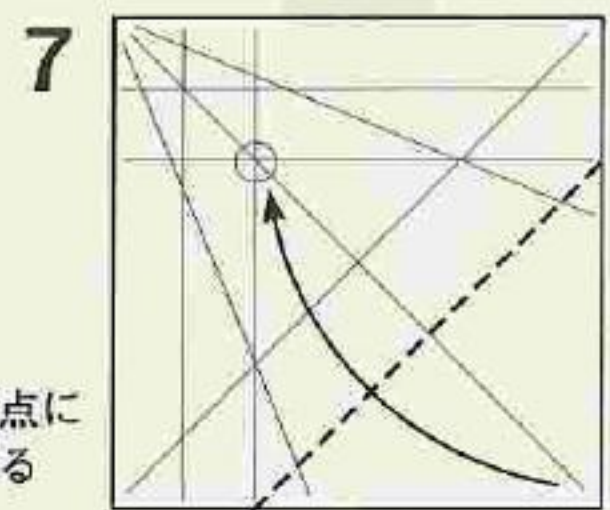
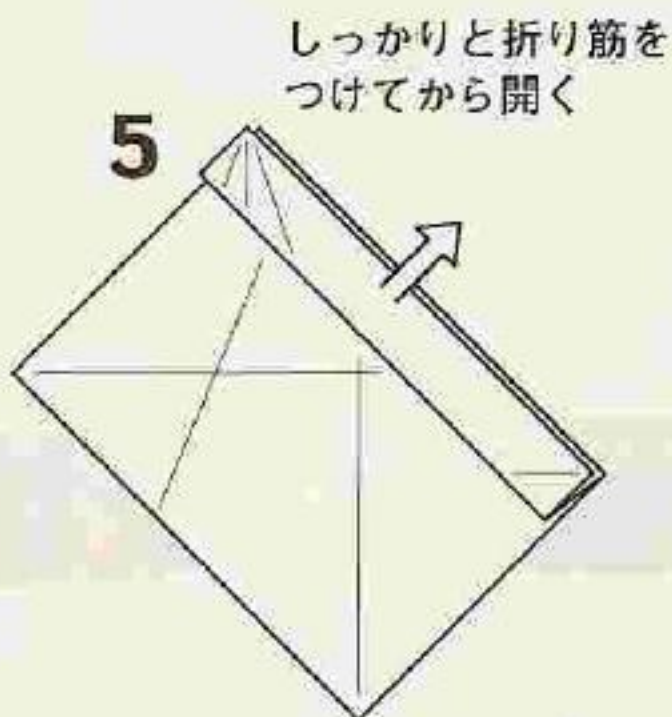
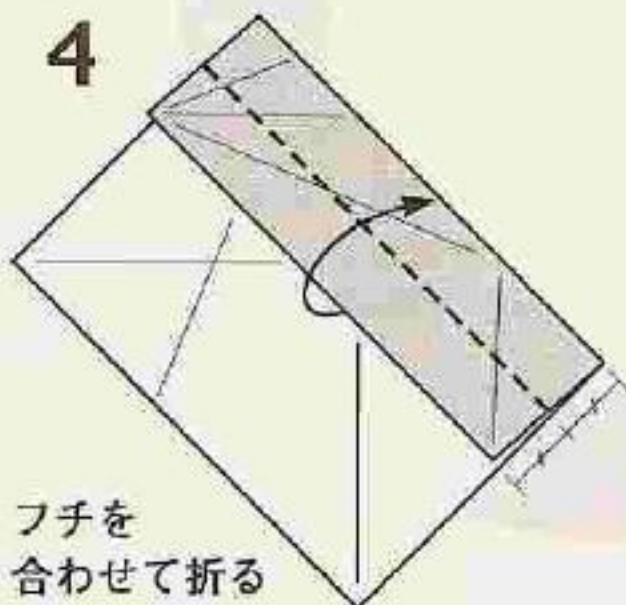
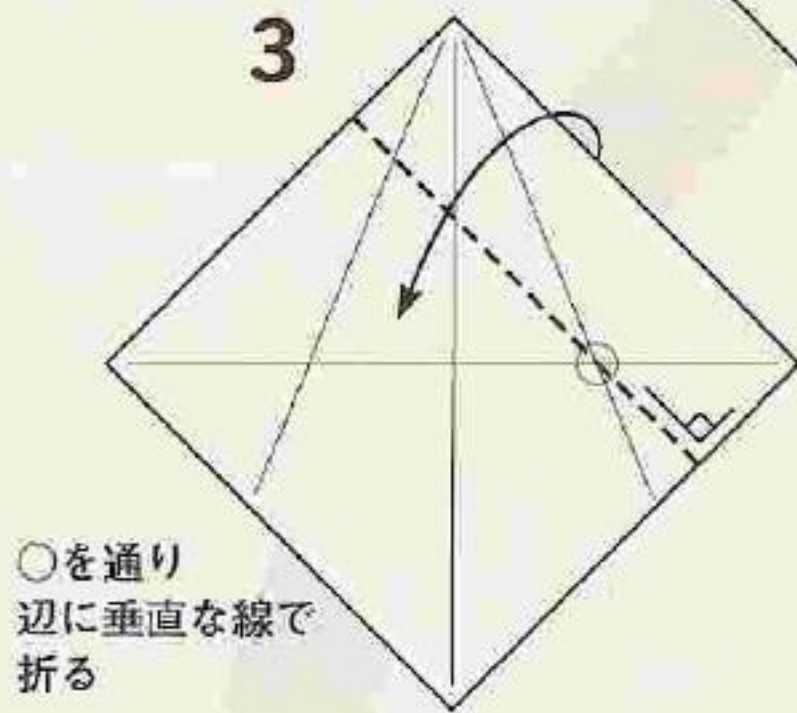
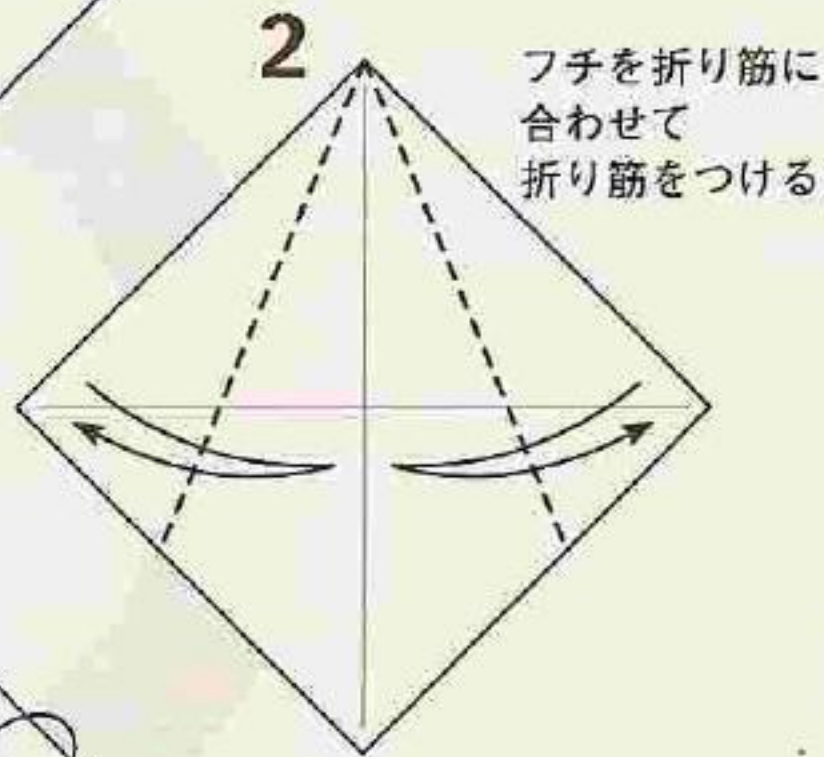
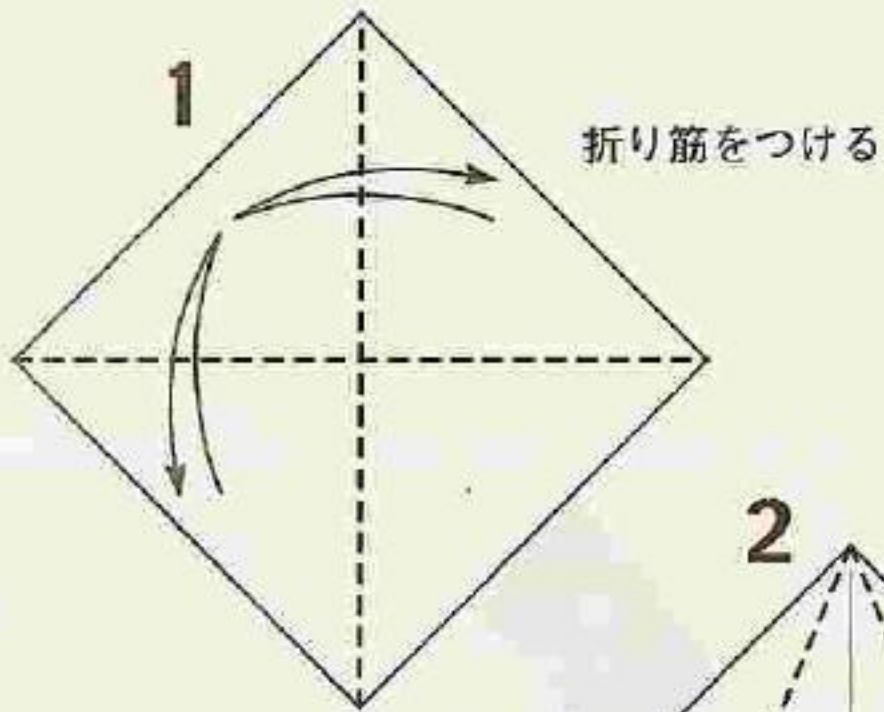
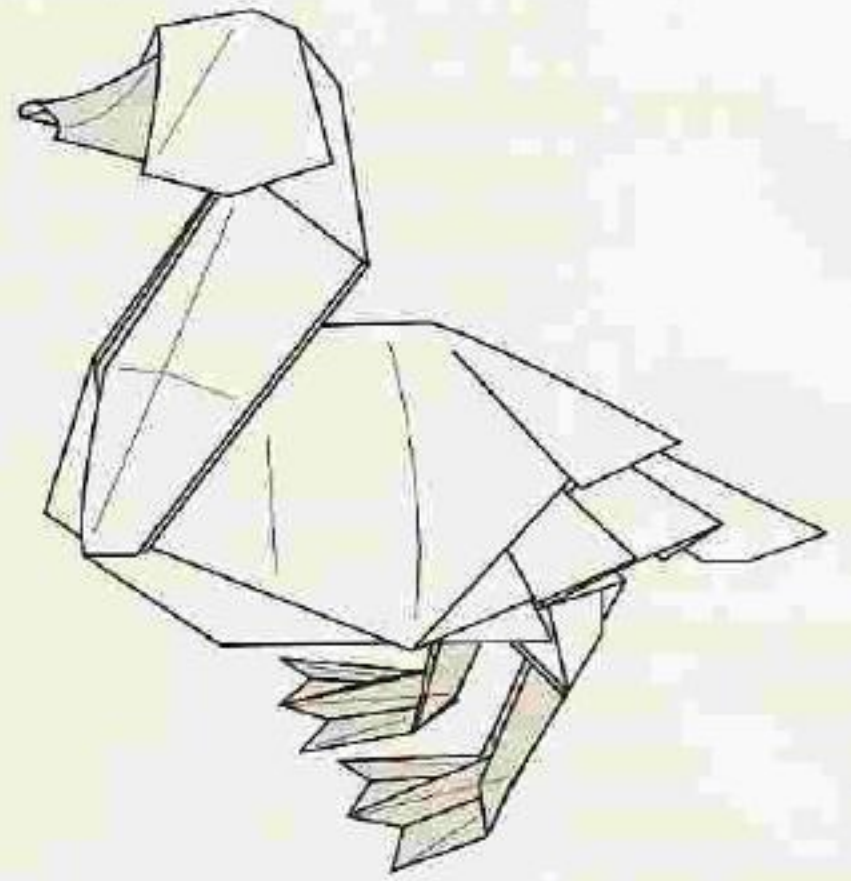


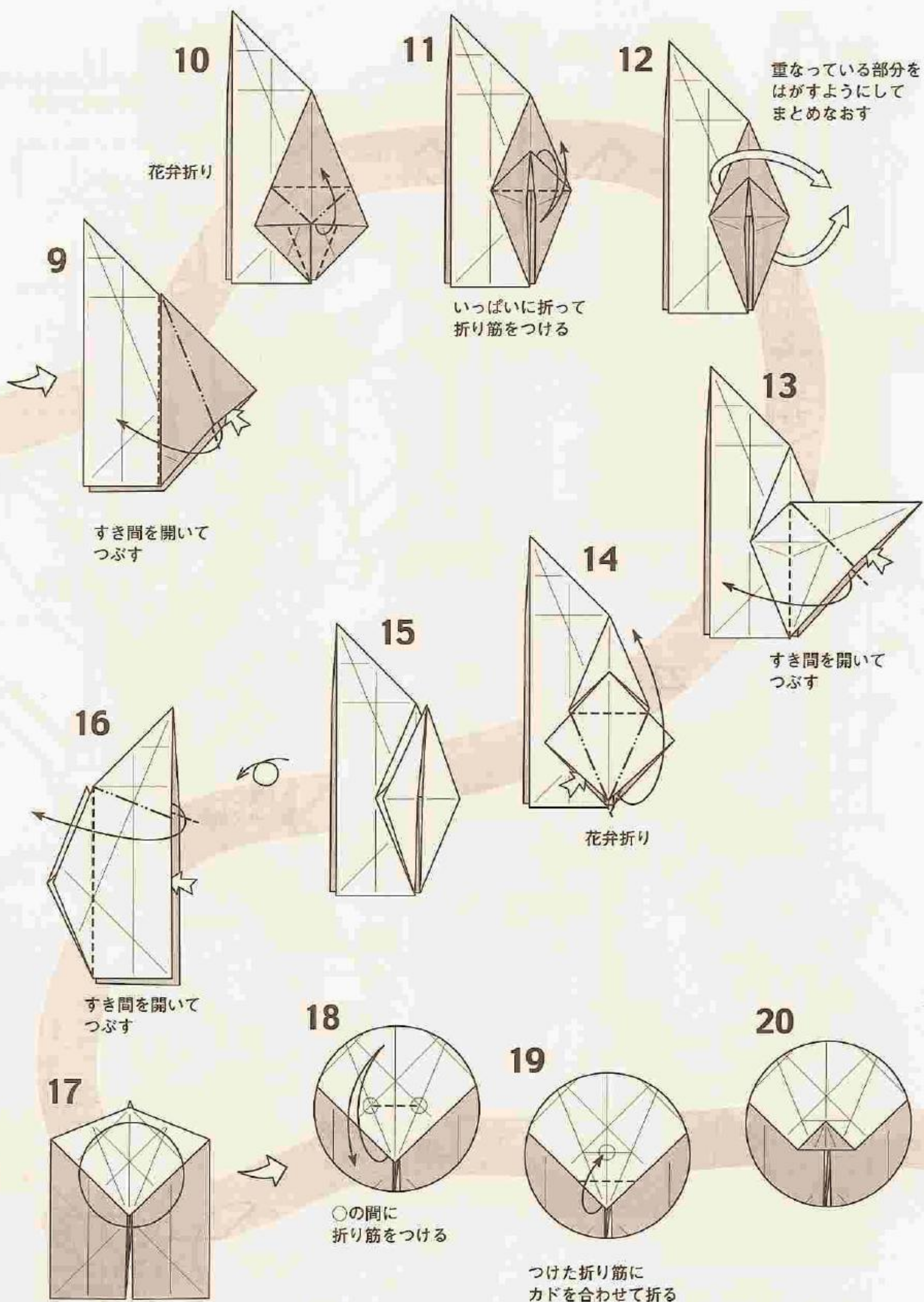
アヒル

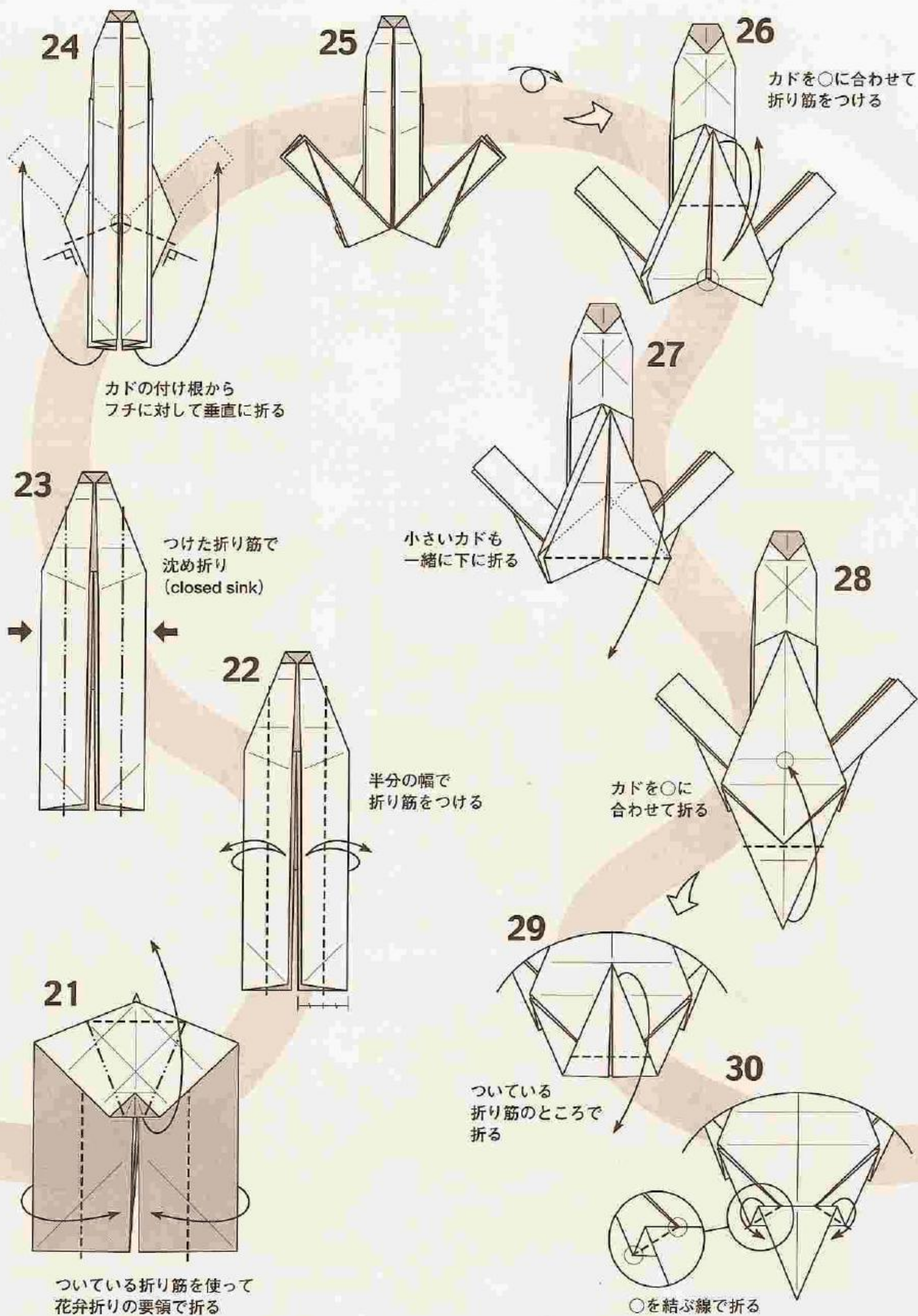
Duck

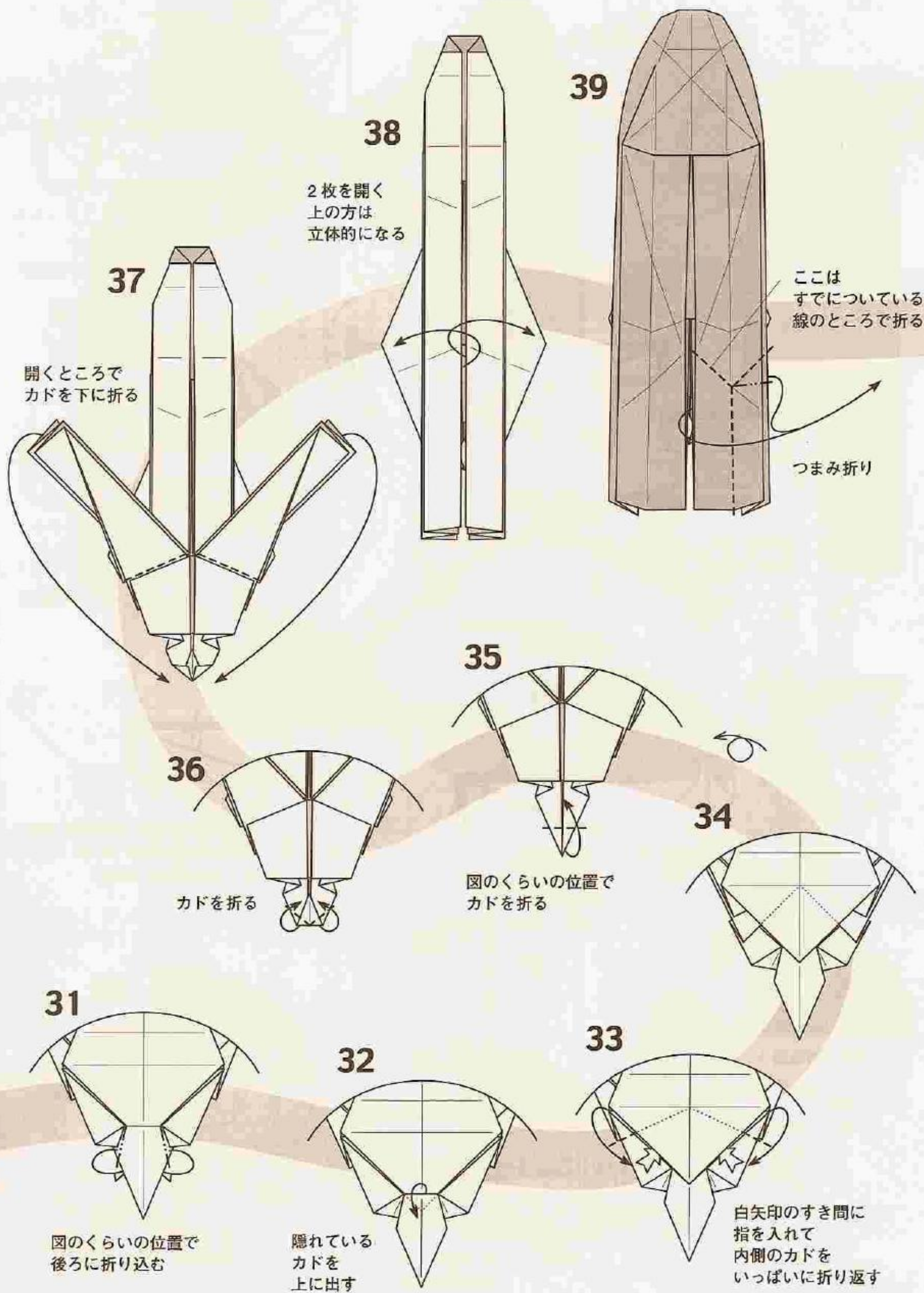
作 = 勝田恭平
Model by Katsuta Kyohei

折り図 = 小松英夫
Diagrams by Komatsu Hideo

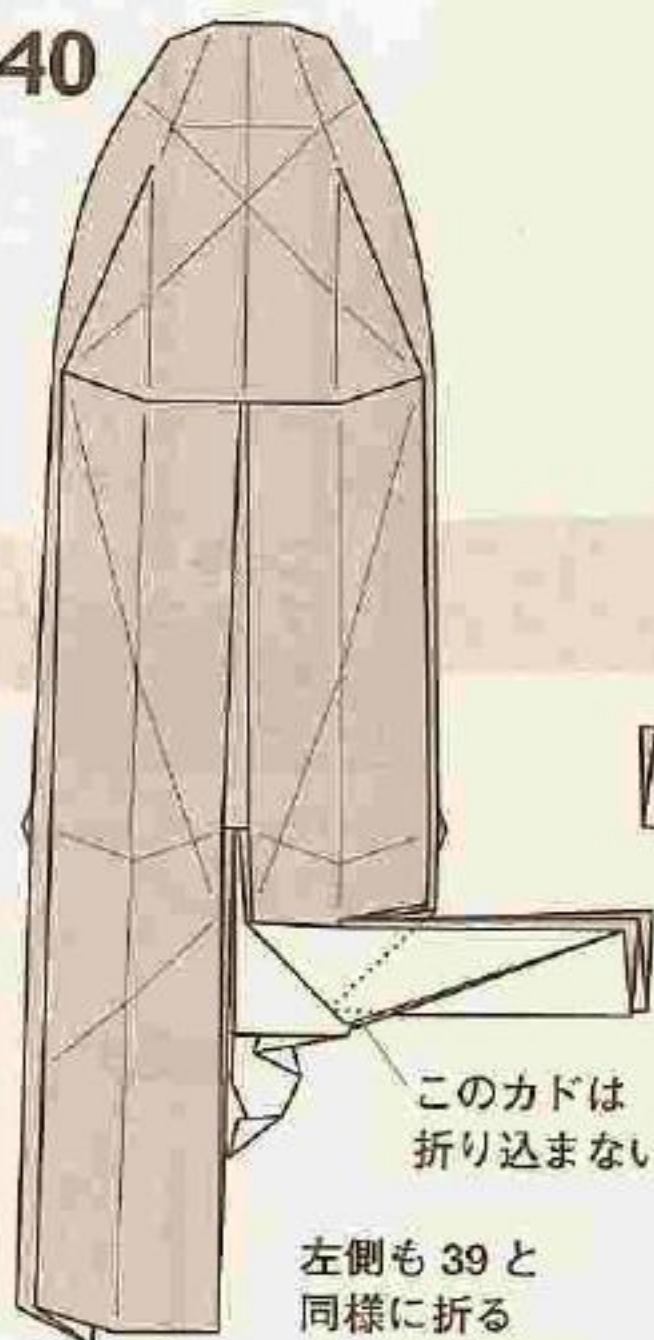




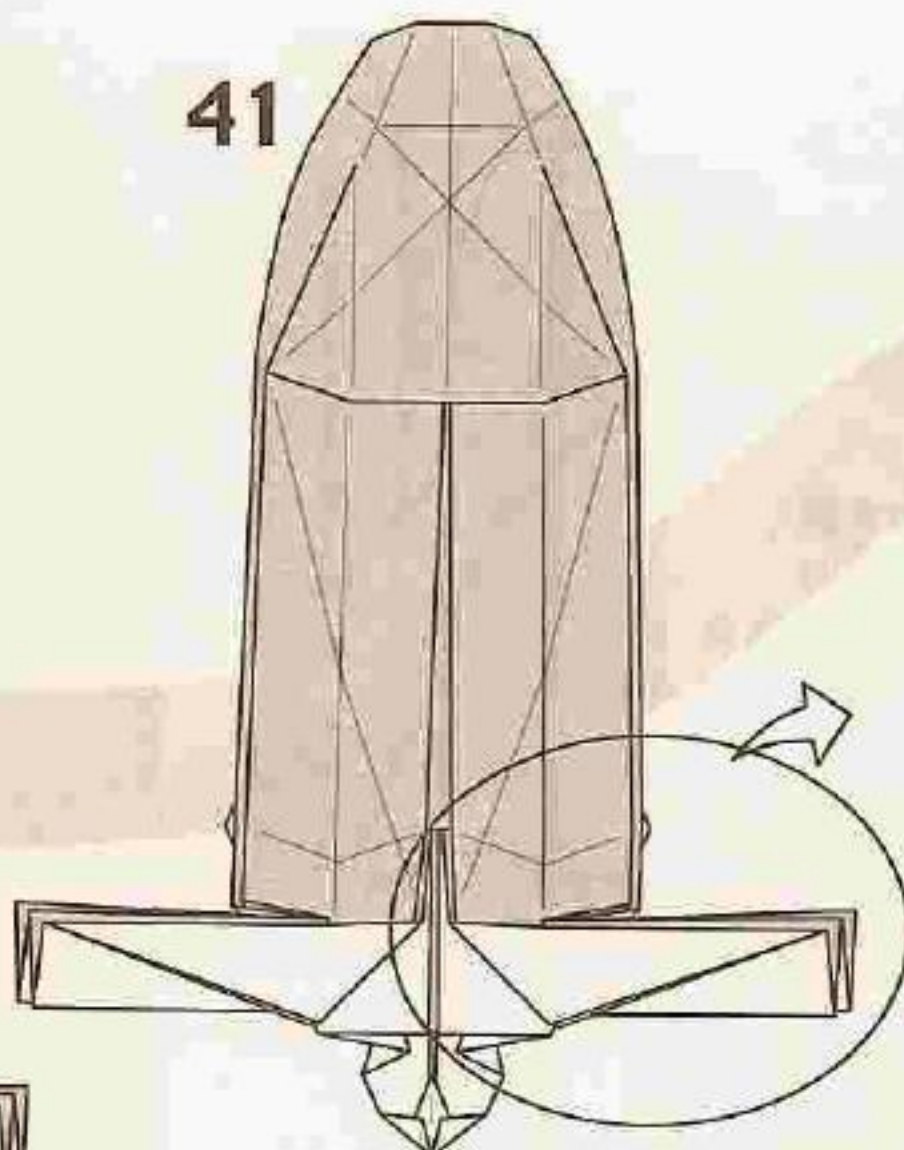




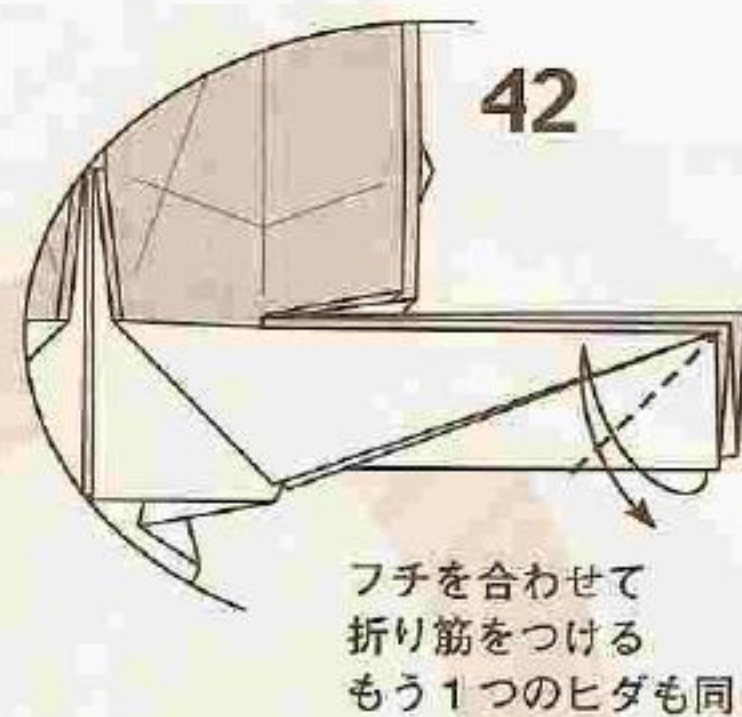
40



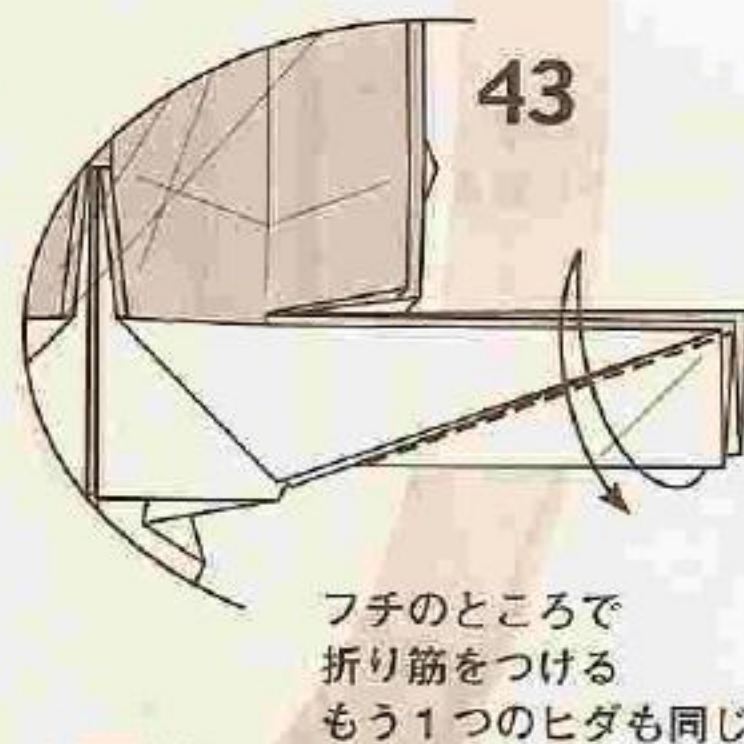
41



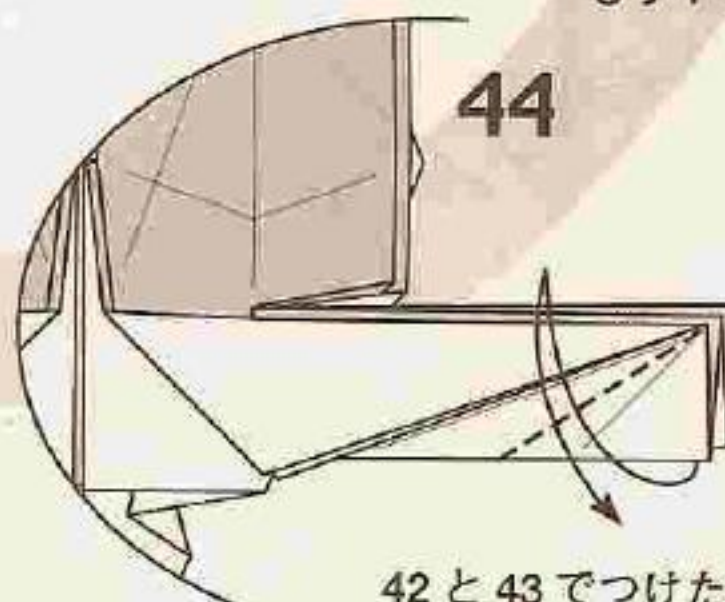
42



43

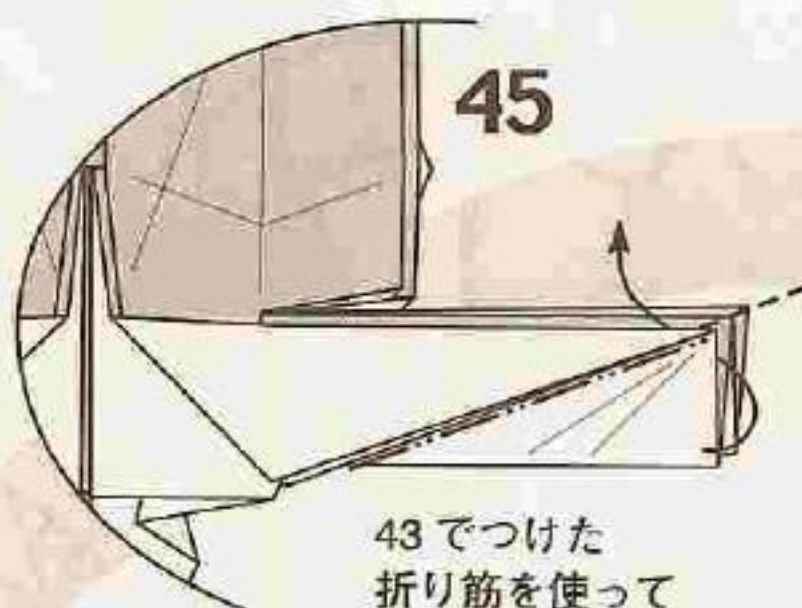


44



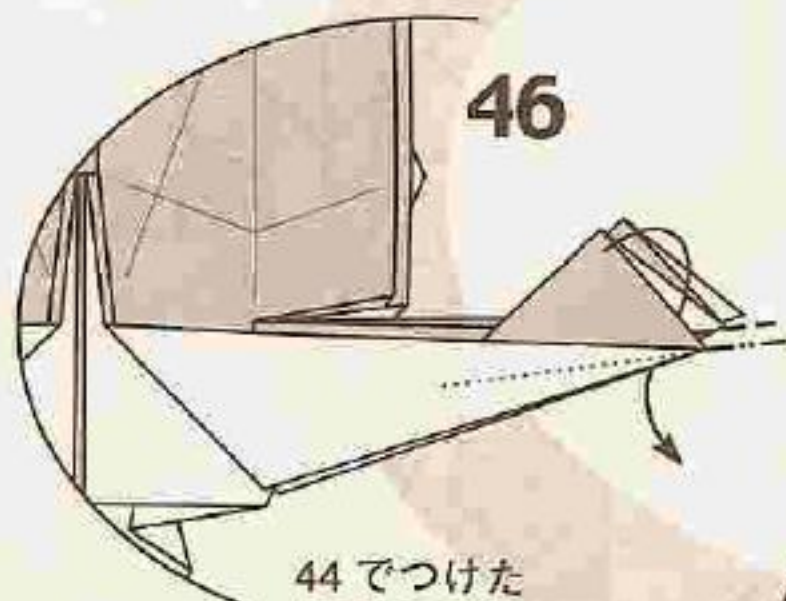
42 と 43 でつけた折り筋同士を
合わせて折り筋をつける
もう1つのヒダも同じ

45



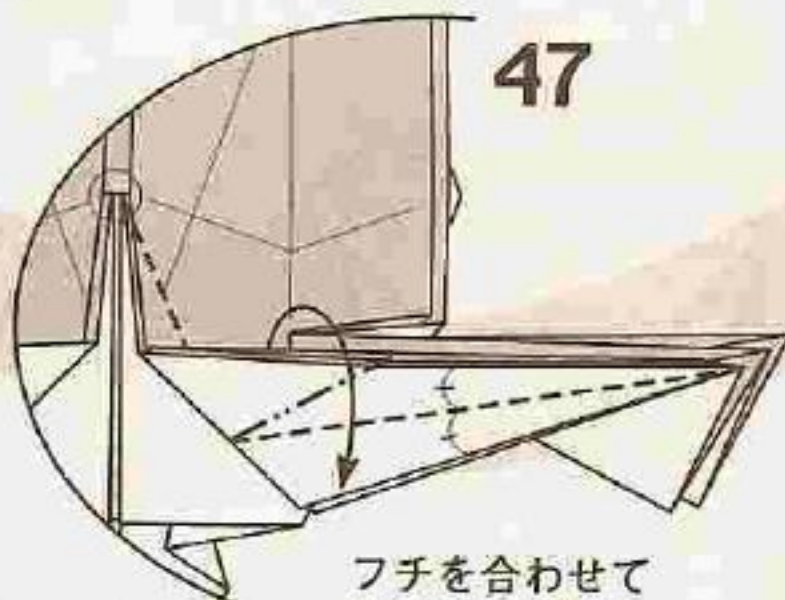
43 でつけた
折り筋を使って
中割り折り
もう1つのヒダも同じ

46



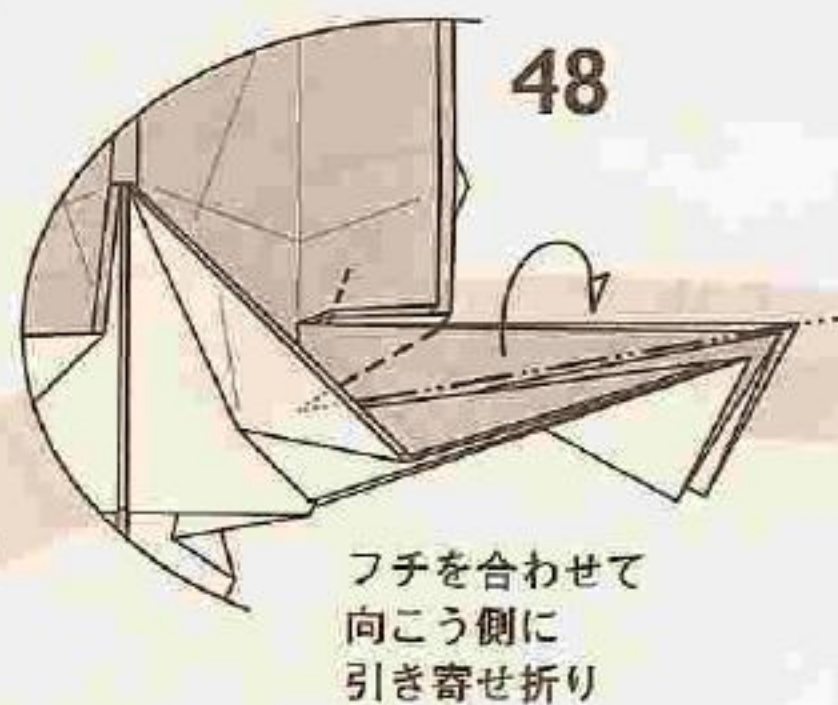
44 でつけた
折り筋を使って
中割り折り
もう1つの
ヒダも同じ

47



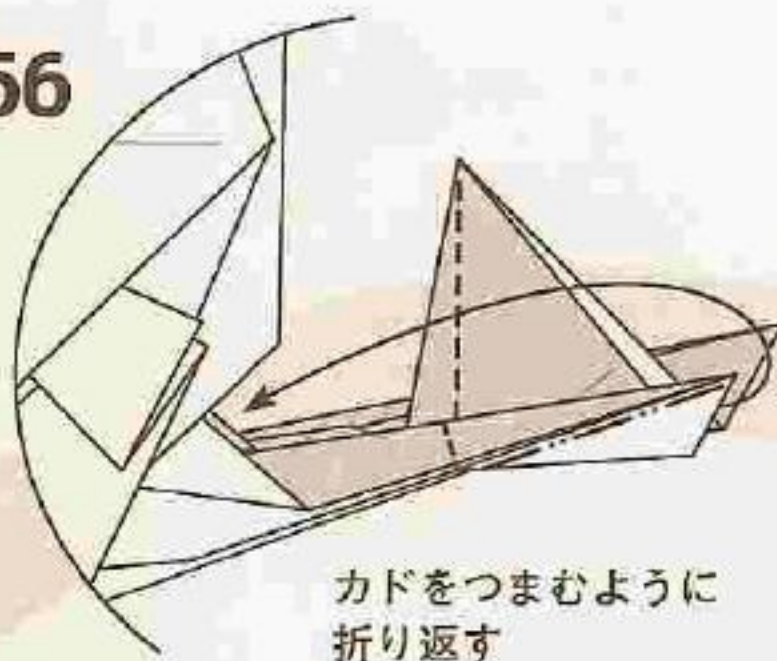
フチを合わせて
引き寄せ折り

48



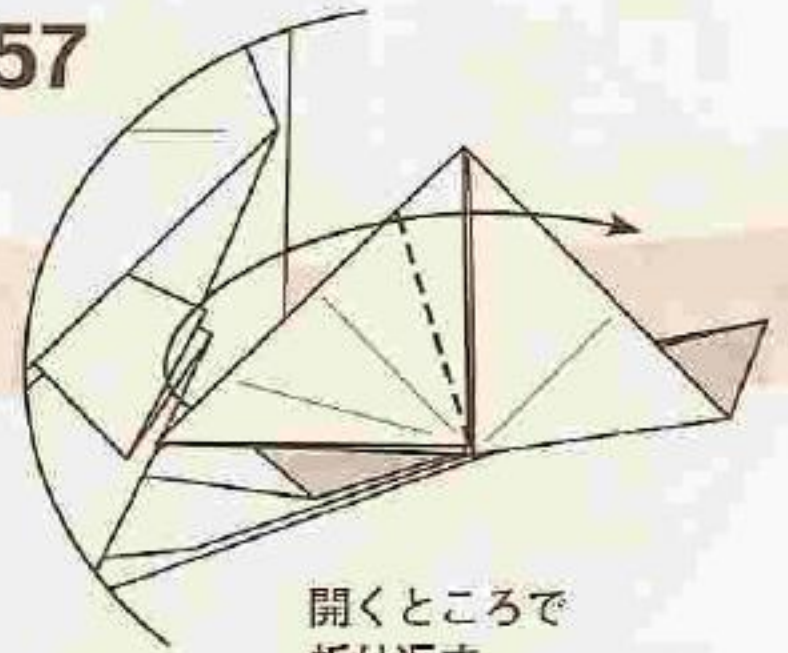
フチを合わせて
向こう側に
引き寄せ折り

56



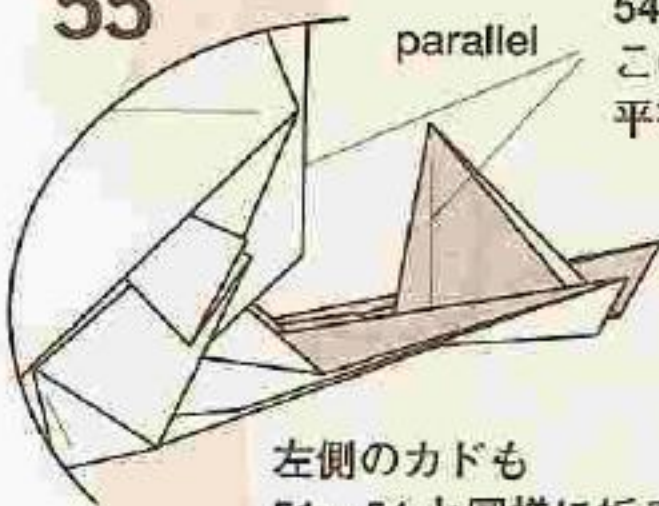
カドをつまむように
折り返す

57



開くところで
折り返す

55

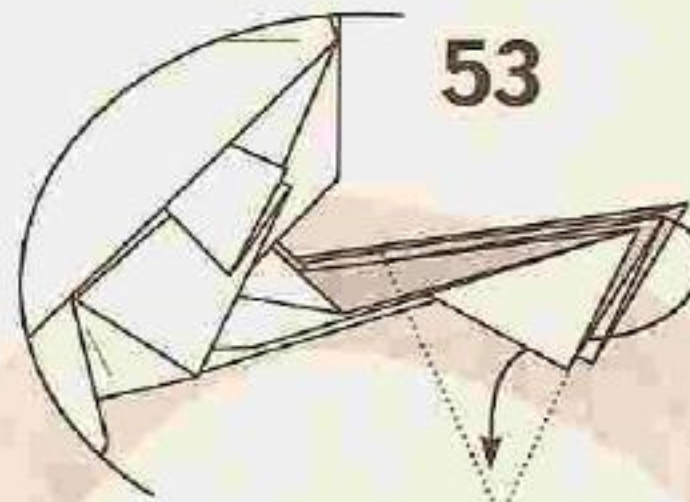


parallel

54 は
この2つの線が
平行になるように

左側のカドも
51～54 と同様に折る

53



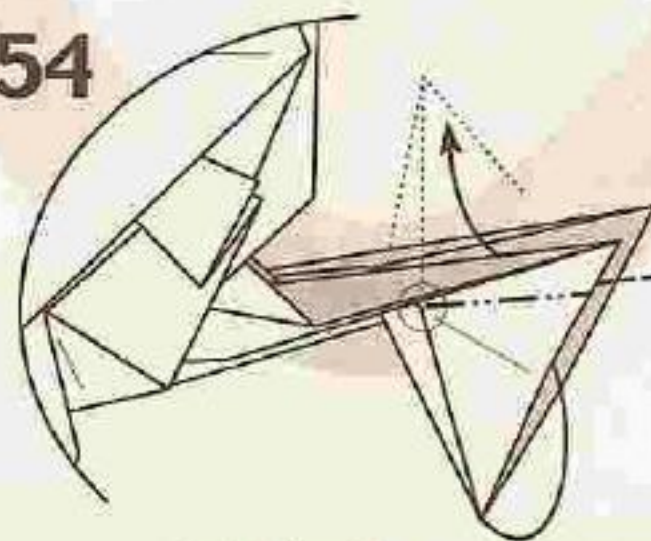
真ん中のカドを
いっばいに中割り折り

52



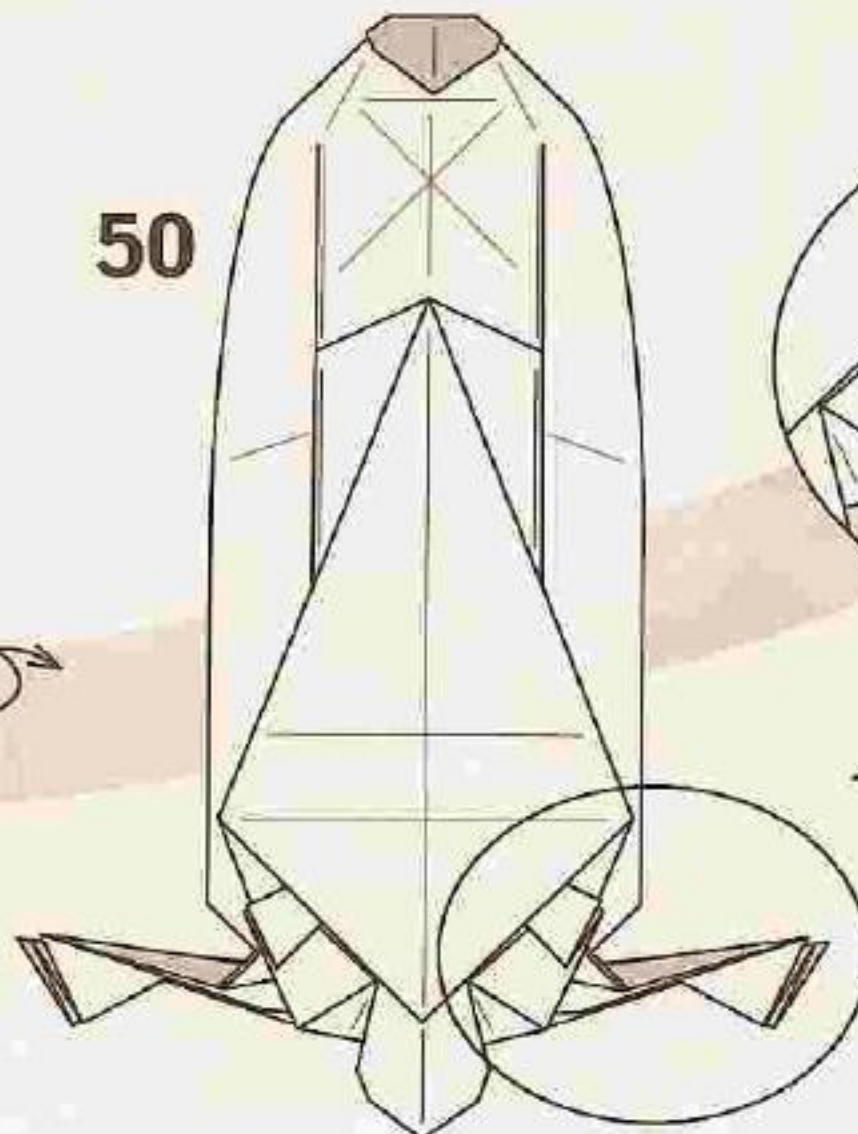
すぐ上のすき間に
差し込む
(カドを分離させる)

54

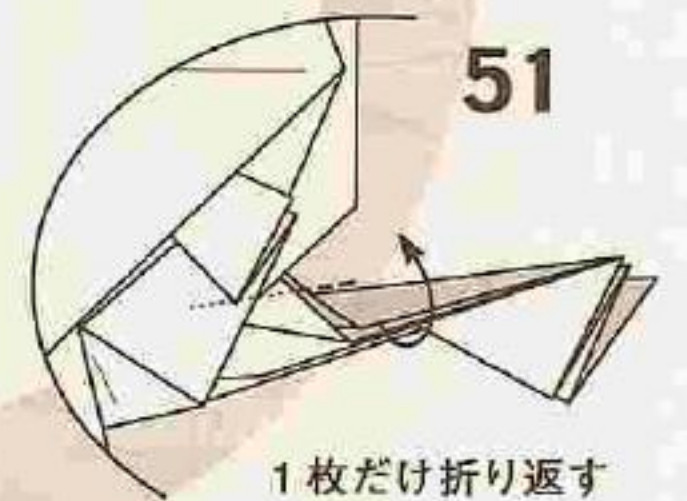


○を通る線で
中割り折り
(角度は次の図を参照)

50

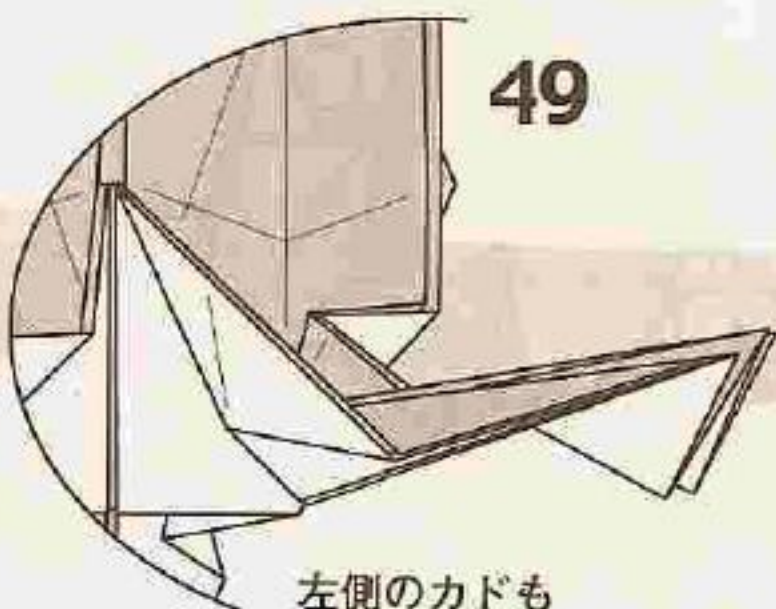


51

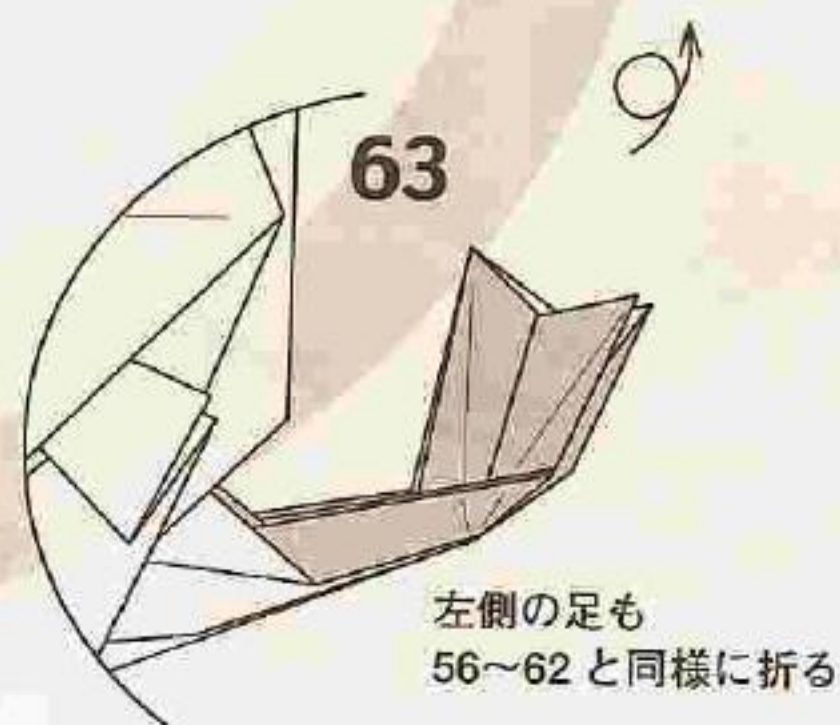
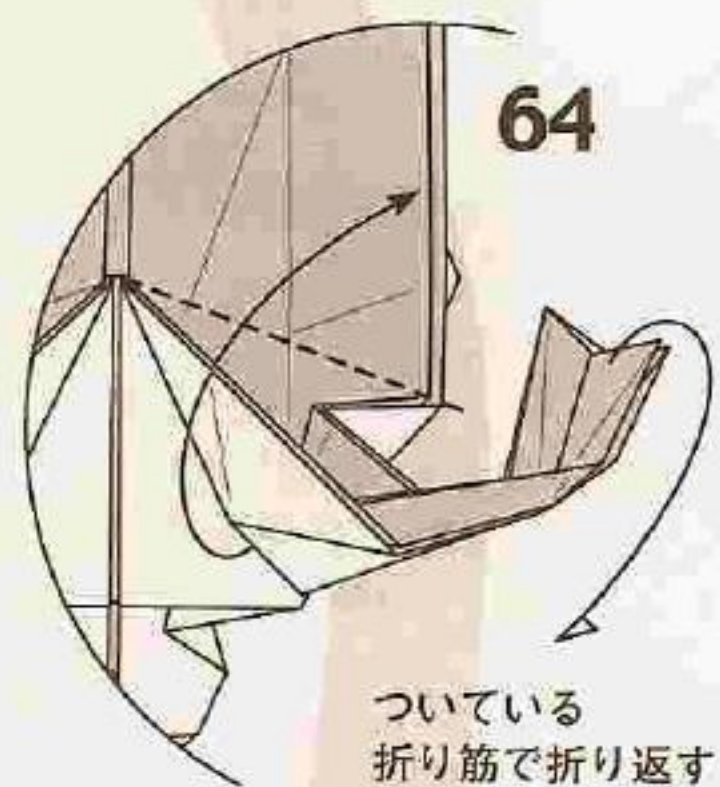
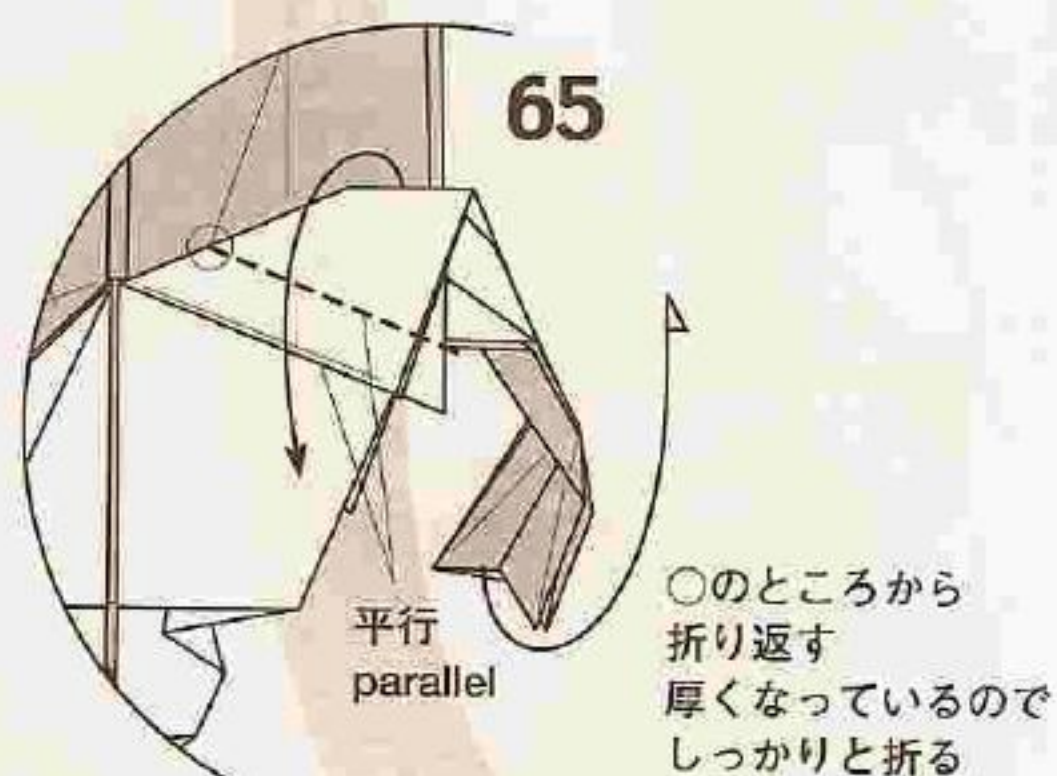
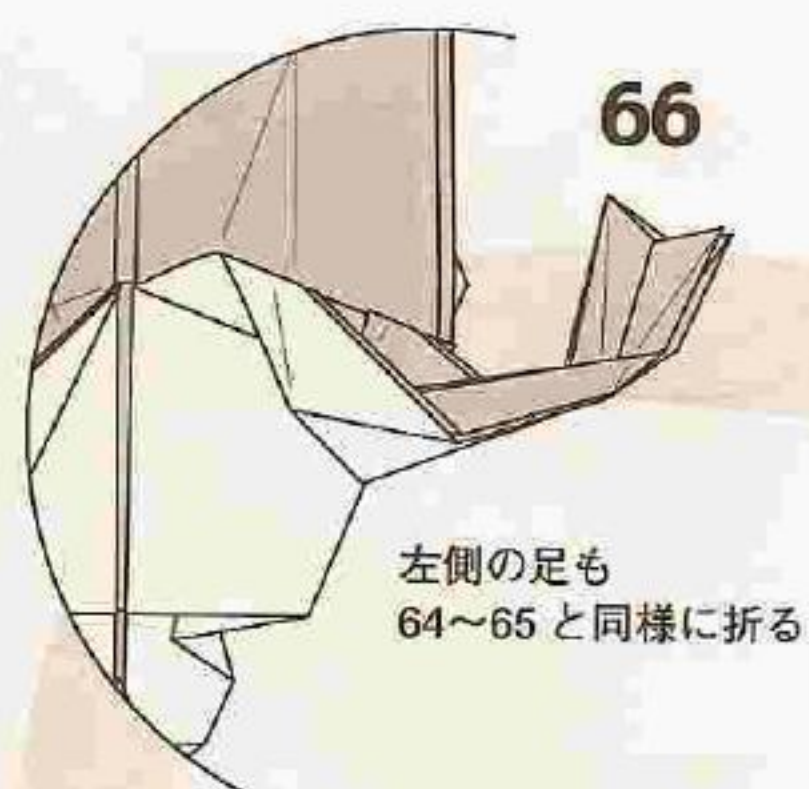
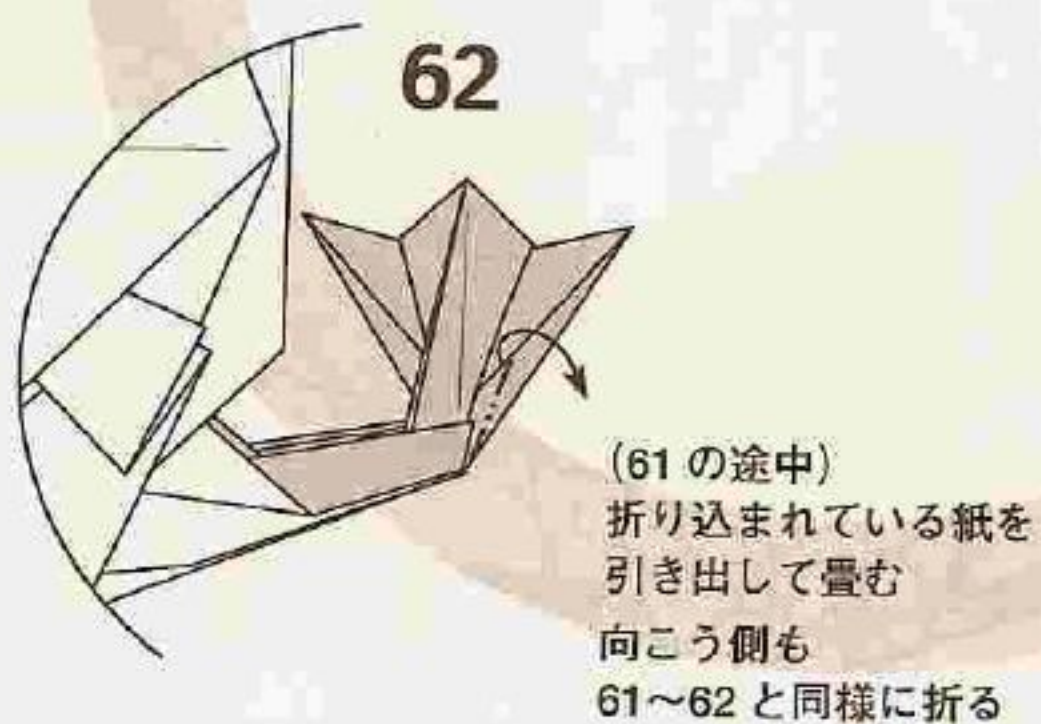
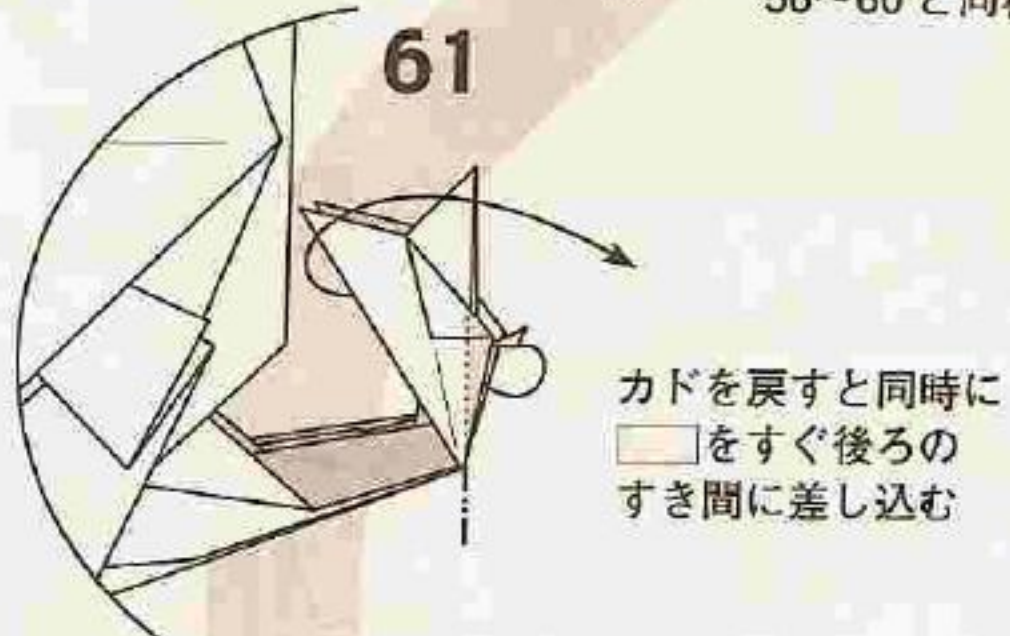
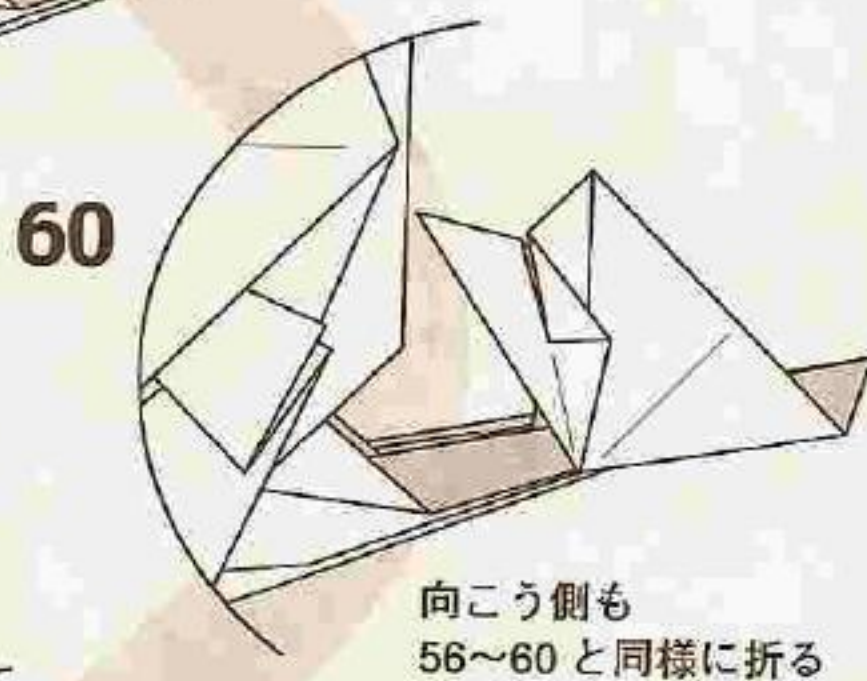
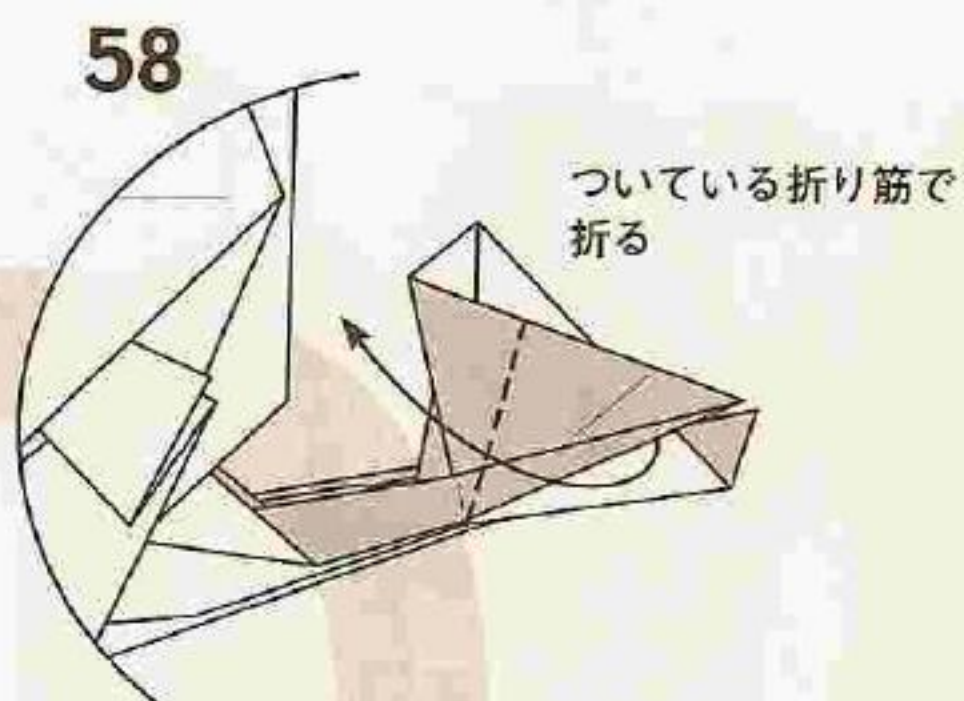


1枚だけ折り返す

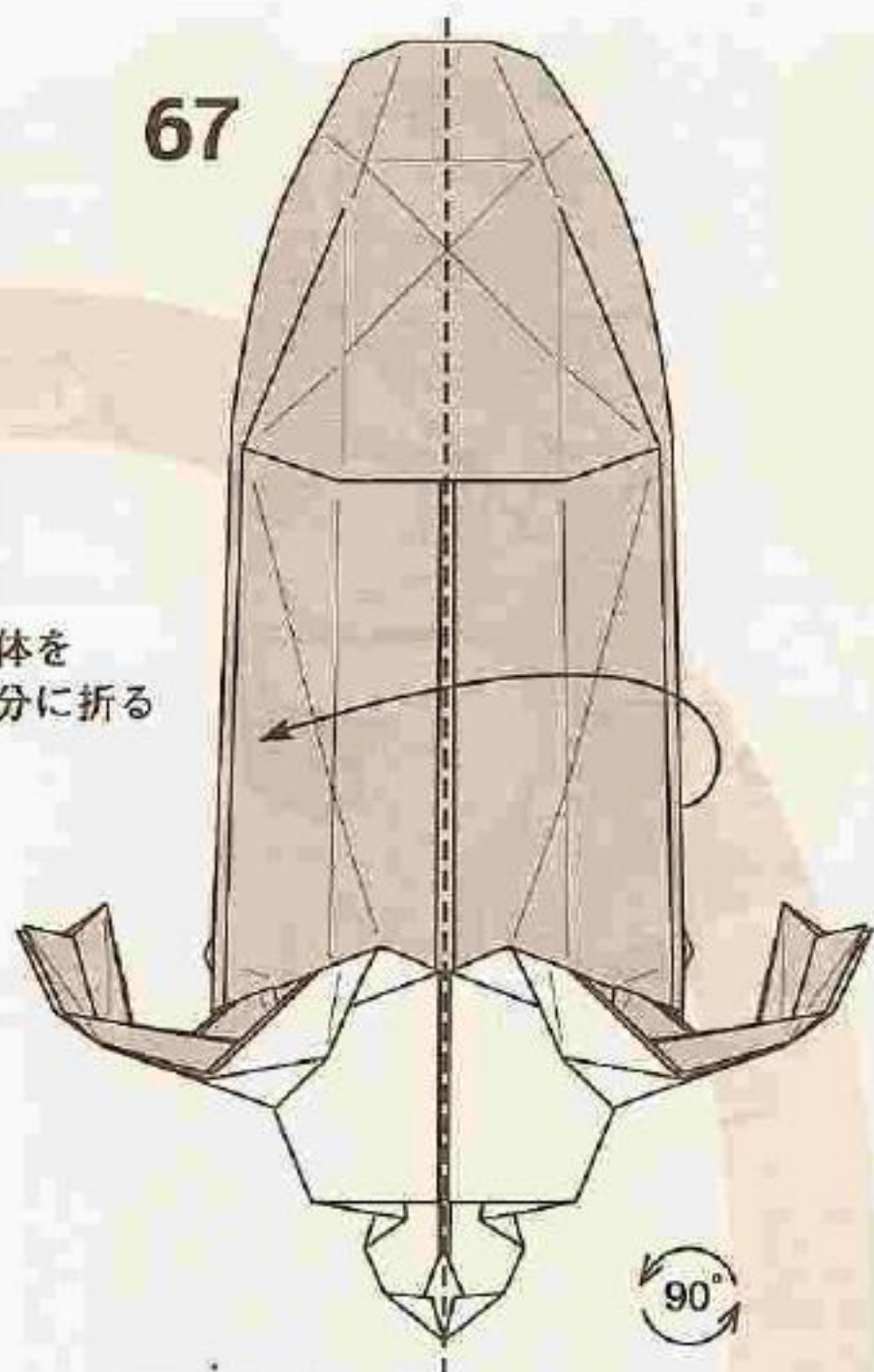
49



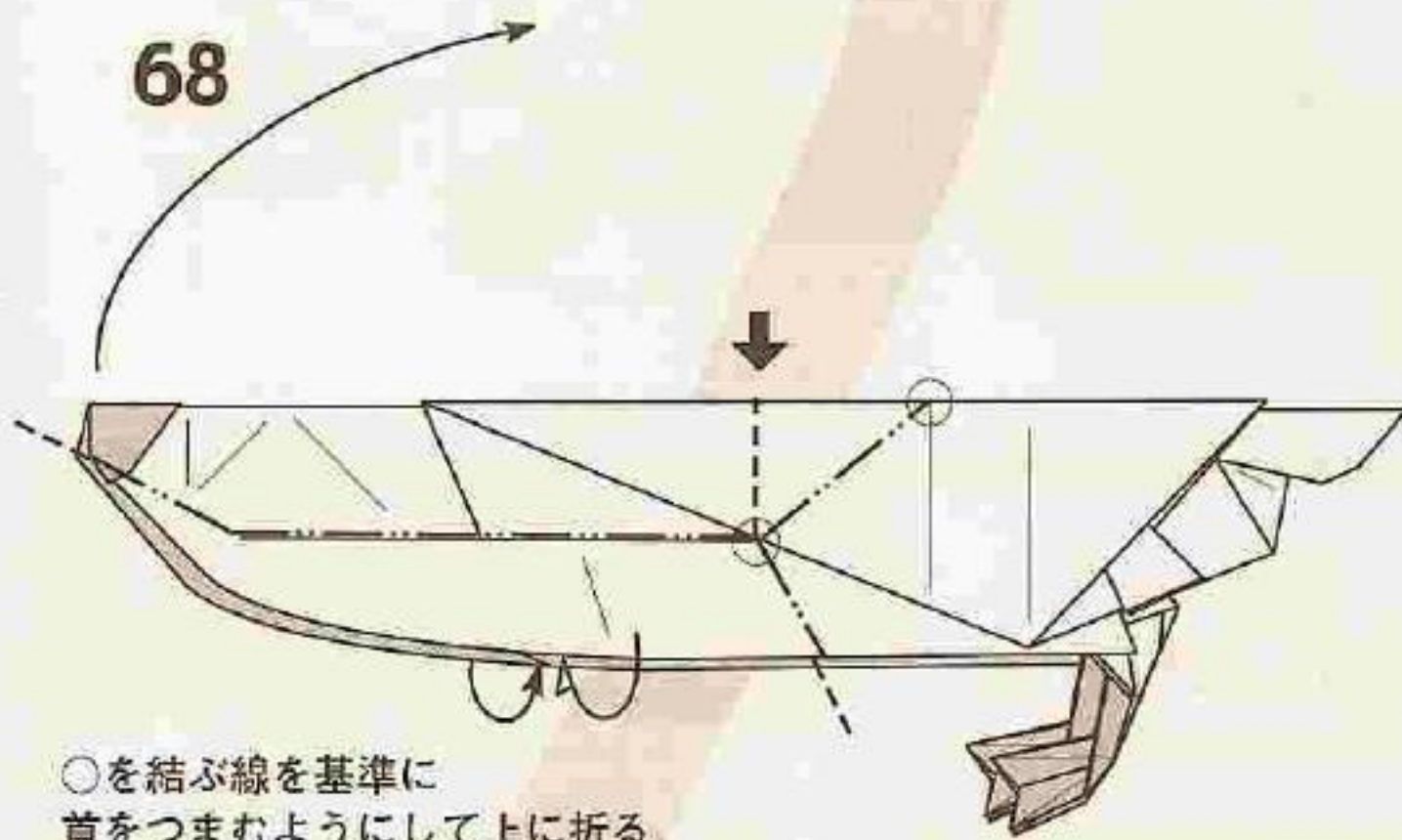
左側のカドも
42～48 と同様に折る



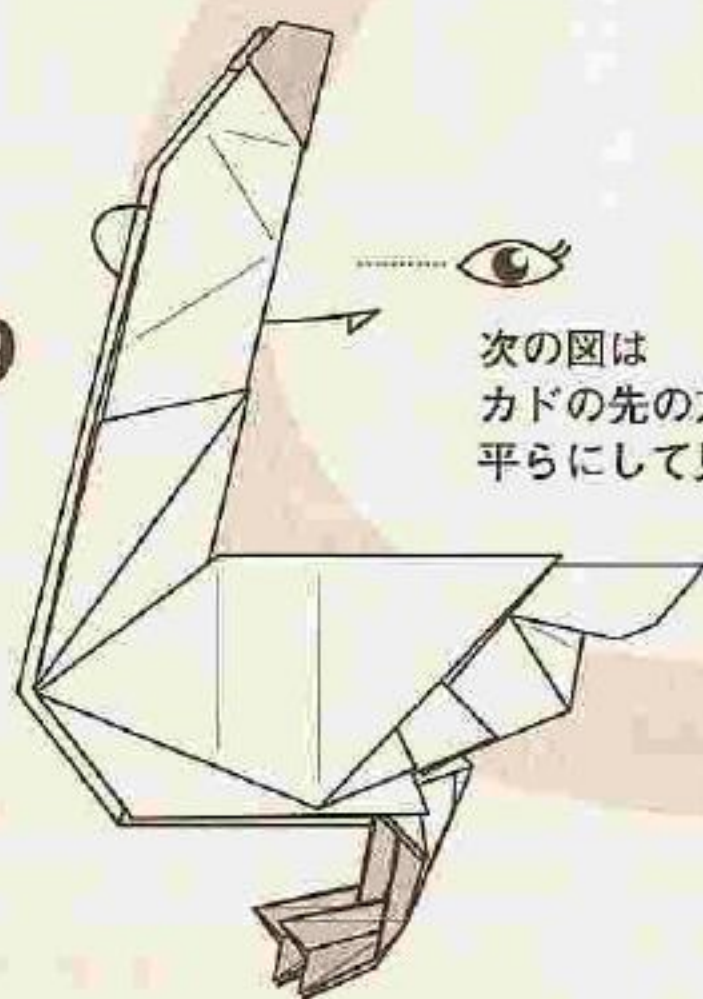
67

全体を
半分に折る

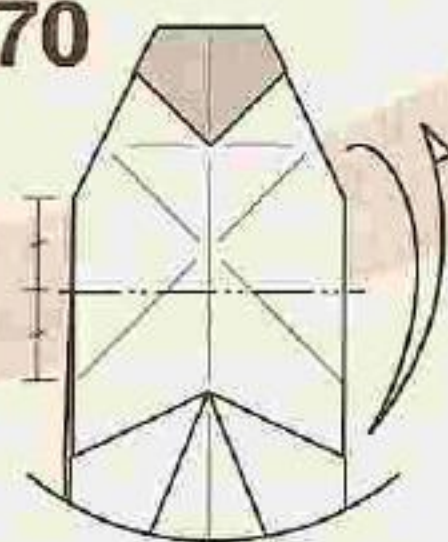
68



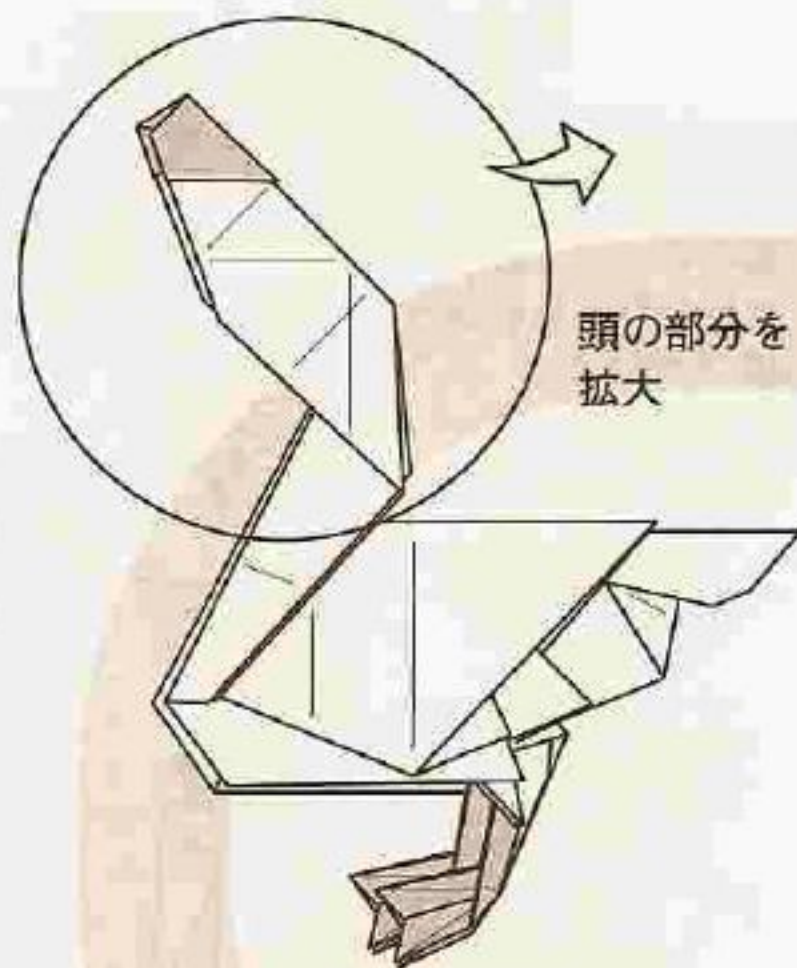
69



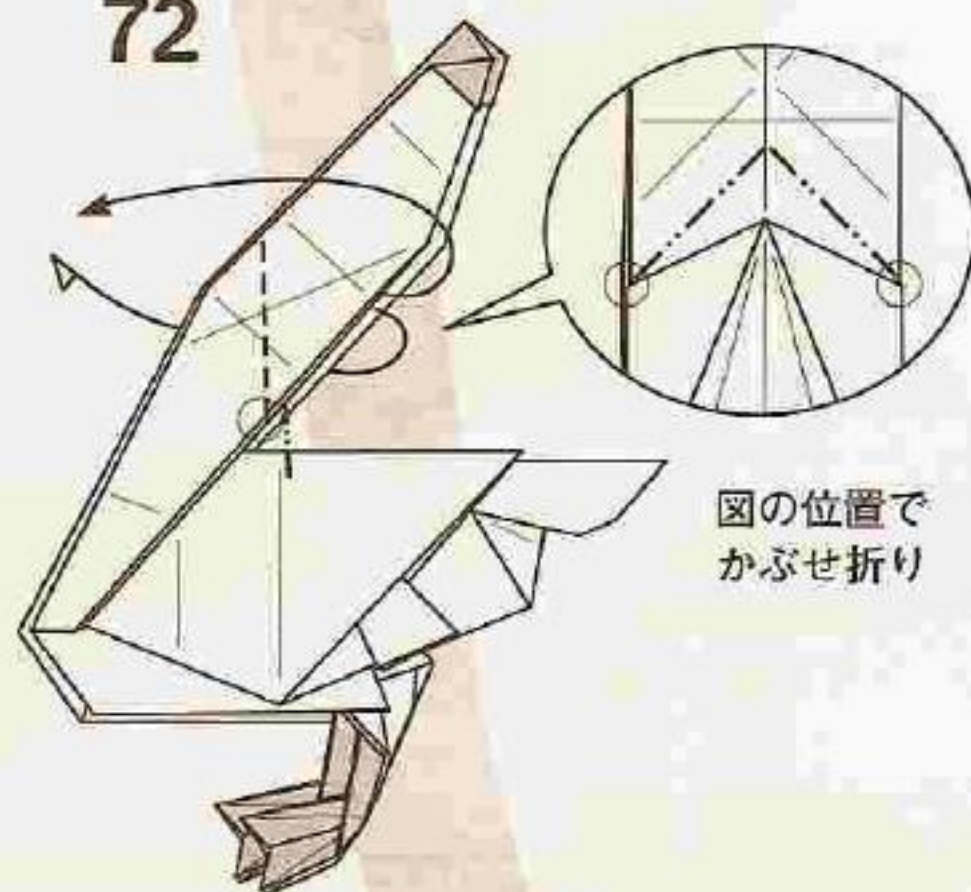
70

折り筋を
つけたら
69の状態に
戻す

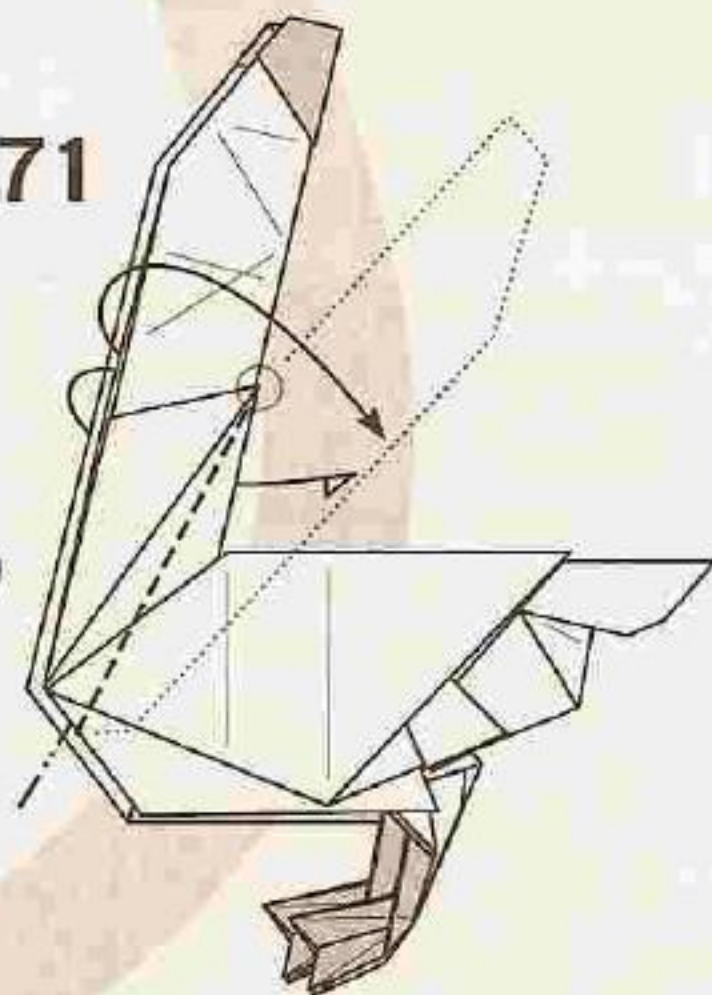
73



72

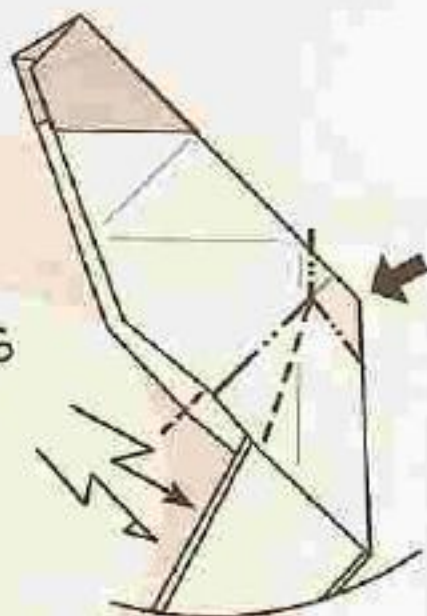


71

○のところから
斜めにかぶせ折り

74

頭のとっぺんの
カドをつぶしながら
70 でつけた
折り筋を使って
顔を下に向ける

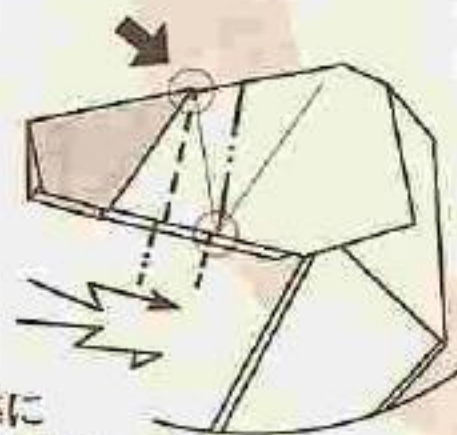


75



途中の図

76



○を基準に
両側で段折りして
くちばしを作る

77



下のフチを
少し折り込む

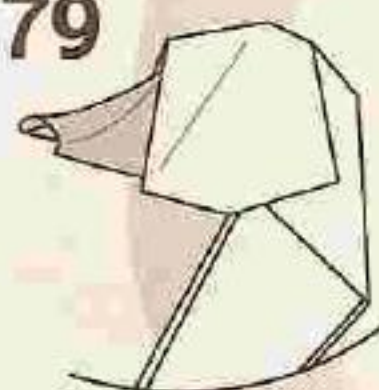
80

内側の図

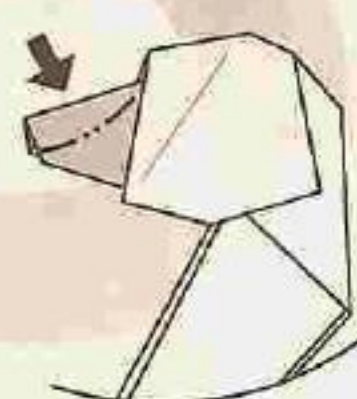


首の内側の紙を
外にずらすよう
折る

79



78



くちばしを
曲線で折って
平らにつぶす



Orisuzi ("Fold-Creases")

本当にありがとう

Thanks a million

藤倉敦夫

Fujikura Atsuo

全く偶然に視聴していたあるTV番組で、画面に大写真になった悪魔(前川氏創作)を見たあの瞬間が私にとっての折紙の始まりです。40年近く生きてきていささかも知らなかったジャンルにも関わらず、すっかり囚われてしまいました。一体何が自分をそうさせたのかは未だに分かりません。

探偵団のバックナンバーが手元に届き、いきなり折ろうとしたのはもちろん悪魔でした。当然完成できる筈も無く、ただの紙屑が生産されていくばかり、、、、。数ヵ月後に初めて完成形を得た時は本当に小躍りして喜んだものです。あの時私は確かに少年の心に戻っていました。

夢を折ることが出来たのも素晴らし

い折り図が在ればこそなのですが、私ごとにもかくにも探偵団初め折紙学会や海外の折紙事情、近代の作品等を知ることができたのはインターネットという手段があればこそです。もし10年前、20年前だったら情報を得るのは非常に難しかったことでしょう。つくづく有難いツールであることを再度認識させられました。

WEBを彷徨った時に感じたことは、国内のサイトの数が意外に少ないことです。作家のサイトこそ質、量共に世界に冠たるものと思いますが、どんな作品があるのか? 創作者や出典は? 等の基本情報をしっかり持つサイトはむしろ海外に多く存在しているように思います。私も小さい仮想ギャラリーのような折紙のサイトを運営しているのですが初めて折紙を

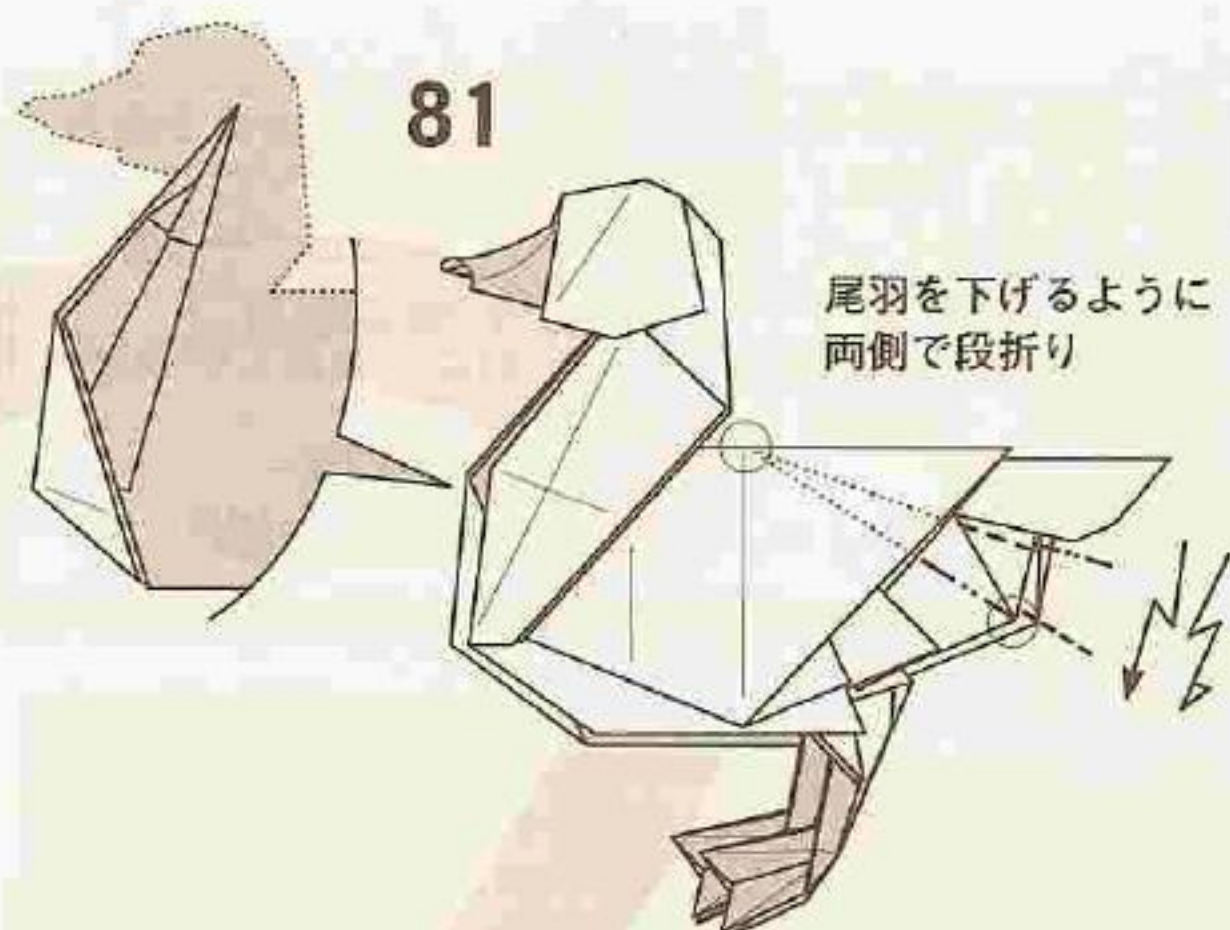
見た人が折紙という造形や手段にがっかりせずに、このジャンルへの道標になれば良いのになあ、と願っています。願うだけでどのように実施していくのは今後の課題なのですが、、、。

私自身WEBを通じて、新しい作品そして折紙人達に出会い、折紙というジャンルへの興味と楽しみは増すばかりです。もし1人だけで折っていたらとても継続できなかったのは間違いありません。そしてこれからは現実世界でももっと折紙と接していければと思います。

最後に私が探偵団の本稿に寄文するとは思いません。全ての折紙に感謝致します。

藤倉氏のサイト: 折り紙 置き場

<http://kazufujiatuo.id.infoseek.co.jp/>



折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

ゲーム理論

The Game Theory

今夏の第11回探偵団コンベンションでは筑波大学の三谷純さんに、折図作成プログラムに繋がるような研究のご紹介をいただき、聴講者席からも高い興味が示されました(本誌93号に講演概要)。また、第1回名古屋コンベンションでは名古屋大学の島貫博さんの折り図を画像データとして取り込む研究や生物スケッチから折りパターンを構成させる試みについての講演をいただきました。ペーパークラフト支援ソフトの開発について既に実績をお持ちの三谷さんは折り紙の抱える問題に専門的興味をもっていたようで、先日展開図からの折り畳み形推測ソフト試作版(創作支援ソフトになるのかな)のネット公開の連絡が学会の方にあり、既に幾人かが試してみているようです。

ところで、今年のノーベル経済学賞は「ゲーム理論の応用」に貢献したT.シェリングとR.オーマン博士が受賞しました。ゲーム理論とは、対峙する陣営が相手の戦略を読みつつ自分の行動を決定する時の最適化を考える理論ですが、経済、政治学的な応用が評価の対象のようです。生物学の世界でも進化戦略云々と言う場合に引き合いに出されます。複雑な社会情勢下の腹の探り合いのモデルとしてチェス、将棋、ポーカーのようなゲームを考えることからゲーム理論の名前がついているのでしょう。

さて、折り紙をコンピュータで取り扱う周辺技術の開発が進むことは大いに期待しつつも、折り図を描き易くする為だけに開発投資をお願いできるわけではなく、折り紙をモデルに用いるこれらの研究から普遍的な認知理論や情報処理での応用分野を引き出して

いただければ気が楽というものです。こんな気持ちから、今夏のご講演の際も、折り紙やペーパークラフト支援ソフト開発から目論む専門課題は何でしょう、というような質問をさせていただきました。ご回答は一例として、機器のインターフェースやマニュアルの設計というような分野などということでした。厚いマニュアルを細かく読まなくても一目で使い方のわかるDVDデッキや携帯電話やパソコンをデザインする技術などを想像すれば良いのでしょうか。ちょっと安心したところで、次は徹底的にモデルの問題を解くことに注力するのが技術開発の勘所と拝察します。ゲーム理論ならぬ折り紙理論がどう発展してゆくか非常に楽しみです。

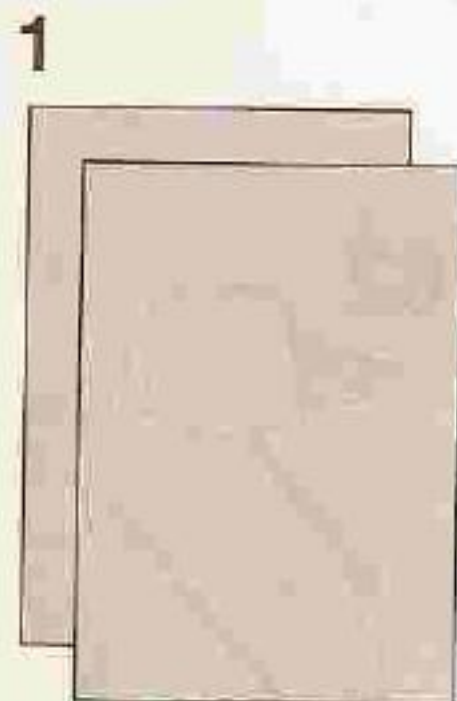
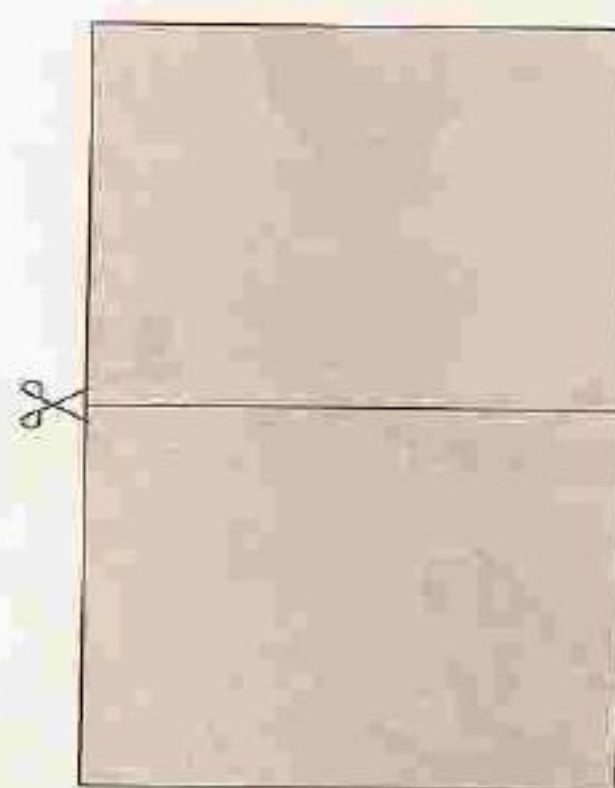
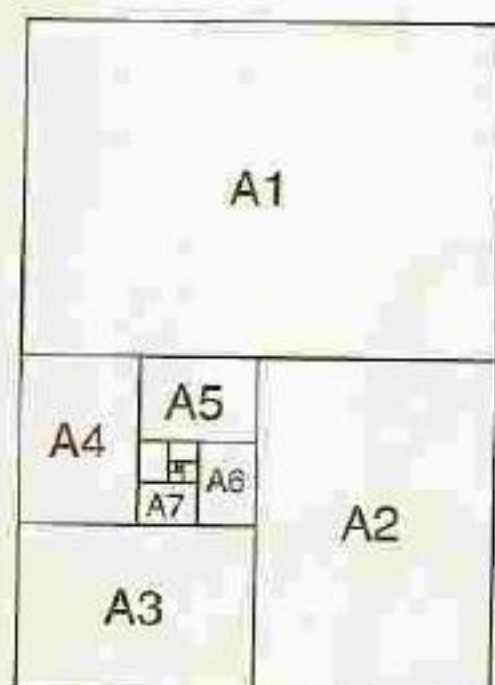
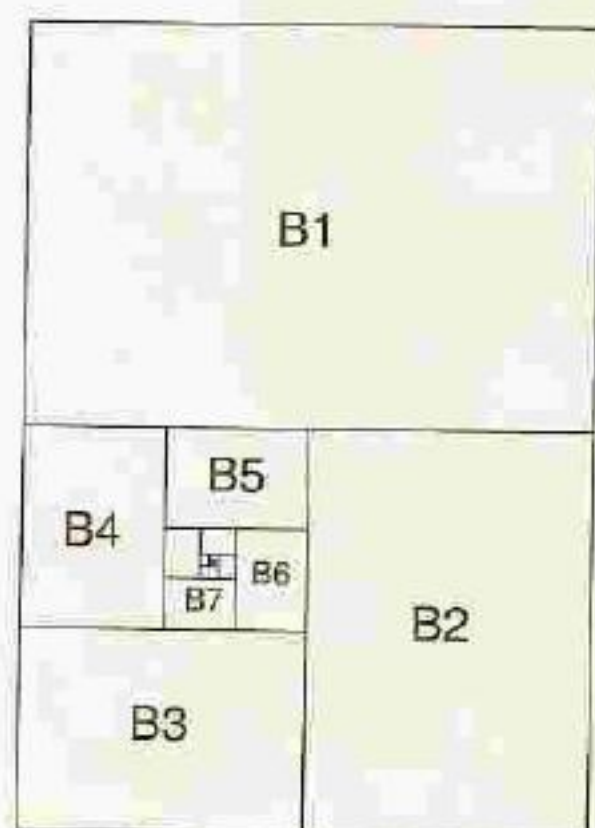
西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

充填八面体 Packable Octahedron

前川淳
Maekawa Jun

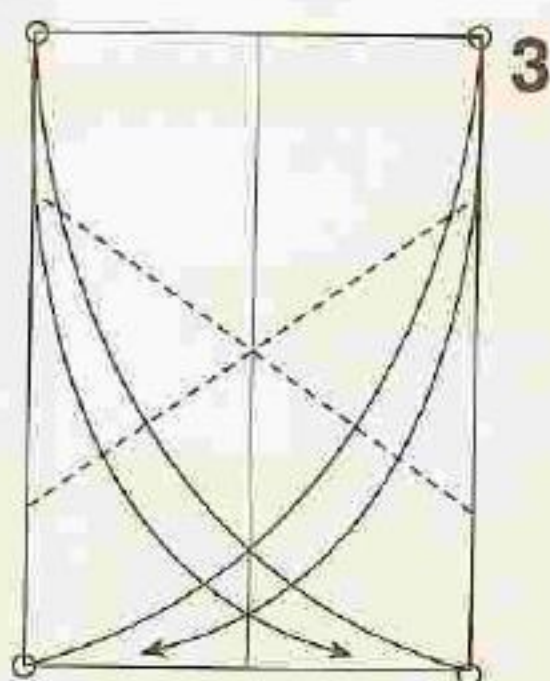
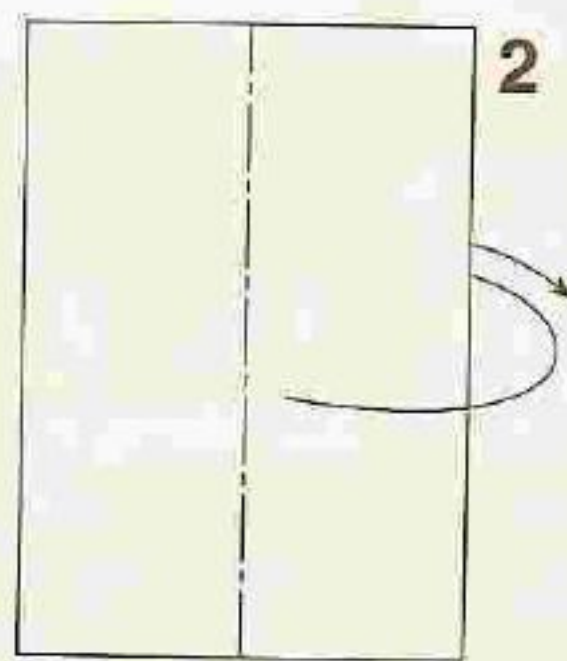
一種類で空間を埋め尽くせる、特別な八面体である。
作品名の「充填」の意味はそこにある。
いくつかつくって、積み木をしてみると、その意味がよくわかる。
なお、「充填八面体」という名前は、わたしがつけたもので、一般的なものではない。

「創作」というより、典型的な「発見」作品だ。



コピー用紙、チラシなどの、 $1:\sqrt{2}$ の比率の紙を使う。

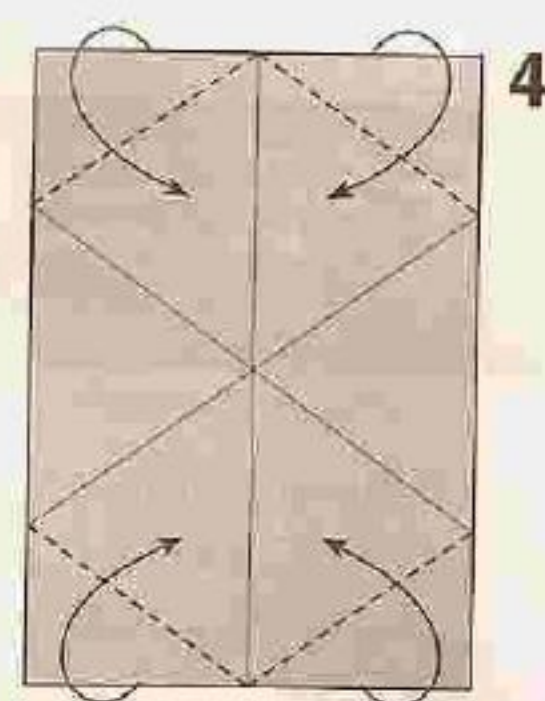
半分に切って、2枚にする。



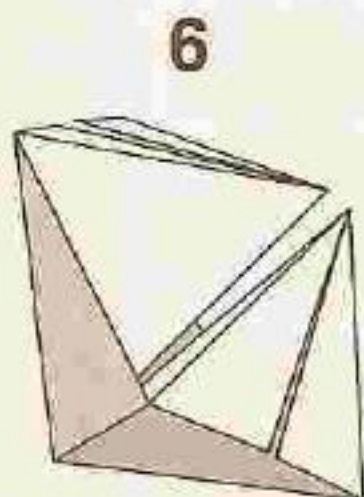
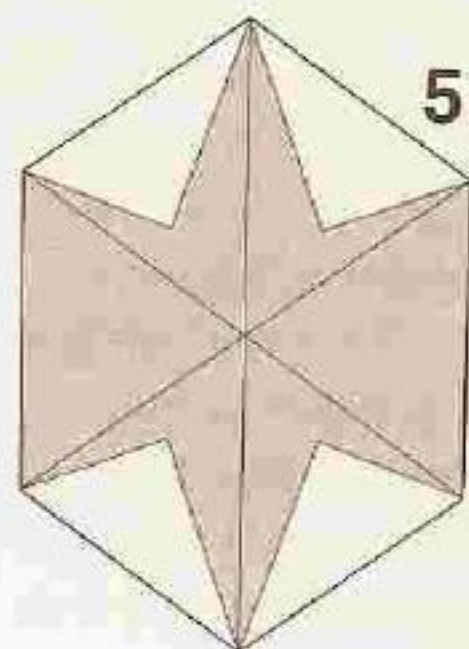
遠い頂点を合わせて
斜めの折り目をつける。



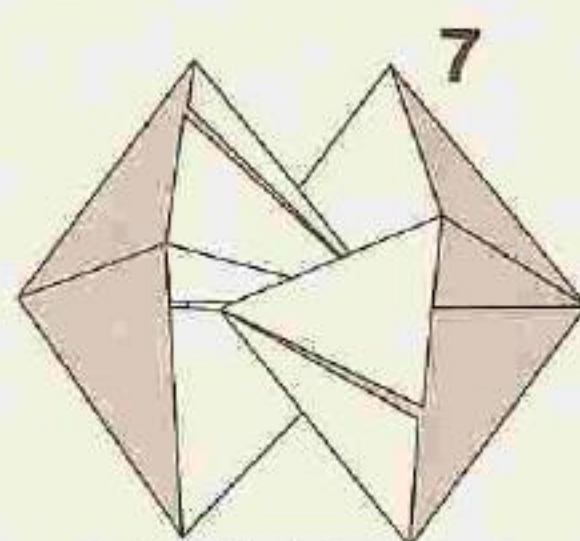
ひっくり返す。



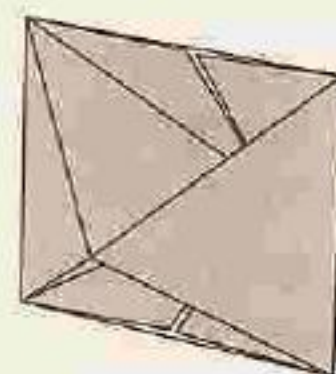
線の端を結ぶ線で折る。



立体化する。



ふたつ組み合わせる。

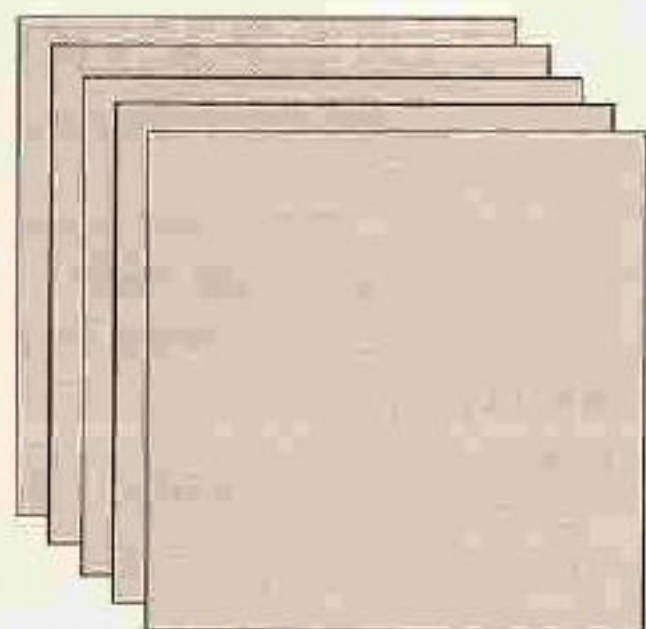


完成。
どの面も、紙の重なりが
2枚になる。

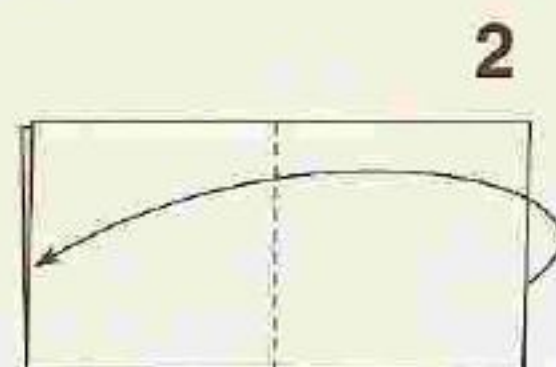
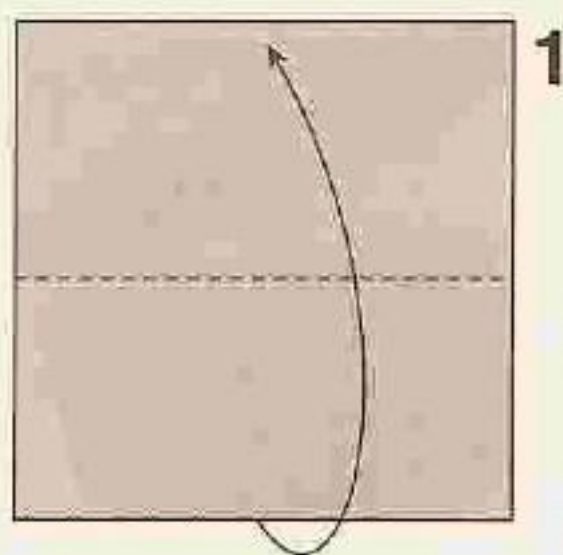
交差四角柱 Crossed Prisms

前川淳
Maekawa Jun

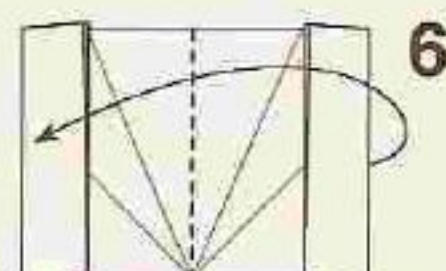
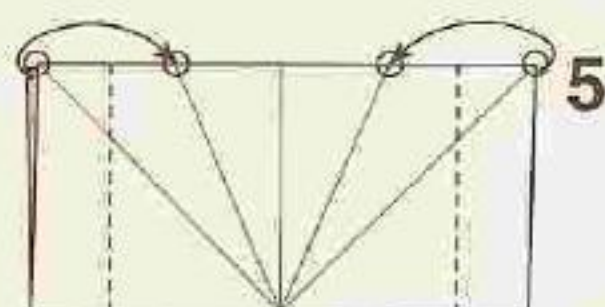
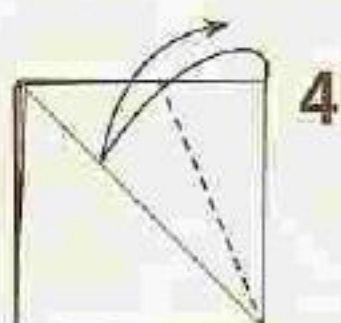
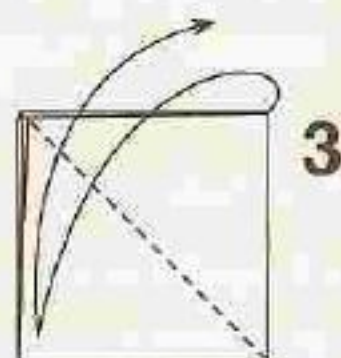
前ページの「充填八面体」は、立方体と大きく関連したかたちだ。
また、それは、ふたつの正四角柱が互いに交差した場合の共通部分でもある。



正方形を5枚使う。



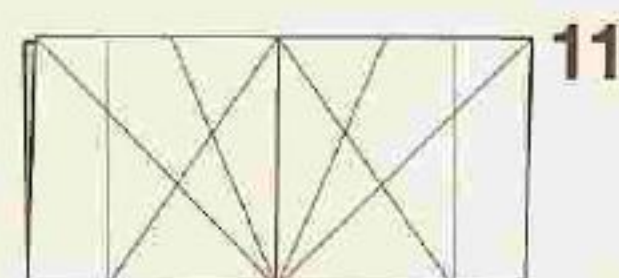
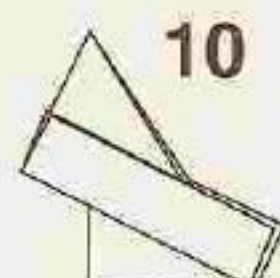
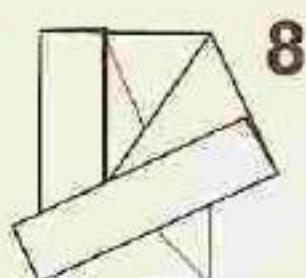
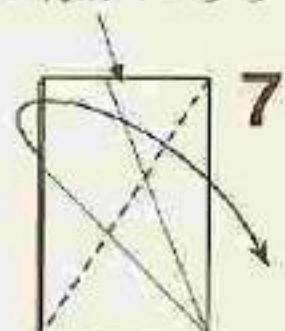
(1~10は、上下を変えないように注意する)



折り目をつけたあと、
2まで戻す。

折り目に合わせて、
平行に折る。

紙の縁がこちら



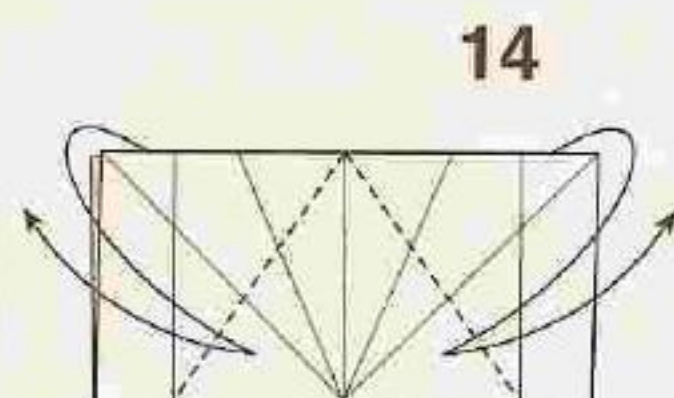
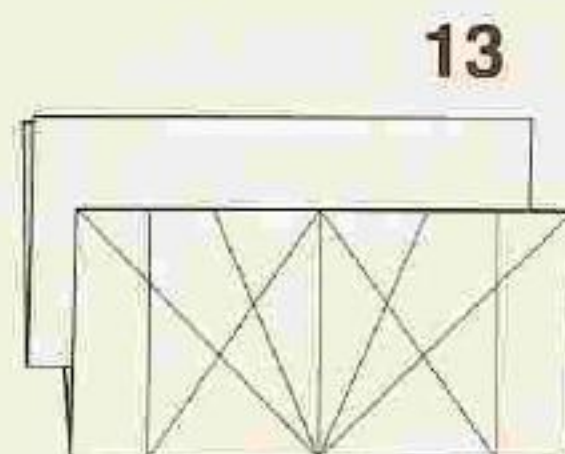
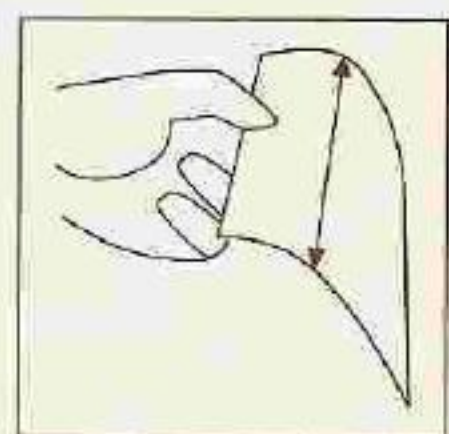
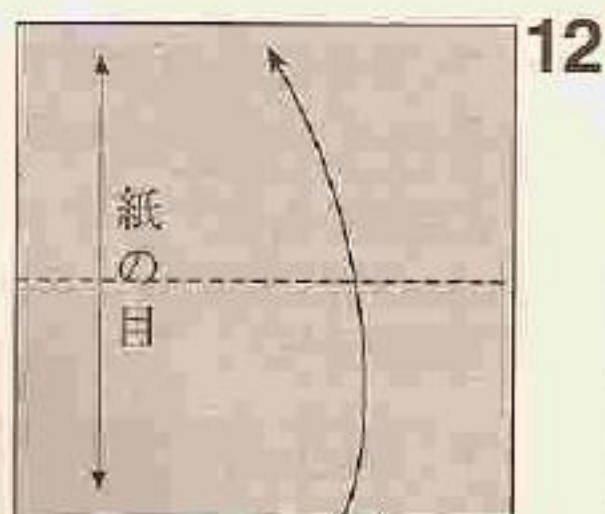
対角線で折る。
(ここは、とくに、
上下左右に注意する)

ひっくり返す。

反対側と
同じに折る。

2まで戻す。

これが、13~14の折りの
「テンプレート」になる。

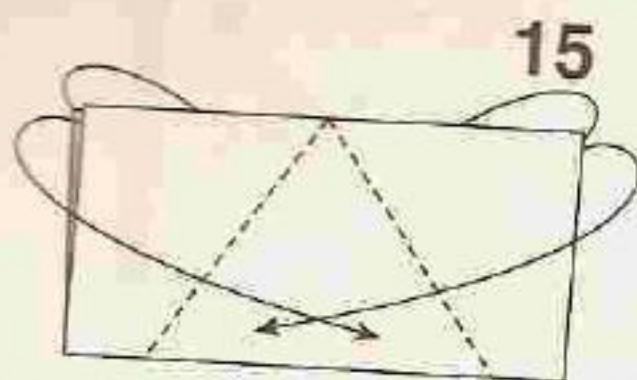


紙の目(右図参照)に直角の
方向で、ふたつ折りにする。

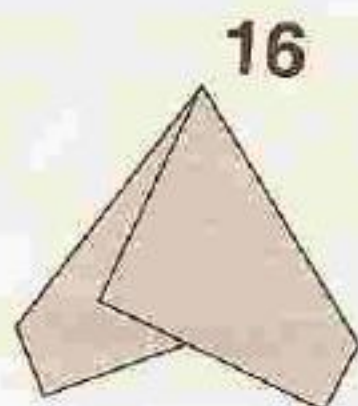
「紙の目の確かめかた」
辺の中央を持って、
自然に曲がる方向と
直角の方向に目がある。

11の紙に
差し込む。

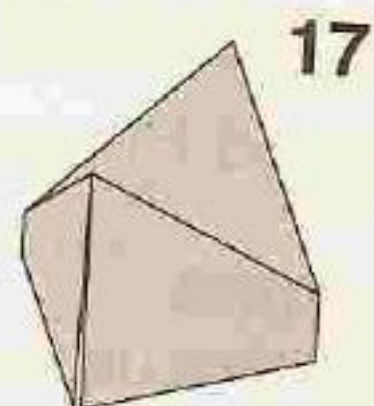
2枚重ねたままで
折り目をつける。



15
「テンプレート」から引き抜いた
内側の用紙を使う。
折り目に沿ってかぶせ折りする。

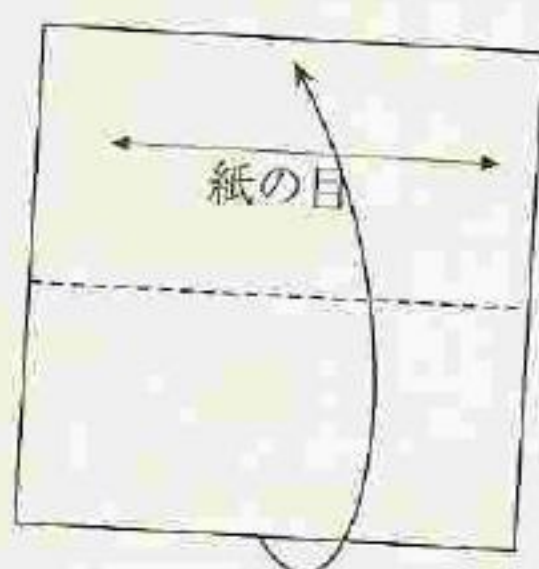


16
立体に広げる。
（「底面」は正方形になる）

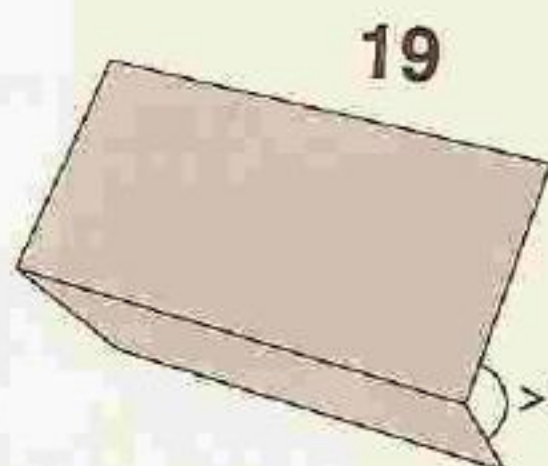


17
これをふたつつくる。

× 2



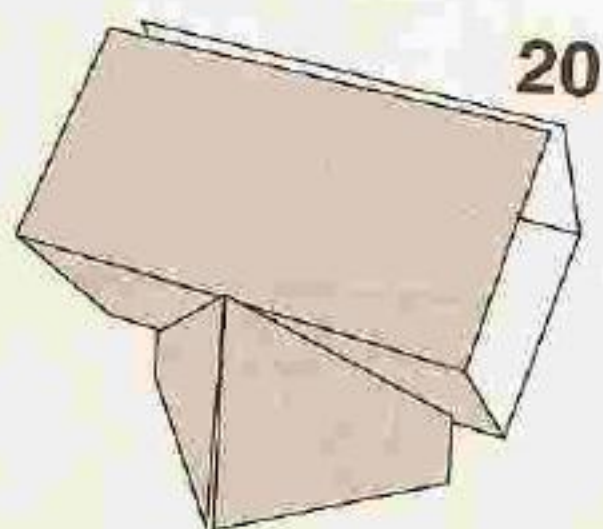
18
紙の目に沿って
ふたつ折りにする。



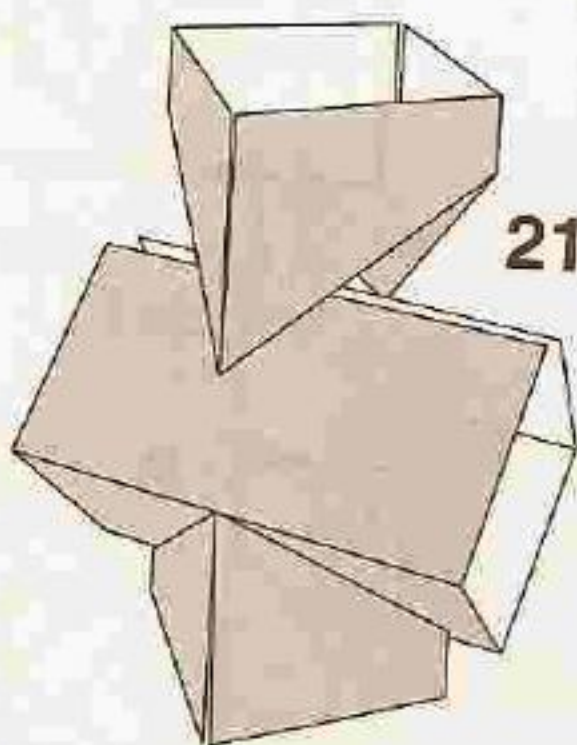
19
これをふたつつくる。

面の開く角度は、
90° より若干広くする。

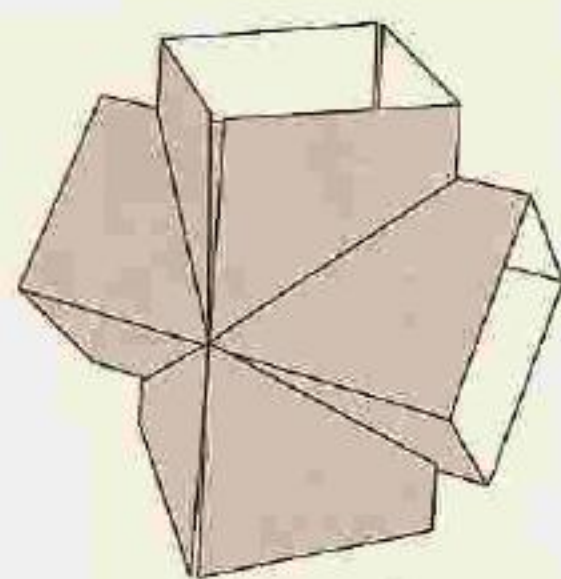
× 2



20
17 に 19 をふたつ乗せる。

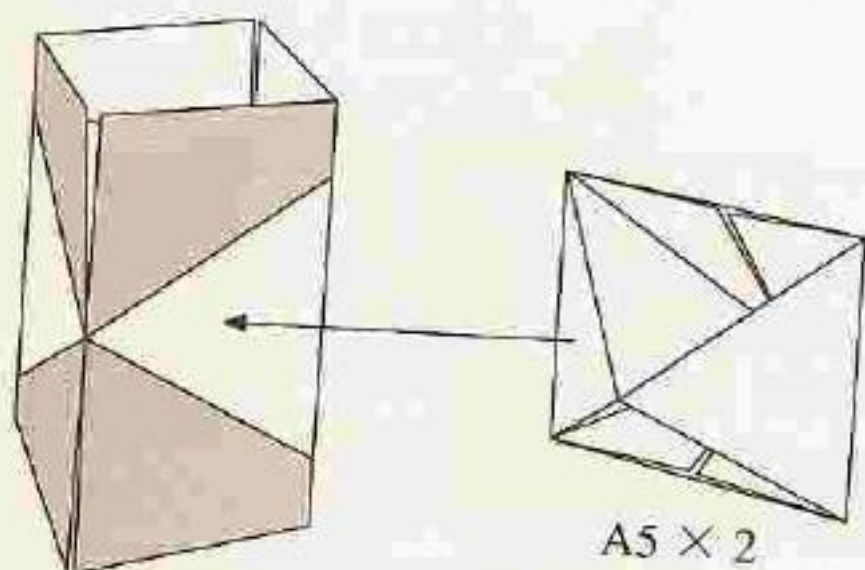


21
17 を乗せる。



完成。

厚めの紙で折れば、
紙の目を気にする必要は、
ほとんどない。



A5 × 2

A4 用紙をふたつに切った紙（A5）からつ
くった「充填八面体」が、15cm の折り紙
用紙からつくった「交差四角柱」に、
ぴったりはまる。
これは、A4 の長辺が 297mm と、約 30cm
であるためだ。

展開図折りに

Crease Pattern
Challenge

挑戦

第38回

鯨 シャチほこ

Shachihoko

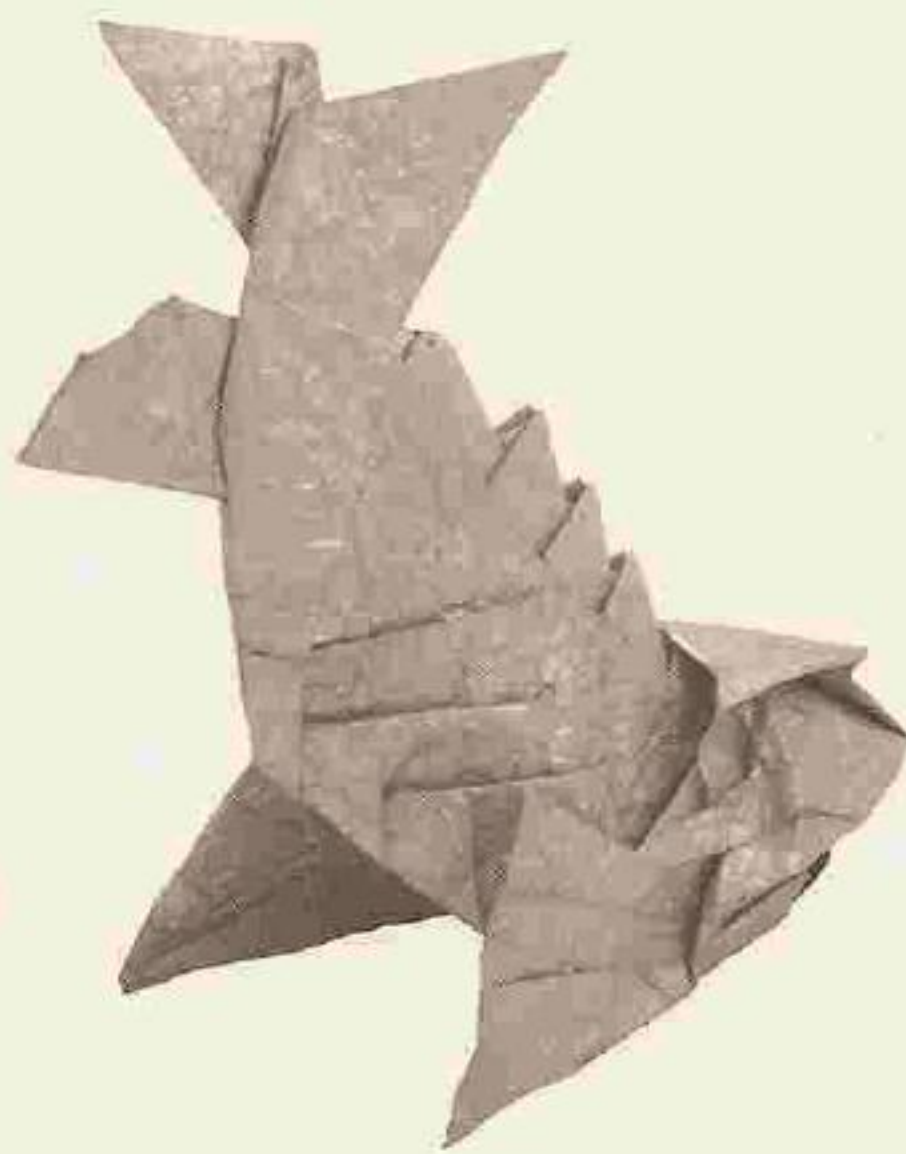
川畑文昭

Kawahata Fumiaki

Created : 2001.12.08

Paper Size : 50×50 cm

Height : 19cm



この2005年、愛知県にて、「愛・地球博」が開催されました。これに呼応して、名古屋城の金の鯨が、地上に降ろされ、多くの人々がその素晴らしい造形美を実際に目の当たりにすることができました。この作品は実は「愛・地球博」の数年前に、新聞社からの依頼により創作していたもので、ここに展開図を紹介いたします。実際の鯨とは若干形が異なっていますが、折紙的な造形ゆえのデフォルメとご理解ください。

展開図折りという、それを折った段階でおおよその形が見えてくるのが親切な展開図だと思うのですが、実はこの作品は、展開図から完成形に持っていくためには、かなりの造形的な折工程が必要となります。完成写真を睨みながら造形をどうするかを楽しむのも一興かと思えます。いずれそのうち…折図も描きたいと思っています…そのうち…。

さて、簡単に折り手順を解説しますと、まず縦横の4等分の折りすじをつけ、次に縦中心方向に1/4の幅のさらに3等分の折りすじを、また横中心方向の上から2番目の帯の中に1/4の幅の3等分の折りすじをつけます(参考図1)。次に縦方向に中心部で段折りをした後、左右の部分をうろこ状に折っていく(参考図2)、次に観音折りで左右を閉じ、下部分を二双船のようにまとめます(参考図3)。ここまで折ると、うろこ、ひれ、尾など主要なパーツがそろってきますので、全体の構

想がご理解いただけると思います。この作品のポイントは、体を無理やり後から反

らせなくても、尾を上跳ね上げた造形が自然に折り出され、また体を丸く膨らませることにより、さらに自然に鯨の形が浮かび上がってくるということでしょう。

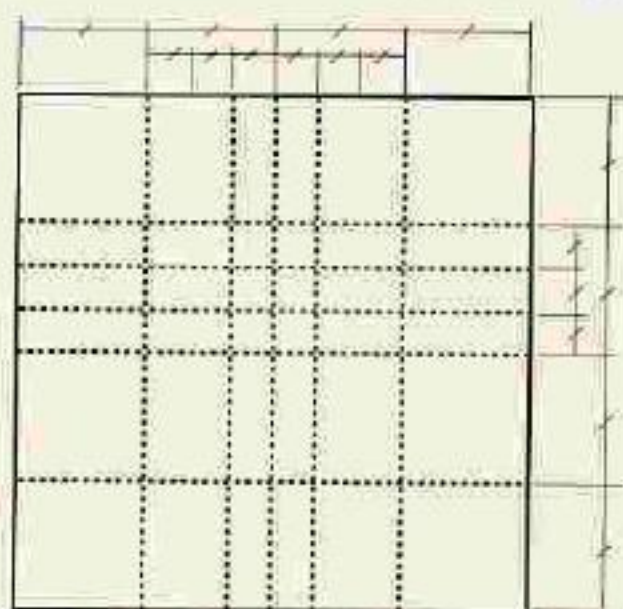


図1

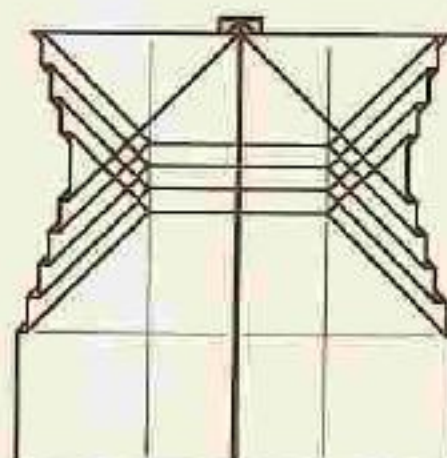


図2

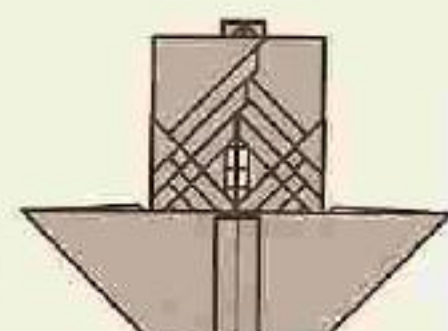
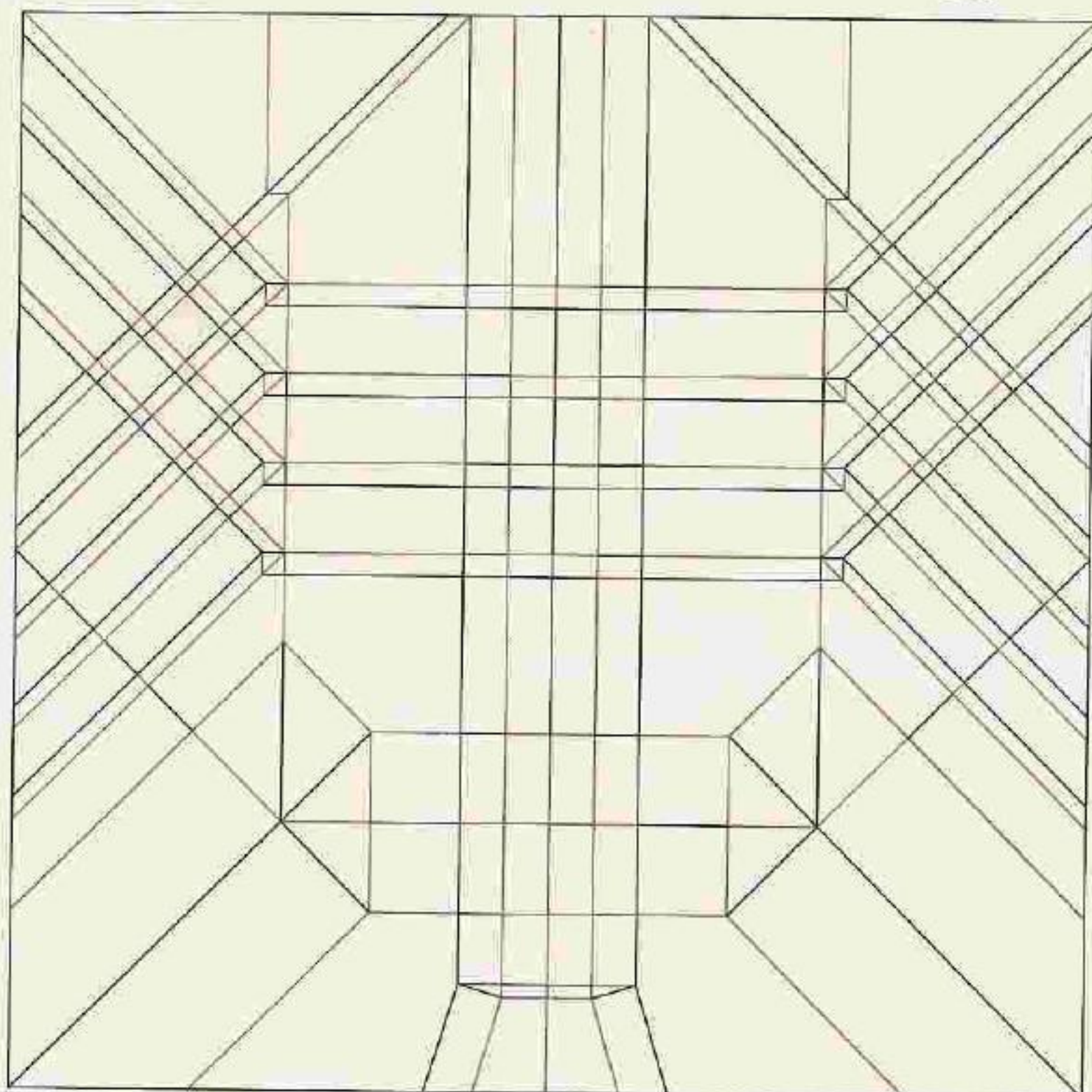


図3



Rabbit Ear つまみおり Information

折紙探偵団名古屋 コンベンション大好評！

▼全体会

報告・水野 健



愛知万博に引き続き、名古屋コンベンションまで開かれてしまうとは！名古屋圏に暮らす者にとって、今年はイベント尽くしの年ですね！実は、会場の名古屋芸術大学は、名古屋市でなく愛知県西春日井郡。これまでのコンベンション会場でもっとも田舎だったのではないのでしょうか？最寄り駅から1.2kmという場所ながら、予想以上の盛況振りでした。最初は、歩く距離が長くて、途中であきらめてしまう人がいるんじゃないかなあ？なんて心配までしてましたよ。

◆始まってしまった

うわあー！とうとう始まってしまったよー！そんな気持ちで迎えたコンベンションは初めてでした。主催側として準備のお手伝いをさせていただきましたが、コンベンションを行うことは、とても大変な事だと思い知りました。前日になってから、「アレもまだ作ってない!」、「あ、これも忘れてた!」などとバタバタしている内に、当日の朝を迎えました。会場に着いても、まだ準備していないものがあって印刷かけている始末…。ひとしきり落ち着いた頃には、安心して眠ってしまいました(すみません!)

◆大学側の厚意に感謝

名古屋芸術大学という何だか凄い場所での開催。いやホント!芸大でコンベンションっていう事実が凄い!って思いました。

初日の全体会では名古屋芸術大学学長の大島俊三氏から温かいお言葉を頂きました。続いて島貫博氏(名古屋大学大学院)の「折り紙におけるコンピュータ支援」というとても興味深い講演がありました。



▲「折り紙におけるコンピュータ支援」を講演する島貫博氏



▲全体会のはじめに、名古屋芸術大学学長大島俊三氏から、折り紙を理解して下さるお祝いのご挨拶を頂く



▶懇親会では学部長の神戸峰男教授が出張先から急ぎを駆けつけてくださった



▲コブタ 水野健・作

▶フェニックス S.S. 神谷哲史・作



▲賑わう折紙作品展示場

▶ウデムシ 勝田恭平・作



◆賑わう作品展示

無料で一般公開された展示室には、惜しげもなく「暫」(作:北條高史)と「龍神」(作:神谷哲史)が背中合わせに置かれていました。

2日目にはニュースでTV放映されたのを見て来られた方がいらっしゃいました。「TV見て来たんですが…」、「うわあー、すげえー!」、こんな声を聞くと顔が緩んで対応していた気がします。ついつい作品に手が伸びる子供たち。「作品には触らないでね!」と言いながらも心の内でニンマリしている自分がいました。地方の者には、2日間だけ「ギャラリーおりがみはうす」がやってきたような素晴らしい空間でした。展示会場設置中にも、芸大の生徒が物珍しそうに「あ、まだでしたか…」って、チラチラ覗きに來たりしてました(苦笑)。2日目の午後になると、ああ、もう1日くらいあっても良いのに~と思ってしまうほど楽しかったです。

◆名古屋に折り紙関係者が集まっている！

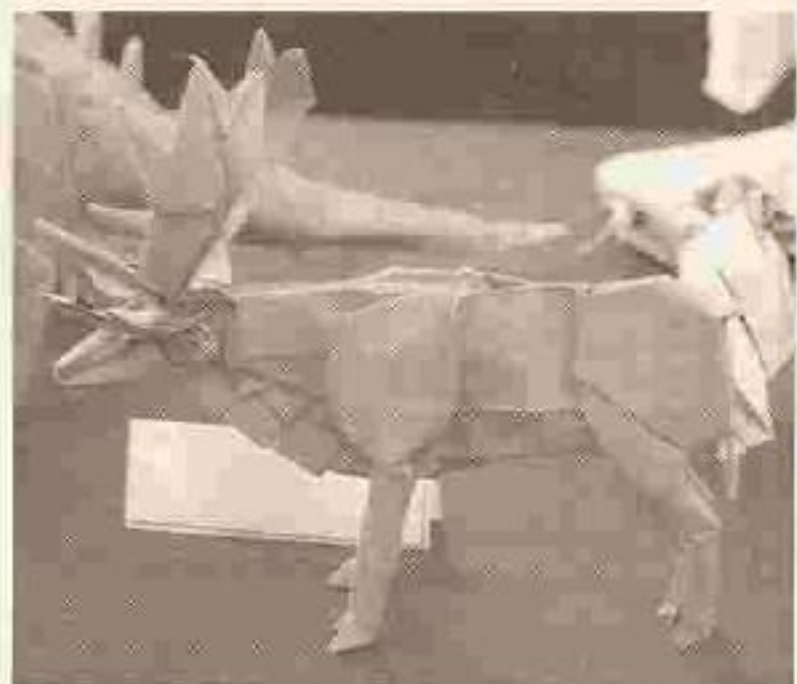
地元名古屋の折り紙好きな方々でも、初めてコンベンションに参加という方々も多く、「近所にもこんなに(ディープな)折り紙を愛する人がいたんだなあ」と感慨に耽ってしまいました。しばらくは会場内をうろろと歩き回って、その空気を楽しみました。関東・関西方面からの強力な講師陣により、講習は充実していました。懇親会も160人程の参加者の内、90名以上が集うという盛況ぶりでした。2日目にはコンプレックス好きが、田中ネコか神谷フェニックスかと選択を迫られる場面も！ その反面、講師も初心者、受ける側も初心者という場所もあり、初コンベンションならではの？という状況も見られました。僕も講習させてもらったのですが、前列のオバちゃんから「私、こんなところ来たの初めてよ～」と言われました。「大丈夫ですって！」よくわからない自信で返事してましたが、僕も(皆も)初めてでしたから…。

準備期間から参加したのは初めてでしたが、いかに大変か、いかに楽しいか、ハラハラドキドキ感を存分に味わいました。この経験で、他所のコンベンションに赴く心構えが変わりそうです。今回、コンベンション開催の為に急造された東海友の会ですが、会が出来ちゃったんですから、これからは例会やら増員やら…中部圏に一大勢力を築きあげなくちゃいけません！(苦笑)

何だかお楽しみは、まだまだ終わりそうにありません。



◆懇親会では川畑文昭氏によるクラシックギター演奏が披露された



トナカイ 川畑文昭・作



▲20年ぶりに再会した西田シャトナー氏(中央)と盛り上がる世浪健氏(左)と西川誠司氏(右)



◆本誌今号にクローズアップで登場の伊藤俊介氏も参加した



◆折り紙よろず相談所を担当した北條高史氏

▶新世代の初遠征



▶最後にスタッフの皆さんを紹介お疲れさまでした



▲神戸の立石浩一氏(右、関西コンベンション担当)と談笑する筆者

▶アヒル 宮川剛・作



▶ケルベロス 神谷哲史・作



▶作品を交換してお互いに感激している西田シャトナー氏と宮島登氏



◆名前が同じで意気投合している前川さんと霞さん



▶コンベンションボランティアスタッフ全会場制覇の中村和也氏(教室受付係)





熊坂浩氏ご逝去 (日本折紙協会常任理事)

熊坂浩氏(写真)が10月13日に肺癌のため逝去されました。79才でした。

近年はあまりお付き合いはなかったのですが、私が若い頃(日本折紙協会事務局職員の頃)にはずいぶんと楽しい時間を過ごさせてもらいました。ご自分の作品にはこだわりを持っていて、常に若々しい作品を創り出していたことを思い出します。

熊坂氏は昭和51年に雑誌『おりがみ』の読者の作品を紹介するページ「応募と添削」に応募したのがきっかけで日本折紙協会の役員(常任理事)になった変わり種でした。

そのことを取り上げた号(『おりがみ』通巻

8号)の誌上で、熊坂さんの生活信条というものが紹介されていました。それは、「書斎に折り紙は飾らない。登校時の車中では折り紙のことを考えない」。なぜなら「書斎で折り紙のことを考えると仕事ができなくなり、車中で折り紙のことを考えると降りる駅を通り過ぎてしまう」からだそうです。本当に折り紙が好きでたまらない熊坂さんの心を素直に表した言葉だなと思ったものです。

熊坂さんには学園紛争(当時、神奈川大学教授)の頃など、誌上では書けないような(決して悪いことではありません)数多くのエピソードもありました。

最後まで若々しい作風で折り紙ファンを楽しませてくれた熊坂さんに、哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈りします。

(やまぐち 真)

◆Pacific Coast OrigamiUSA Conference

三年に一度開かれるPCOC 2005(Pacific Coast OrigamiUSA Conference)のコンベンションが9月30日から3日間アリゾナのPhoenixで開かれた。PCOCはOUSA NY Conventionの地方大会。規模はやや小さめであるが、運営するOUSAの役員の他に地元のボランティアがきめの細かい気遣いをしてくれるのも地方コンベンションらしい温もりを感じる。PCOCのコンベンションは毎回のように場所が変わる。前回はサンディエゴで開催され、今回はカナダのバンクーバーに場所を移して開催される予定である。



▲スペシャルゲストのジョン・モンロー氏(右)とロバート・ラング氏(中)、OUSAのジャン・ポーリッシュ氏

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=文京シビックセンター/参加費=300円(中学生以下100円)/講習会=14:00~
/研究会=16:00~

●12月3日(土)/地下3階消費生活センター・研修室A・B/今回は特定講師なしの茶話会

●1月7日(土)/地下2階生涯学習センター・学習室/講師:未定/作品:未定



2005 Models by Bernie Peyton

▲Bernie Peyton 氏の2005 モデルの「熊」

▼同じくBernie Peyton 氏の「Owls」



関西友の会

●12月11日(日)/会場=長岡京市産業文化会館3階第二会議室/14:00~17:00/参加費=500円(子供は無料)/講師:塩崎照世/作品:クリスマスツリー(山口真作)他

静岡友の会

●12月11日(日)・1月15日(日) 会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円/時間=10:30~12:00/問い合わせ:054-254-4541(増武内 山口16~20時)

第7回折紙探偵団 関西コンベンション

第7回折紙探偵団関西コンベンションが以下の予定で開催されます。

日:2006年5月3日(水)・4日(木)(祝日)
場所:神戸女学院大学文学館(兵庫県西宮市(大阪と神戸の中間くらい))にて行われます。昨年度までと場所が異なりますのでご注意ください。詳細は関西友の会のお知らせを送っている方には追って封書にていたします。また、ウェブ上でも、代表立石の個人ページ:<http://tatekoo.sakura.ne.jp/xoops/html>上に、申込用紙等をダウンロード可能な形で掲載します。また、本誌上でも追ってお知らせいたしますので、ご安心下さい。

ORIGAMI CALENDAR

OrigamiUSAが監修する2006折り紙カレンダーが出版された。内外の折紙作家の作品が写真で紹介されている。2,000円(税込)送料420円で、おりがみはうすでも販売する(30部限定)。在庫有無を確かめて注文してください。お問い合わせはおりがみはうすまで。



編集後記

■名古屋コンベンションが終わった。■コンベンションが終わると、始まるまでと開催中の緊張感が解けしばらくは脱力感を引きずる。■これが後遺症となって何か無いかを捜す。■そうだ韓国に行くんだ。■観光のつもりだったのが現地では何人かにお会いすることになった。■新しい折り紙の組織からは是非とか。■摺紙戦士とも会うかな。(山)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2005年11月25日発行 第16巻4号通巻94号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

観読/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.94 / Published on 25, November 2005 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Shachihoko" Produced by Kawahata Fumiaki / Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

※このページの商品の取扱いはいすべて おりがみはうす です。日本折紙学会とは別になります。

広告のコーナー

I ♥ ORIGAMI

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



今年も出ました。好評発売中!

折紙探偵団 折り図集vol.11

日本折紙学会 編/2,000円/送料420円
B5判/全256頁

世界から集まった60作品を収録
スレイブニル:神谷哲史、金剛力士像の基本形:北條高史、
ポニー:小松英夫、ウェアウルフ:ジェイソン・クー、パッタ:
ロバート・J・ラング、ピラミッドBOX:布施知子、ふろしきキュー:
ブ・川村みゆき、風の種:川崎敏和ほか

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 スーパーコンプレックス おりがみ 吉野一生 著	2,900円		B5判/全200頁/カラー口絵8頁 トリケルトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
第10回折紙探偵団 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第9回折紙探偵団 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第8回折紙探偵団 折り図集vol.8 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録
第7回折紙探偵団 折り図集vol.7 在庫の有無を お問い合わせください	2,000円		B5判/全256頁 国内・外の創作家の秀作51作品を収録

※第1回~第6回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

書籍複数冊の 送料ご案内	書籍2冊の送料は530円になります。(同じ書籍2冊でも同様)	例 外	「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合 (例:折り図集8、9と色紙百花各1冊)のみ530円です
	書籍3冊の送料は670円になります。(例外を除く・右記参照)		

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容	『折紙探偵団』専用ファイル
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 花だより 30cm判	490円	国内一律 1~3セット 440円※	30×30cm/16枚入(2色×8枚) 桜柄の春らしい色調 ※和紙ではありません	
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 木の葉 30cm判	490円		30×30cm/16枚入(4色×4枚) 葉っぱをモチーフにしたシックな柄 ※和紙ではありません	
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷	
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 3種類から 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)	変形B5判/箔押しロゴ入/雑誌 「折紙探偵団」1年分(6冊)収録用 1冊750円 送料: 1冊250円(合計1,000円) 2冊350円(合計1,850円) 3冊470円(合計2,720円) ※ファイルは定形外郵便で発送しております (書籍・紙とは別発送になります) 送料には梱包材代が含まれています

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。
送料には梱包材代が含まれています

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集
北條高史作品集/北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品の申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2006年1月25日

豪華金箔調

おりがみ

表は金箔調で、裏が赤や緑の
豪華な和風のおりがみです。
ちよつとしたおしやれな
おもてなしにいかがでしょう。



¥300
豪華金箔調おりがみ
(15.0) 金/赤



¥400
豪華金箔調おりがみ
(17.6) 金/赤



¥500
豪華金箔調おりがみ
(24.0) 金/赤



¥300
豪華金箔調おりがみ
(15.0) 金/緑



¥400
豪華金箔調おりがみ
(17.6) 金/緑



¥500
豪華金箔調おりがみ
(24.0) 金/緑

 **株式会社トヨー**
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の食品とは色は違う場合があります。※内容・デザインは一部変更になることがございます。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所

日本折紙学会発行 定価 635円 (本体605円)

18060126
€16.20